

Our Music わたくしたちの音楽

227

2001 Autumn

社団法人
全日本ピアノ指導者協会

PTNA

The Piano Teachers' National Association of Japan,
Incorporated by the Japanese Government



Dan Zhaoyi

特集1

国際舞台につながる基礎を築くには
ジュニア世代の指導法を探る

【特別対談】 Jr.ジーナ・バックアウワー国際コンクールを視察して
【インタビュー】 種田直之（エトリンゲン国際コンクール主宰）／ヴィクトール・マカロフ（オーストリア音楽院ピアノ科教授）／
江崎光世（ピアノ指導者）／関孝弘（ピアニスト）他

特集2

ピティナ・ピアノ指導セミナーVol.16
初級指導のためのノウハウ

国谷尊之／菊池眞子／樹原涼子／丸山京子

かけがえのない思い出に！
未来へのチャレンジのために！

2001年10月22日(月)より発売

http://www.to-on.com/shop

各賞受賞者の演奏・表彰式の様子を取録。

第25回ピティナピアノコンペティション 入賞者ビデオ【発売期間限定2002年2月20日まで】

全国決勝大会 2001年8月24日(金)～8月27日(月)
表彰式：8月28日(火) 帝国ホテル

- 第1巻
A2級(全国決勝大会優秀賞)
デュオ部門(優秀賞ならびに最優秀賞)
- 第2巻
A1級・C級(金・銀・銅賞)
- 第3巻
B級・D級(金・銀・銅賞)
- 第4巻
E級・F級(金・銀・銅賞)
- 第5巻
G級(銀賞)特級(グランプリ)

※内容には一部変更が出ることもあります。



定価○各巻とも1本6,000円
ピティナ会員価格○5,000円
全国どちらでも・何本でも 送料○一律600円

ご注文は・・・郵便局の青色の振替用紙または
ホームページ <http://www.to-on.com/shop> から！

記入例

払込取扱票		払込票兼受領証	
口座番号 (右詰めに記入ください)	金額	口座番号 (右詰めに記入ください)	金額
00110625889	¥15600	00110625889	¥15600
加入者名 株式会社 東音企画	特別 振替	加入者名 (株) 東音企画	特別 振替
2001入賞者ビデオ 第1巻 A2級デュオ 5,000円 第2巻 A1.C 5,000円 第5巻 G.特 5,000円 送料 600円 合計 15,600円		口座番号 00110-6-25889 加入者名 株式会社東音企画	
指替会員 No. 1970XA	170-0002	東都豊島区東鴨 1-15-1 東音光太郎	東音光太郎
東都豊島区東鴨 1-15-1 東音光太郎	03-3944-1581	受付局日附印	受付局日附印

口座番号:00110-6-25889
加入者名:株式会社東音企画

本数、送料を含めた
合計金額を明記ください。

会員割引をご利用の方は、
ピティナ会員種別と会員番号を。

お申込日から商品が
お手元に届くまで10日
ほどかかることもあります。
どうぞご了承ください。



写真) ショパン・スケルツォ徹底研究講座にて、左より通訳の田嶋みどり氏、受講生の倉沢華さん、ダン・シャナイア教授

- ショパン スケルツォ徹底研究講座
- 第13回全国生涯学習フェスティバル まなびピアノ山形2001
- 「ピアノライフ」誌秋の号発刊
- アンサンブルワークショップ
- ピティナ・ピアノ指導セミナーvol.16

2001年8月～10月

REPLAY

Our Music Autumn

お問い合わせ 〒170-0002 東京都豊島区東鴨1-15-1 株式会社東音企画 入賞者ビデオ係
TEL:03-3944-1581 FAX:03-3944-2130 E-mail:kura@piano.or.jp URL <http://www.to-on.com/shop>

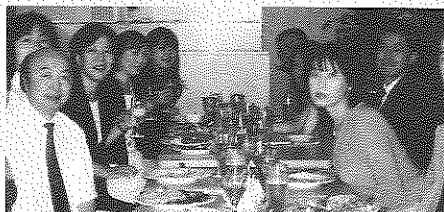


ショパン スケルツォ徹底研究講座を開催

～ダン・シャオイー先生をお迎えして～



8月29日(水)ダン・シャオイー先生を迎えて、ショパン スケルツォ徹底研究講座を開催した。リー・ユンディ氏の恩師であるダン先生は、今年度ピティナ・ピアノコンペティション審査のためにご来日。ショパン演奏の最高峰を生み出したその指導法に、注目が集まった。このシリーズはクラシック専門TV「ク



左) 講座中のダン先生。受講生は第2番を弾いた田村響君。
右) 終演後、演奏研究委員の先生方と打ち上げ。

ラシカ・ジャパン」で10月5日20:00より30分にわたって放映された。

<今回の受講生>

- 第1番: 野牧愛さん (2000年度F級銅賞他)
- 第2番: 田村響さん (同年度G級金賞他)
- 第3番: 秋田悠一郎さん (同年度E級ベスト賞他)
- 第4番: 倉沢華さん (1994年度E級金賞)

ショパン スケルツォ全曲徹底研究をふりかえって

ここ数年ご好評のこのシリーズ、今年のはあのリー・ユンディの恩師ダン・シャオイー先生をお迎えしました。

すでにリー・ユンディ、サ・チェンなどダン先生門下の演奏に触れていた私達としてはその指導の真髓の一端でも、と臨んだ講座で、例年通り受講生にはピティナ・ピアノコンペティションで入賞経験のある方々のご協力をお願いし質の高いレッスンを目指しました。

レッスンの進め方としては、スケルツォというジャンルの説明、一般的な用語説明ではなくショパンにおけるスケルツォの意味合いなどをお話いただき、全体のイメージの理解を深めてから個々の細部のレッスンに入っていくやり方でした。

内容は私たちが想像するレッスンと表面上とりたてて大きな相違はなく、全体の中でのそのパッセージの位置付け、個々の音型から想起されるイメージを説明して演奏者のインスピレーションを引き

出す部分もあれば、また強調すべきメロディーラインの提示・ディナーミク、アゴーギグに対するかなり具体的な指示(周囲の部分との音のバランス、アツチェランドの指示など)によって、そのインスピレーションを如何に実際の表現に結びつけるかという側面も巧みに織り交ぜられたものでした。

最初にお会いした時の印象から非常に温厚なダン先生ですが、レッスンが進むにつれ、だんだんと顔を上気させ、聴いている私たちにその熱っぽさがどんどん迫ってきました。レッスンはもちろん中国語でしたが(通訳付)、先生の口調や仕草を拝見するだけで、かなり突っ込んだ内容まで理解できました。特に腕や筋肉の使い方については先生ご自身手振り身振りも交えてお話いただき、先生の「指導の秘密」のエッセンスを覗かせていただいた気がします。お話も決して奇をてらった内容ではないのですが、例えば似通った音型が何度も現れるような場面において、「こ

れはまだ迷っている部分」「これは決意を固めたところ」「そしてこれは次へのきっかけ」など私達が漠然と感じている事を非常に整理して表現していただき、大きく肯ける部分が多かったと思います。

毎年すばらしい先生にお越し頂き、そのレッスンの真髓とともに優れたお人柄も感じられるこの講座ですが、来年は8月28日に浜松国際コンクール(2000年)優勝者アレキサンダー・ガブリリェクの師、ヴィクトール・マカロフ先生をお迎えし、「ショパンの練習曲作品10」を題材として取り上げたいと思います。どうぞお楽しみに。

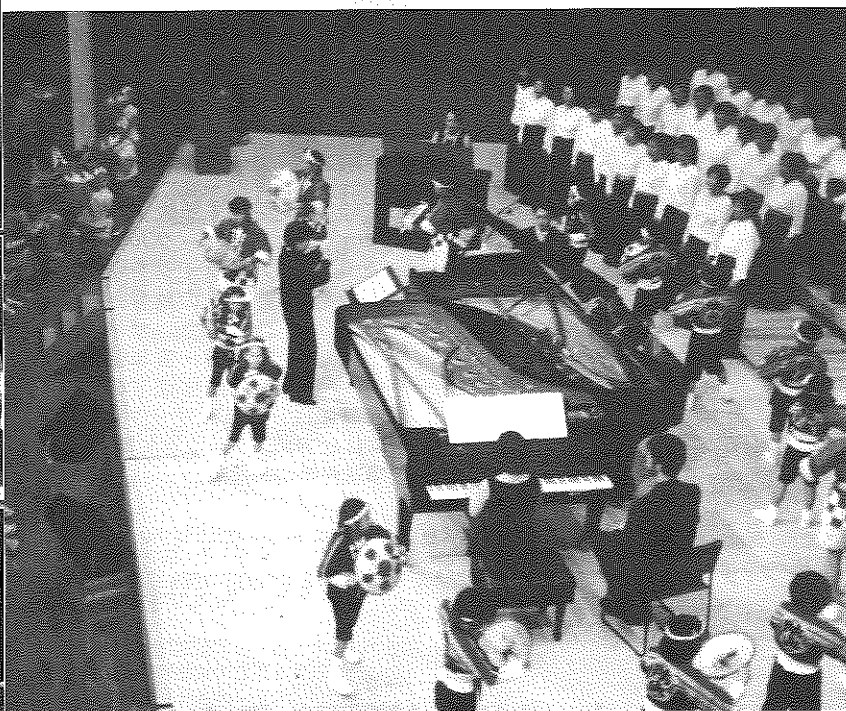
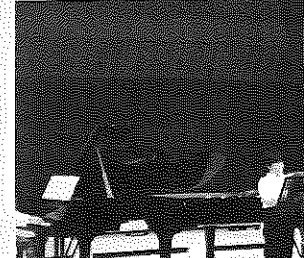
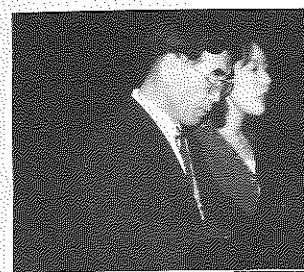
また今回会場のキャパシティを越えるお客様にご来場いただき、皆様には色々ご迷惑をおかけいたしました。この場を借りておわび申し上げます。どうぞ来年の講座もご期待下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

(演奏研究委員長 杉本安子)



「ピアノであそぼうコンサート」開催

～第13回全国生涯学習フェスティバル まなびピアノ山形2001～



10月14日(日)、山形市にて「ピアノであそぼうコンサート」(山形テルサ大ホール)が575名の聴衆を集めて開催された。今年で13回目を迎える「まなびピアノ」にピティナとして参加し、山形連絡所が企画・運営した(実行委員長・伊達華子)。ピアノアンサンブルを中心としつつ、合唱・管楽器・踊り手と共演させる、企画力の光るステージとなった。フィナーレを締めくくった「Let's HANAGASA」では、2台ピアノ・電子オルガン・合唱の奏でる花笠音頭に乗って幼児からシニアまでが踊り、会場からの手拍子で締められた。ピアノアンサンブルの出演者6組はいずれも県下で公募、ピアノコンチェルトの2台ピアノ演奏者は2名とも、ピティナ・ピアノコンペティションアカデミック部門、アミューズ部門の入賞者。

文部科学省と地方自治体の共催で開催される「まなびピアノ」は、このあと2002年石川県、2003年沖縄県、2004年愛媛県にて実施予定。

上) フィナーレ「Let's HANAGASA」木村政巳氏編曲の「花笠音頭」に乗って、場内を花笠の踊り手が埋めた。
左) オープニング「秋の足音」。ピアノ伴奏にのって子供達のハンドベルで幕が開いた。「もういいかい」の掛け声が会場に響く。(出演:ハンドベルキラキラ会)中央) 60歳を超えてピアノを始めたという須磨信吾さん(63歳)と小松久美子先生のデュオ。プラムス「ワルツ」。
右) トランペット(荒木優太さん11歳)と2台ピアノでベートーヴェン「レットイットビー」を。ピアノは須藤昌亮さん(22歳)、宮原聡さん(21歳)。



下) コンサートを企画・運営された第13回まなびピアノ山形実行委員会の先生方。(写真左)より武田紀代美、杉本玲子、志鎌綾子、富樫さち子、林典男、菅野清香、伊達華子(委員長)、庄子香代子、小松久美子、橋史恵、小林路子(敬称略)



ピアノライフ誌秋号発行・ アンサンブルワークショップ開催

～大人のピアノ指導のために～



ピアノライフ 秋号発行

「おとな」のピアノ生徒の活躍や実年ピアノ指導のニュースをお届けする大人のピアノサークル「ピアノライフ」会報誌。その秋号が発行された。サークル会員・実年講師養成講座修了の指導者等に送られる。サークル会員にはピアノステップ参加割引、要項送付等の特典も。

【写真】

2001.8.18 大人のピアノ指導のために～アンサンブルワークショップ（さいたま市民会館うらわホール）にて実際にキーボードアンサンブルに参加・体験された受講の先生方。

アンサンブルワークショ ップ開催

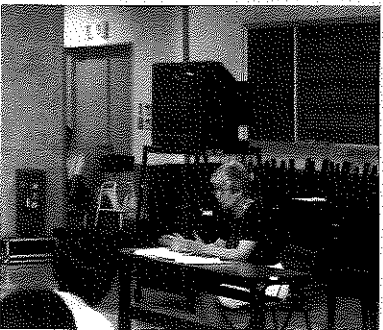
8月18日（土）さいたま市民会館浦和にて、アンサンブルワークショップが開催されました。（企画・ピアノライフ委員会）

おとなのピアノ指導には欠かせない「アンサンブル」。この指導法を学ぶため、協奏曲体験会会場に8名の先生方が集まりました。実際にキーボードオーケストラの練習に参加しながらキーボードアンサンブルの譜分けの仕組み、楽器の扱いなどを講習。最後には保坂千里先生より、出来たばかりのアンサンブル譜のプレゼントがありました。



ピティナ・ピアノ指導セミナーvol.16開催される

～初級指導のためのノウハウ～



去る9月15日（土）、東邦音楽大学にてピティナ・ピアノ指導セミナーVol.16が開催され、朝早くから大勢の勉強熱心な先生方で会場がにぎわった。

今回は指導法や奏法、ソルフェージュ、教材に至るまで、4名の講師陣による幅広い内容の講義が展開し、ピアノ初級指導のエッセンスともいえるヒントがちりばめられた密度の濃いセミナーとなった。なおこの講義の内容は、本誌特集2でご紹介する。

左上) 第一講座：國谷尊之先生「指導における『言葉』の役割」ユーモアをたっぷり交えて。

左下) 第二講座：菊池質子先生「感覚的な耳を育てるために」どのようにしたら自然なリズム感やノリがつかぬのか。幼少期からの環境作りにも触れる。

右上) 第三講座：樹原涼子先生「初歩のレッスンで伝えるべきこと」ミュージックデータなどを使用し、楽しい講義。

右下) 第四講座：丸山京子先生「教材選びのヒントはどこに？」充実した資料



ダン・シャオイー

Dan Zhaoyi
シンセン芸術学校教授

Our Music

特集1

国際舞台につながる基礎を築くには ジュニア世代の指導法を探る

- 10 特別対談「Jr.ジーナ・バックアウター国際コンクールを視察して」
武田真理・江夏範明・諫山隆美
- 14 ピティナ・ピアノコンペティション入賞者アンケート
ピティナ指導者アンケート
- 18 インタビュー：
江崎光世／関孝弘／ヴィクトール・マカロフ／
種田直之／渡辺泉／杉本安子
- 25 ジュニア国際コンクール一覧

特集2

ピティナ・ピアノ指導セミナーVol.16 初級指導のノウハウ

- 26 國谷尊之「指導における『言葉』の役割」
- 32 菊池質子「感覚的な耳を育てるために」
- 36 樹原涼子「初歩のレッスンで伝えるべきこと」
- 39 丸山京子「教材選びのヒントはどこに？」
- 8 巻頭随筆／稲垣千賀子「ピアノを教えて、教えられて」
- 42 音大トップインタビュー (13)／平成音楽大学・出田敏三学長
- 44 国際舞台で活躍するピティナ指導者 (10)／中田元子
- 46 入賞までの軌跡を語る (9)／佐藤展子
- 48 ピティナっ子レポート／古川まりこ
- 50 アンサンブルの魅力 (2)
- 52 支部を訪ねて／甲府支部
- 54 ポピュラー講座 (12)／佐土原知子
- 58 作曲家研究 (20)／久元祐子
- 98 事務局長インタビュー「一流に学ぶ」(新)／日経ビジネス編集長・野村裕知氏
- 102 和音調子のひとりごと／「美味」

連載

トピックス

- 3 REPLAY
- 64 会員優待チケット案内
- 66 会員出演コンサート情報
- 90 ピティナNews
- 101 北から南から

お知らせ

- 表2 ピティナ・ピアノコンペティション入賞者ビデオ
- 76 2001コンペ コンチェルト部門案内
- 77 紀要論文募集案内
- 78 アンサンブル研修会&オーディションご案内
- 80 ピティナ・ピアノステップ
- 82 英国王立音楽検定 (ABRSM) 秋季検定
- 84 王子賞受賞披露演奏会
- 85 日本フィルサンデーコンサート案内
- 86 コンペティション入賞者記念演奏会
- 88 英国王立音楽大学 (RCM) 留学生募集
- 89 ピティナ・ワールドフェスティバル

広告

- 表3 全日本空輸株式会社
- 表4 ヤマハ株式会社
- 61 株式会社アコースティックエンジニアリング
- 62 株式会社イトーシンミュージック
- 66 ヤマハ株式会社
- 69 スタインウェイ・ジャパン株式会社
- 69 株式会社松尾楽器商会
- 70 株式会社河合楽器製作所
- 71 学校法人東邦音楽大学
- 72 学校法人洗足学園
- 73 学校法人作陽学園
- 74 東京防音株式会社

ジュニア世代の指導法を探る

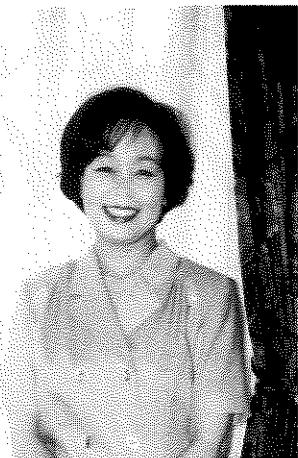
特集1

巻頭随筆

ピアノを教えて、
教えられて

稲垣 千賀子先生

ピティナ地区代表評議員



先日、三十回目の「みんなでつくろう音の世界」と題した発表会を終えました。その最後の舞台上での挨拶で「私の指導法はこれでいいのかというところと考える時もありますが、私が一番音楽を愛して、一番子供達を慈しめば、いろんな問題も解決するのではないかと思います。」と、お話をさせて頂きました。とてもキザな言葉のようですが、若い頃より子供達が上達してほしいと思えば、自分がまず勉強すること。子供達一人一人は自分に与えられた自分を試す題材。手間のかかる子供であればある程「あなたはこの子から何を学ぶのか、この子をどういう風に対処していくのか見せてもらいましょう」と、どこからか声が聞こえてくるようで、自分をふるい立たせてもらったものでした。

各地の講座に行かせて頂いた時、また若い先生方にお会いした時など「今は先生を選んでもらえるいい時代よね、勉強しなくてね。」とよくお声をかけを致します。昔は子供達の数も多く、ピアノの先生も捜さなくてはならない程でしたが、今は一筋に何軒もピアノ教室の看板があります。だからこそ「この先生」と言われる勉強が大切なのです。そういう意味で、私はピティナに出会えて本当に幸せでした。

ほんの限られた世界だけのものであったピアノのおけいこが、一種社会性を帯びるまでに大きな広がりを見せている今、指導者や父兄の皆さんは、どうすれば子供達が楽しみつつ上達をしていくことができるか、今こそ考える時ではないでしょうか。

本当にピアノを楽しむとは、自分なりに表情豊かに、自分の思い通りの音が出せた時だと思います。やっと弾いていたのではなかなか表現力まではいきません。読譜と指を動かすことだけで精いっぱい、全く音楽性不在の演奏になってしまう人は決して少なくありません。フレーズに命があることを知り、心をこめて弾くことの積み重ねが、楽しみにつなが

っていくことだと信じています。鍵盤の上で音がじゃれ合えるような、又らくがきを楽しむような気楽さでピアノとなれ親しめば、もっといろいろなイメージが膨らんでいくのではないのでしょうか。

日頃、子供達が接している現実と幻想の世界は、私たち大人の側から想像するよりもっと豊かなものを持っているようです。子供達と一緒にピアノに親しんで音楽の情緒的、知的、技術的な各要素をごく自然に体得してほしいというのが私の欲張った願いです。

また以前どなたからお教え頂いたことがあります。長い間このコンペティションを通して感じてきたこととして、次の4点が小さな子供達に大変役立っていることをお伝えさせていただきます。

1. 最初から広い音域を用いたレッスンが出来ること。
2. いろいろな調や旋法、臨時記号等に早くからなじむことが出来ること。
3. 機械的な練習を避け、楽しみながら曲を弾く中で技術的な面も自然に習得出来ること。
4. 最初から発想記号をつけて自分の弾いている音に耳を傾けることが出来ること。

「継続は力なり」とよく子供達にも申しますが、私たち指導者もまた、継続してレッスンを続けているうちに、いろいろな力を授かることを身にしみております。

ピアノ指導歴約30年。どんなにたくさんの方々からお力を頂いたことでしょう。それをどのように子供達に返していくことが出来るのか、考える日々です。ですが、やはり冒頭に申し上げましたとおり、私が一番音楽を愛して、私が一番子供達を慈しむことだと自分自身に論じている昨今でございます。

海外で活躍する人材は21世紀には欠かせない。政治・経済・スポーツ界など、昨今の日本人の活躍にはめざましいものがある。こうした発展成長の背景には、どのような下積みがあったのだろうか。

ピアノ業界もこれから海外で互角に渡り合っていくため、それにふさわしい人材を育成する必要があるだろう。それは単に演奏技術が優れているといった単一的な条件ではない。演奏は確立された個性や意志、経験に裏打ちされた自信がともなって始めて生きるものである。これまで様々な指導の試みがなされてきたが、ここで一度その方向性を確かめたいと思う。

今回の特集では、人間形成・能力形成上最も重要な時期とされるジュニア世代—ここでは義務教育期間中の小中学生とあえて定義させて頂く—に焦点をあて、その時期にどのような教育が必要なのかを考えてみたい。いうまでもなく、この世代は精神的にも肉体的にも過渡期にある。したがってその時期に受けた教育は、その後の将来を決定づけるものとなるだろう。

国内から国際への壁を破る瞬間。ジュニア世代だからこそ、その後の大きな意識変革につながる可能性を秘めている。

着実に基礎を築きながら、常に飛躍の瞬間を求める。そんなジュニア世代が増えることを期待したい。

菅野 恵理子

【問題提起編】

今世界で求められているジュニア指導法は？

特別対談「Jr. ジーナ・バックアウワー国際コンクールを視察して」

武田真理先生 (当協会評議員・東京音楽大学ピアノ科教授)
 江夏範明先生 (当協会正会員・ピアノ指導者)
 諫山隆美先生 (当協会正会員・音楽評論家)



2001年6月、米ユタ州ソルトレイクシティにて、ジーナ・バックアウワー国際コンクールジュニア部門が行われた(14-18歳対象)。同年1月に東京で開催された派遣者選考会を経て参加した野牧愛さん(2000年度コンペF級銅賞)に、指導者の武田真理先生、通訳の江夏範明先生、音楽評論家で当協会スタッフの諫山隆美の3名が随行した。この特別対談ではコンクールでの印象と、これからジュニア世代に要求される指導とは何なのかを探る。

自主性が発揮された子供たちの演奏

諫山：今回、ジーナ・バックアウワー国際コンクールをお聴きになられて、どんな感想をお持ちになりましたか？

武田：日本のコンクールでは、指を動かすためのトレーニングをたくさんやっている子がすごく多いのに比べて、楽譜の読み方、例えばその中で拍のとり方などをすごく自由に動かしている、それが自分の感じた方法だということを強く感じました。

江夏：その音楽が多少まづくても、自分というものを持っていますね。先生に言われたとおり弾いているという感じではないのですね。小さいときから自主性を重んじた教育を受けているのではないのでしょうか。日本人というのは先生の言うことを聞くということができますが、でもそれだけのことが多い。自分の考えはないのかと留学先の先生に言われ、習った通りに練習してきましたと言ったら、だから日本人は主張があまりないと言われたことがあります。

武田：確かに、しっかり学んだ上での主張が必要ですね。楽譜を見て様式感とか背景が解らなかつたらそれを勉強する、そういうことを研究する気持ち、勉強をいかに自分の中から広げていって、自分で音楽をつくらうというエネルギーが必要なんです。指導者がそういうことの必要性や、基本的な部分を説いていかなければいけないでしょうね。

芸術は総合力が必要だと思います。ピアノを演奏するには運動能力も必要になってくるし、頭脳プレイも必要に、そしてそ

れを総合して一つの楽曲に仕上げるのですが、メンタル面でも強くなきゃいけない。全てを備えている子というのはなかなかいないですね。

こうした練習は大変時間がかかりますが、自分の中でコントロールし、目的を感じて実行するならば苦痛ではないでしょう。出来ないときは苦しいけれども、できたとき、例えばバッハの素晴らしさとか、ベートーヴェンの素晴らしさとか一つ一つの音楽のすばらしさが見えてきて、そこで初めて表現できたり、自分の心を動かすことができるわけです。

そういうレベルの線上にいる子供たちが、ジーナ・バックアウワー国際コンクールではとても多かったというはすごく嬉しかったですね。世界から集まっているコンクールだと、感じさせられましたね。

小さいときも国際コンクールの準備段階

江夏：さらに、その前の段階、つまりこういうコンクールに参加するつもりで小さいときからピアノを勉強している人しか出ら

れないということも感じました。上手になってからこういう大きなコンクールに出てみようというのでは遅く、最初からこんな大きな舞台に出すことを前提に勉強を続けていかないと、この国際コンクールまでのレベルには到達出来ないというのが見えました。

武田：そういう時代が変わってきたということなのだと思います。小さいときからそこを妥協しないで、小さいからこの程度と甘んじるのではなくて、もっと徹底的に小さいときから教えていくべきなのでしょう。

本来の音楽に則った個性

武田：ただいい音で自分の感性だけで、ああ気持ちいいみたいな点だけを重視してもダメではないかと思うんです。

江夏：しかし、実際にはそういうお子さんは殆どいないのが、現状のような気がします。日本のコンクールで強く思うのは、ピティナもそうですが、楽譜に忠実に、作曲家の意志を汲み取るような演奏を心掛けるということを教える先生が少ないんじゃないかなと感じます。皆違うふうに弾くでしょう、そして、どの演奏が一番面白い合戦になってしまう。びっくり競争みたいに。

武田：本来の音楽を変えてしまうにも、いい変え方とだめな変え方があるわけなんですよ。ものすごくおかしいのがあるじゃないですか、でも、気がつかないの、本人が。楽譜に忠実にやるということも前提にものを考えてないから、どんどんおかしい世界に入っていくって思う。だから、それを表面的にやってみてという教え方はよくないと思う。もともとの作曲家の自分の曲を残したいという意志を無視している。

江夏：音とリズムだけ合っていれば表面に非常にこだわる、逆に表面以外はちょっと踏み込んだところを皆さんご存知ないんだと思います。そういう勉強は要求されないで来てしまった。

諫山：個性的と呼ばれるピアニスト、例えばアルゲリッチとか、変わってるって言われているけど、楽譜を見ながら聴くと、忠実なんですよ、テンポは速いですが。聴いてみるとすごく変わって聞こえますが、楽譜を開いて見ると、すごくそれを理解していることが解る。個性というのは、それを理解した上での話です。

江夏：そうじゃないところで個性というものが一人歩きしちゃうと、とんでもないことになってしまいますね。いい成績とりたいうから音楽を変えてしまうというのが、どうやら当たり前になってしまっているんですよ。何故そういうのを好きな人が多いのでしょうか？

意志の裏付けのある演奏

武田：そういう意味では、個性のあるピアニストはこのコンクールには多かったですね。まずいとか出来ないというのも含まれるけど、しかし、演奏に意志がある。楽譜に対する裏付けというのが自分の中できちんと出来てないと、自分の意志というのは音の中で動かせないので、そこは彼らは出来ていると思うんです。その中でも若い人がゆえに一方的な個性を出している人はすごく多かったです。それが面白かったし、そういう個性を出しながらも、ファイナルに残れなかった人もたくさんいますよね。むしろ、そのほうが多かったかもしれない。

江夏：コンクールというのはひとつの競技、闘いですよね。コンペティションだから、芸術性だけで競うのはすごく難しい、本

当にそれが一致して1位をとる人というのは、大きなコンクールの中でも数少ないと思うんですね。今回1位をとった子も、予選を聴いたときには、うまいとは思っても本当に心は動かされなかった。しかし3次は1次、2次よりワンランク上で、アピールが強い子だということは間違いなかったですね。精神的たくましさとか、ハングリー精神というものをあの韓国の女の子にすごく感じたんですよ。お腹が空いてるって感じだった。だからあれだけの技量というのがその中から生まれてきたんじゃないでしょうか。日本の子って裕福だから、お腹いっぱいなんですよ。でも、韓国の子はハングリーでそこが違うところでした。弾ける技量というのはそういうところから出てくるのかも知れませんか。

武田：妥協を許さない譜面の読み取り方と、響きを聴く自分の耳を育てることが重要なのです。音楽的必要性から生まれた技術ではないと、架空のものになってしまう。技術だけが独立して身につけて、後から感性をつけようと思っても、それはそれは逆に難しいことなんです。

江夏：そうですね。日本人の留学生の殆どは、テクニックはしっかりしていますが、そこに音楽が入らないから、そのあたりでうまく行かない場合が多いんですね。これは何故かという、音質なども同様ですが、欲しいという気持ちがないことに起因している。音楽力に結びついていないから、意識、欲求が非常に薄いんです。音楽性を小さいときから育てていかなければ、こういう状況に陥ってしまつて、先がないです。本来のもともとのスタイルというのは10歳のときと、20歳のときとそんなに大きく変わるものではないと思うんです。

武田：教材というかエチュード的なものを自分でやろうという欲求、必要性のようなものを常に本人に自覚させるような指導法は必要ですね。ハノンとかツェルニーももちろん大切だけど、必要性を感じて音をつくっていかないと先につながらないと思いますね。

江夏：その点ができていないまま20歳くらいのとき、外国行ってショック受けてピアノやめたとか、そういう例は多いですよ。小さいときの音楽に対する興味をどれだけ、音楽性に関して子供が興味を持つような教え方をしていないと、あとでだめになっちゃうのですね。

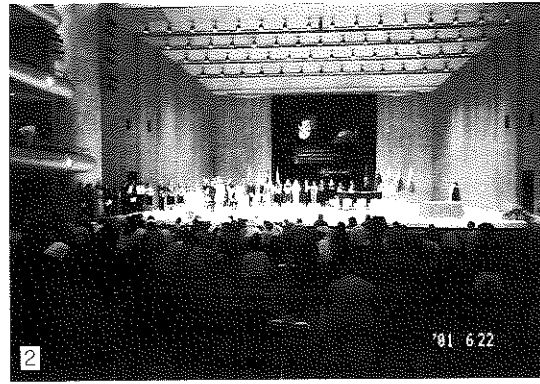
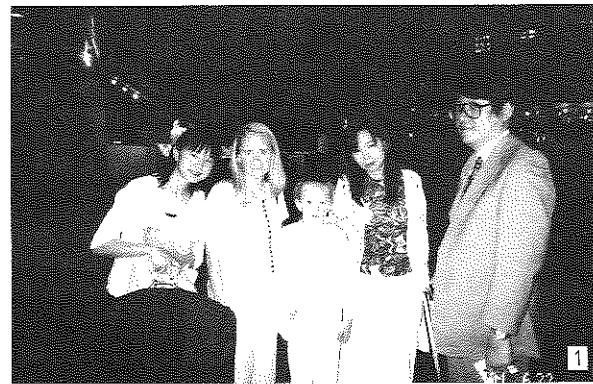
武田：歌わせるような意識を育てあげることが、例えば指をきっちりとかそういうことだけだと育たないと思う。言葉で説明するととても難しいのですが、脳の刺激とか音の動きに対して自分の意識が働くような、音というのはそうやって物語っているんだよと、喋るかわりに音で言っているわけだから、言葉で表現できないものを音で表現するということを、そういう深いものであるということを感じさせる必要性はあります。それには大変な根気がいるんですが。

ジーナ・バックアウワー国際コンクールで思ったことは、自分の音を聴かせてあげるねという意識の働いている人が

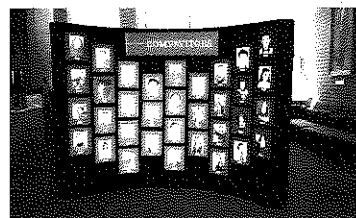
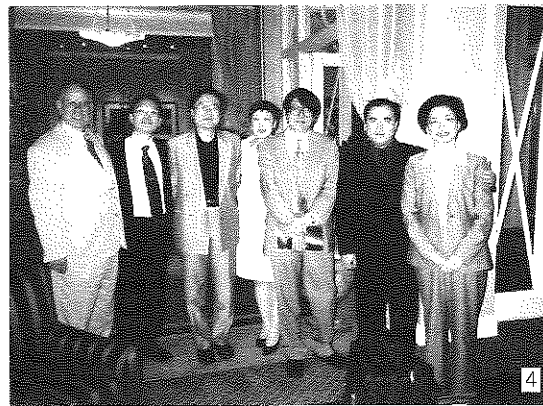
多かった。ピティナの特級を聴いても、聴かせてあげたいというふうには聴こえないときが多い、自分のために音を出しているというか。お客さんにどうですか、こんな音はというように話し掛けているような子が多かったから、説得力が全然違う。話し掛けるような音、ものを言うような音、それは小さいときに基礎が出来たのかも知れませんね。

**2002年度アーティスト部門
派遣者選考会 見学のご案内**

- 日時：2001年11月25日（日）
- 会場：東京音楽大学本館ホール
- 入場料：一般1500円 会員1000円
- 備考：合格者は、2002年6月ジーナ・バックアウワー国際コンクールアーティスト部門に参加できる。派遣者選考会は世界15都市で開催。



- 1) 野牧さんのホストファミリーと。会場には毎日のように応援に来てくれる。
- 2) 会場となったモーリス・アブラヴァネルホール
- 3) 第1位のキュー・ヨン・キム（韓国）。来年のピティナ・ワールドフェスティバルへの出演が決定している。
- 4) 主宰のポール・ボライ先生（左端）と。ジーナ・バックアウワーの活力の源である。
- 5) 休憩中にパソコンを覗く野牧さん。日本からメールでエールを送ってくれた方もいた。慣れない海外では何よりも心強い。

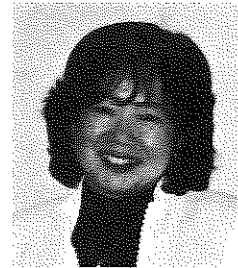


参加者一瞥パネル。

内から表現する喜びを得る

渡辺 泉先生（当協会正会員）

生徒とともに国際コンクールに随行し、一緒に体験することで指導力を磨いてきた渡辺泉先生。口で言ってもわからない空気感を実際に体験させるというのが、渡辺先生の信条である。それによって指導者もパワーアップするという。



国際コンクールに参加させる理由

いい音楽には空気（風）がともないます。空気には、匂いもあり色もある。技術面だけでなく、さまざまな香りと色を表情とともに伝えてくれる演奏を覚えて欲しいです。でもこれは口で言って想像させるだけではうまく伝えられません。そこで、海外のコンクールを経験させることで、自ら見聞を深めて頂こうと私は積極的に実践しているわけです。

国際コンクールには、レッスン中のヒントにすばやく反応して、それを自分のセンスで演奏に取りこむ事が的確に出来るレベルに達した時点で、挑戦させることを考えます。

実際に経験した生徒たちは、その後演奏が少しずつ変わってきました。演奏が「音を出すこと」でなく「内面を表現すること」がわかってきたこと。それにイメージの幅も広がってきたようで、自分で工夫して音に味をつけてくるのが上

手くなりました。

同時に、積極的に人と接する事の大切さを覚えてほしいです。日本では、何もしないでも自分の練習場所、本番、時間、どこで待つのか等、全部地図まで渡してくれます。しかし、外国ではまずありえません。自分の目で確かめる、あるいは人に聞かない限り、わからないのです。しかしきちんと聞くことができれば、とても親切に教えてくれます。（唯一、Jr.ジーナ・バックアウワー国際コンクールでは、事前に資料が頂けて、リハーサル時間、本番など何の心配もありませんでした）

反省を次に生かす

初めての国際コンクールではやはりいろいろと反省点がありました。それを踏まえて、次に向けてポイントを絞りながら準備をしています。

まずはレパートリーを増やす事。期間を決めて、PTNAのステップや発表会、自由曲のコンクールを利用し、舞台上で必ず弾く

経験をさせます。

次に、出来るだけ大きな曲を将来のために、少しずつ手掛ける事。国際コンクールでは大曲と言われる曲を体の大きい外国人は必ずプログラムに入れて来ます。意欲があれば必ず弾けるようになります。

そして、短期間でどんどん曲を仕上げる事。長期間練習していると、曲に対する新鮮さがなくなり、礼儀のない音楽になってしまうこともあります。期間を決めて次々と曲を完成させることで楽譜を早く読む訓練をして、国際コンクールに向けて大量のプログラムを楽にこなせるようにしたいと思っています。

いずれにせよ、海外でゆったり景色を見たり、食べたり、人と触れあったりしたことがプラスになっていると確信できます。まだ年齢が小さいので、結果に対してはあまりこだわりはありません。10代前半の感性の育つ、思いっきり挑戦できる時期に、コンクールを通して海外を見せるのはとても良いと思います。

◎生徒が出場した国際コンクール

- 2000 Jr. ジーナバックアウワー国際コンクール（アメリカ）
- 1997 第2回ホロヴィッツ記念国際ピアノコンクール（ウクライナ）
- 1999 サン・ノム・ラ・プロテッシュピアノコンクール（フランス）

- 2000 Jr. ジーナバックアウワー国際コンクール（アメリカ）
- 2001 第4回ユーロレジョン国際ピアノコンクール（フランス）

- *降旗真理子（当時12歳）／11歳～13歳部門・入選
- *樋上梨沙（当時10歳）／13歳以下の部門・優勝
- *酒井麻里（当時12歳）／中級・第一位
- *降旗真理子（当時12歳）／Higher部門・第1位、アラス市長賞
- *丹羽祥子（当時14歳）／Excellence部門・第2位（第1位該当者なし）、作曲者賞

指導者・入賞者アンケート

編集部では、「ジュニア世代の指導法」に関連するアンケートを、過去3回以上指導者賞を受賞したピアノ指導者266名、及び今年度ピティナ・ピアノコンペティションソロ部門B～F級入賞者77名（ベスト賞以上）を対象に実施した。

指導者に聞く！ 各年代別の生徒の指導について気を付けていることは？

第一期（小学校低学年頃）

●感覚の発育促進

- ・耳・音感の訓練（ソルフェージュ・和声）
- ・身体で感じる音楽の楽しさ、感覚を育てる
- ・脱力を覚えさせる

●ピアノの日常化

- ・練習の習慣付け

●基礎技術の習得

- ・基礎テクニック

第二期（小学校高学年頃）

●音楽に対する理解力を高める

- ・聴きながら弾く習慣
- ・4期の期別の奏法・様式感の把握
- ・質の高い音楽を聴くこと
- ・コンクールなどを通して1曲1曲を深く勉強させる
- ・アンサンブルなどの体験
- ・レパートリーの拡大発展
- ・楽典

●基礎技術の確立

- ・基礎技術を上級につなげるための練習
- ・バッハやエチュード
- ・読譜の強化

●自主性、精神力高める

- ・練習方法の効果と種類の研究
- ・作曲家への興味、自発的な選曲
- ・オリジナリティの追求
- ・他人の良い演奏を聞き取る
- ・国内外のコンクール参加・見学
- ・学校の勉強・部活・行事との両立⇒練習方法の工夫
- ・集中力・忍耐力の習得
- ・人間や自然について思考させる

第三期（中学生頃）

●より幅広い音楽学習へ

- ・エチュード、バッハ平均律、ソナタ、ロマン派大曲などの応用力をつける
- ・バランスよいレパートリー作り
- ・音創りに興味を持ち、ピアノの無限の可能性を知り、指だけでない音楽の表現・自分の表現を求める
- ・有名なコンクールの入賞者の演奏スタイルを聞かせて理解させる
- ・音楽上のさまざまな表現技術
- ・譜読みの速さ
- ・幅広い作曲家へ触れさせる（作品、作曲家の解釈、時代背景など）
- ・ピアノだけではなく、他の楽器やオペラ、室内楽、オーケストラの音楽を知っている限りレッスンで話し、できるだけ興味や幅広い知識をもたせる
- ・曲の背景や解釈を深める

●自己鍛錬の習慣化と個性の確立へ

- ・音楽を鑑賞し、作曲家研究を自分で探求する
- ・どのようにその曲を演奏していきたいのかと、自分自身でその曲に対して構成を考えてもらう
- ・思春期に音楽を学ぶ本当の意味を探し、見つけ、心を表現できる力をつけさせる
- ・よい部分を伸ばすのはもちろんのこと、苦手分野にも積極的に挑戦し、克服できるよう努力させる

●進路選択

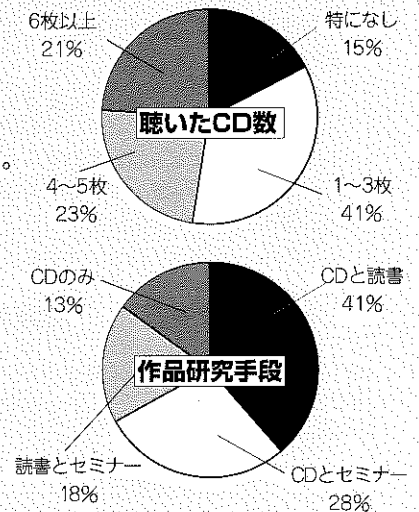
- ・音楽高校・音大に向けてさらに受験体制を考える
- ・音楽高校の紹介、見学
- ・受験へのサポート、レッスン
- ・専門の道に進む方向が決まる時期なので、自己鍛錬能力を育てるための課題の提供、達成のプロセス、評価などを設定

入賞者に聞く！

ピティナ・ピアノコンペティション参加前に勉強したことは？

- ・CDを聴いた 1～3枚 16名/4～5枚 9名/6枚以上 8枚（最高12枚）
- ・関連する本を読んだ 1冊 5名/2冊 8名/3冊 2名
- ・課題曲公開セミナーを聴講した 12名
- ・その他

- ・スペインの曲を理解するためフラメンコ鑑賞をした。
- ・スペインのビデオ、絵画など。当時の時代の話などを聞かせてもらった。
- ・曲にあわせて自分なりの物語（又は詩）を作りイメージしながらひいた。
- ・音楽の時代の流れや感じ方について先生と話し合った。
- ・映画や本で時代背景を勉強した。
- ・シューベルトのスケルツォの曲のために、シューベルトの本を読んだ。
- ・楽譜にかかれて（隠されている魂の）宝物を探すような勉強をした。
- ・作曲家の性格や、時代背景、曲想、曲の分析についてディスカッション。
- ・コンサート（PMF、N響、キーシン、リ・ユンディ）を聴きに行った。
- ・海外からいらした先生のレッスンを受けた。
- ・受ける級の予選を聴きに行った。



入賞者に聞く！

自分らしいと思う曲は？

美しい音でスローな曲；音を楽しみながら弾けるから（小3・B級）／ヘンデルのアリア；3拍子で歌う曲だから（小3・B級）／ロマン派の曲；華やかで自由にうたって弾けるから（小4・B級）／ロンド；もっともイメージを膨らませて歌えるから（小4・B級）／バロックや日本人が作曲したゆったりとした曲；一番自分の気持ちに合っているから（小4・B級）／作品番号だけではなくタイトルのついた曲が好き；想像力が湧くので（小4・B級）／リズムカルな曲；今年の課題曲の中では「子どもたちの舞踏会の始まり」。体の中からワクワクするから（小4・B級）／シューマンのファンタジーダンス；激しい感情があるから（小4・B級）／近現代の曲；クラシックでは考えられない変わった音、リズムがあるから（小4・B級）／ハイドンのソナタ；速い曲が好きなので、弾いていて気持ちがいい（小3・C級）／モーツァルトのソナチネ；1つ1つの音をとても大事にしている（小5・C級）／近現代の曲；激しくて、体がリズムにのるから（小5・C級）／ショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第2番；この曲と出会ってピアノに対する気持ちが変わったから（小5・C級）／シューマンのウィーンの謝肉祭の道化「インテルメッツォ」「フィナーレ」；難しいけど弾いていると気持ちがいい（小6・C級）／ロマン派、近現代の曲；感情を移入、表現しやすい（小6・D級）／J.S.バッハの曲；どこの部分も妥協していない。歌がある。（中1・D級）／ラヴェル；ラヴェルの音色と自分の音色が似ているから（中1・D級）／バルトークのバグパイプの曲；自分の感覚にぴったり合うから（中2・D級）／アルベニス「タンゴ」；自分の気持ちをとてもよく表現できる曲だから（中2・D級）／近現代曲；リズムに乗りやすい、感情表現がしやすい（中2・D級）／ショパン；美しく弾いていると大変楽しい（中1・E級）／ロマン派系の曲；初見の段階から、自分が「こう弾きたい！」という曲想があふれ出てくる（中2・E級）／すべて！；弾きこんでいくうちに「自分らしい」曲になっていく（中3・E級）／グラナドスのアンダルース；弾いていてとっても楽しいし、音楽があふれてくるから（中3・E級）／メンデルスゾーンのアンドアンテ・カンタービレ、プレストアジタート；特に最初、ゆっくり抑え気味に始まって後で速くなるところが自分の行動に合っている（高1・E級）／ショパンのエチュードop.25-9「蝶々」／明るく軽快だから（中3・F級）

結果を見ると、総じてジュニア世代は学習意欲が旺盛であることが伺える。コンクールを受けるにあたり、CDを聴いて参考にしたり、関連する本を読んだり、セミナーに足を運んだり、参加する級の予選を聴きに行ったり、このような様々なアプローチが盛んに試みられている。多感なこの時期にこうした集中的な音楽学習をすることは、自分の音楽感を形成するのに役立つと思われる。自分はどのようなスタイルを持ち、それをどのように生かすのか、指導者とディスカッションしながら音楽を創りあげる過程で、コンクール本番で競う以上の効果があったことだろう。

また自分らしいと思う曲とその理由も明確に把握している入賞者が多かった。自分が好きだと思える曲との出会い、そこから自分の個性や特徴を伸ばしていくこと。これがジュニアに必要な体験かもしれない。

*世代の分け方は目安です。

指導者に聞く！ 国際コンクール研究～指導者はどう勉強している？

- ・全レパートリーのバランスを研究する
- ・各コンクールを通して、その時々で何を課題として取り組むかを研究する
- ・浜松国際は一次からファイナルまで必ず見る
- ・コンクールのビデオ、DVDの研究
- ・入賞者を育てた先生の公開講座などの参加
- ・海外の音楽大学付属小中学校の視察、交流
- ・特に国際コンクールを目指すわけではないが、曲目研究、国際コンクール見学などを行っている

- ・国際コンクール入賞者の演奏会などを聴いている
- ・他の教室などで国際コンクールを経験された生徒さんなどの話を聞かせてもらう
- ・過去の入賞者のレパートリーを見て、楽曲をCDや楽譜を取り寄せて勉強
- ・自分でもレッスンに通う
- ・審査をしている外国の先生のレッスンを受講させる

入賞者に聞く！ 興味のある、または将来受けた国際コンクールは？

- | | | | |
|-----|-----|--|--|
| 第1位 | 29票 | ショパン国際コンクール | [ポーランド・5年毎・2005年/佐藤美香(01年度第6位)] |
| 第2位 | 15票 | チャイコフスキー国際コンクール | [ロシア・4年毎・2002年/佐藤美香(98年度ディプロマ)] |
| 第3位 | 7票 | ジーナ・バックアウワー国際コンクール | [アメリカ・毎年・2002年/泉ゆりの(99年度ジュニア部門第3位)・出口薫太郎(00年度ジュニア部門第4位)] |
| 第4位 | 4票 | 浜松国際コンクール | [日本・3年毎・2003年/大崎結真(97年度第5位)] |
| 第5位 | 3票 | モーツァルト国際コンクール | [オーストリア・4年毎・2002年/近藤麻里(95年度第4位)] |
| 第5位 | 3票 | ロン・ティボー国際コンクール | [フランス・4年毎/大崎結真(98年度第5位)] |
| 第7位 | 2票 | プゾーニ国際コンクール | [イタリア・毎年・2002年] |
| 第7位 | 2票 | エトリンゲン国際コンクール | [ドイツ・2年毎・2002年/後藤正孝(00年度第2位)・須藤和菜(98年度第1位)] |
| 第9位 | 1票 | シドニー国際コンクール、チェルニー国際コンクール、ベートーヴェン国際コンクール、ルーヴィンシュタイン国際コンクール、プロコフィエフ国際コンクール | |

* [] 内は開催国・開催頻度・次回開催年/過去ピティナっ子実績

今年度C級金賞・スタンウェイ国際コンクール派遣員

国際コンクール参加を目前に控えて

—今年のピティナ・コンペティションの感想をお聞かせ下さい。

松尾さん：たくさんの方々の前で演奏できるのはとても楽しかったです。それに、他のいろいろな方の演奏を聴けて、自分の良い所や悪い所を改めて知ることができました。また、コンペティションに向けて違った分野の4曲を徹底的に勉強する間に、これまであまり弾く機会がなかった作曲家を知り、古典、近現代が好きだった今までの自分だけではなく、ロマン派の曲の魅力などが分かるようになっていきました。これからは、技術的に弱い所を克服し、違った曲を早くたくさん仕上げられるようになりたいです。もっと音楽を自分のものにしていきたいです。

—国際コンクールに対するイメージと参加目前の心境を教えてください。

松尾さん：素敵な演奏をする方々がきっとたくさんいらっしゃると思います。参加者も様々な国から集まっているので、言葉なども違って楽しそうです。それと同時に、日本でのコンクールと雰囲気全然違って、言葉とかが分からないからちょっと不安な面もあります。

松尾明さん(2001年度C級金賞)・高田慶子先生

けれど、私が勉強している作曲家や音楽が生まれた国を自分の目で見て、感じてみたいです。他の国の子供達がどんな演奏をするのかも、とても楽しみです。また、外国の先生たちが自分の音楽をどう感じてくださるのか、ご意見を伺ってこれからの勉強の参考にしていきたいです。

—松尾さんの国際コンクール参加を控えて、どのような指導をされていますか。

高田先生：気負わず普段通り、けれどより一層「歌う心」を持って弾くように指導しています。今娘がドイツ留学中ですので、ドイツ国内情報や留学生の国際コンクール参加状況など、最新の情報が入ってきます。また私自身も会場となるベルリンフィルハーモニーホールに行ったことがありますので、出発前に雰囲気だけでも知ってもらうために、そうした話を松尾さんに伝えるようにしています。

日頃から最高レベルの演奏を知るために、国内での国際コンクールの見学(浜松国際、仙台ジュニアチャイコフスキー、東京国際)や、TVドキュメンタリー(ショパン国際、チャイコフスキー国際など)を見て研究しています。

今回「ジュニア世代」をあえて小学生から中学生までと定義させて頂いた。しかし一口にこの期間の発育速度は非常に早くまた個人差も激しいため、一括りにはできない。そこで便宜的に、小学校低学年、高学年、中学生と大きく3段階に分けた。ピアノ指導者は各段階に応じて、どのような指導を心がけているだろうか。

アンケートの結果、技術面の確立から精神的な発育促進に至るまで、発育過程を考慮した指導の配慮がなされていることがわかった。小学校低学年では主に耳や音感の訓練、あるいは体に音楽をなじませるといった身体と音楽の融和に着目している。また小学校高学年では、自発性の萌芽による自主勉強の促進、そして良い音楽を聴く力をつける等、一段高い音楽学習を身につけさせているのが伺える。そして中学生になるとさらに発育は進み、表現すること、個性を音楽に反映させること、という精神的な成長を音楽に結びつける指導がなされている。

着実に基礎を固めるためには、こうした段階的なアプローチが必要だと認識している指導者が多い。もちろん必ずしも皆同じではない。感覚や精神性は発達しているが指が弱い生徒、表現力に長けているが自主的に努力をしない生徒、いろいろいるだろう。大切なのはその生徒に何が備わっており、何を身につけてあげればよいのか、的確に把握することだろう。国際舞台に出る年齢が重要なのではなく、こうした基礎を着実に築き、十分に要件を満たした時点を見極めて、チャンスが到来した時に挑戦させる、ということかもしれない。

【アンケートご協力者】

* 敬称略・五十音順

今回のアンケートは次の方々にご回答頂きました。ご協力ありがとうございました

●指導者アンケートご協力者

蟻川 恵美(神奈川県横浜市) 池田 寿美子(兵庫県西宮市) 石井 愛二(神奈川県大和市) 石黒 加須美(愛知県一宮市) 石嶺 尚江(大阪府吹田市) 岩嶋 純子(宮崎県宮崎郡) 大塚 京子(大阪府豊能郡) 大場 多恵子(静岡県周智郡) 大林 裕子(愛知県名古屋) 小笠原 和代(北海道札幌市) 置名 智恵(広島県廿日市市) 奥田 佳世子(東京都国立市) 加藤 さとみ(愛知県刈谷市) 木野 みゆき(福岡県大野城市) 木谷 幸代(北海道札幌市) 江夏 祐子(神奈川県大和市) 小島 時栄(和歌山県和歌山市) 今野 早苗(神奈川県横浜市) 佐野 幸枝(神奈川県横浜市) 汐巻 公子(大阪府大阪市) 城 淳子(愛知県小牧市) 杉本 安子(神奈川県川崎市) 勢志 佳子(大阪府豊中市) 辰巳 千里(奈良県磯城郡) 田中 美江(福岡県福岡市) 富沢 和子(群馬県勢多郡) 長沢 あけみ(東京都八王子市) 中田 京子(大阪府吹田市) 中田 耕一郎(大阪府吹田市) 中田 元子(大阪府大阪市) 根津 栄子(千葉県市川市) 長谷川 淳(愛知県豊橋市) 平岡 百合子(宮城県仙台市) 福留 真循(滋賀県近江八幡市) 本田 順一(岡山県倉敷市) 丸子 あかね(埼玉県川越市) 三好 のび子(静岡県藤枝市) 山根 祐子(山口県萩市) 米元 えり(茨城県つくば市)

●ピティナ・ピアノコンペティション入賞者アンケートご協力者

天野 豪(D級/小6・北海道) 家崎 綾(B級/小4・奈良) 池田 小夜(E級/中3・北海道) 石井 玲奈(C級/小3・兵庫) 石毛 陽子(B級/小4・千葉) 石田 えり(D級/中2・栃木) 内田 秀磨(C級/小6・東京) 緒方 権(B級/小4・東京) 小倉 紘子(C級/小6・埼玉) 尾崎 風磨(B級/小4・東京) 加藤 大樹(C級/小5・東京) 川口 晃祐(E級/中1・和歌山) 菊地 美涼(D級/小6・埼玉) 北村 朋幹(B級/小4・愛知) 桑野 雅依子(B級/小3・茨城) 桑原 万智(B級/小4・茨城) 児玉 渉(D級/小6・徳島) 小林 侑奈(E級/中3・山梨) 杉村 紗耶(D級/中1・富山) 鈴木 翔太(E級/高1・神奈川) 高倉 優理子(B級/小4・神奈川) 高野 詩織(D級/中2・茨城) 田谷野 望(B級/小4・大阪) 西島 理恵(B級/小4・愛知) 沼田 理美(予中級/中2・神奈川) 原 智美(D級/中2・神奈川) 日置 ひと美(D級/中1・愛知) 深田 ゆかり(C級/小6・愛知) 福崎 舞由子(B級/小3・東京) 細野 登暉(B級/小4・和歌山) 松嶋 更(B級/小4・熊本) 松尾 明(C級/小6・千葉) 宮原 みさき(D級/中1・長野) 森田 英里奈(F級/中3・神奈川) 山本 哲(C級/小5・千葉) 若井 優也(F級/高1・愛知) 若桑 茉佑(E級/中2・千葉) 渡辺 亜沙(C級/小5・熊本) 渡辺 研一郎(C級/小5・栃木)

【研究編】

ジュニアとはどういう時期？ 海外でも通用する個性をつけるには？

「ジュニアは「自分探し」の時期」
「可能性を開かせるきっかけに」
「一人前の人間としての成長も」

江崎光世先生 (ピティナ課題曲選定委員長)
関孝弘先生 (ピティナ国際委員)
ヴィクトール・マカロフ先生
(オーストラリア音楽院教授)

特集 1

ジュニアは「自分探し」の時期

99年度トヨタ指導者特別賞を受賞した江崎光世先生。指導者賞20回受賞を語るもので、その功績の大きさを物語る。今回は、これからのグローバルな時代に通用するマインドの育て方について、ジュニア時代に何を鍛えるべきかお話を伺った。



江崎 光世先生
当協会評議員

自立心とグローバルなものの考え方を育てる

私はいつも、生徒が将来何を必要とされるのかを考えながら指導しています。今、次世代に最も必要なのは、自立心だと思います。自分は何なのか、人と違うところは何か、自分はピアノをどう弾きたいか、それはなぜか。それらを自分の頭で考え言葉で語り、音として表現することです。

自立心は好奇心から生まれます。他人と比べて「自分は何でどのように弾くのか」という疑問を持つ、そしてその理由を探して解決しようとする。こうした日頃の問題意識が、様々な刺激を受けた時の反応に表れます。

では「興味を持つ」ということを実感させるには、どうすればよいでしょう。例えば私はまず、ある曲の数種類のCDを聞かせ、その

中から好きな演奏を選ばせる、他のCDと聞き比べて比較させ、自分は何でこれが好きなのか、これが嫌いな理由はなぜか等、その根拠を自答させて言葉で表現させます。自分で選べない生徒には、「こういうのが素敵ね。あなたはこれが得意ね。」と助け舟を出して、本人の興味を引き出してあげます。その一連のプロセスの中で、自立心が徐々に芽生えてきます。

私の教室では本やCD、楽譜の貸し出しを頻繁に行っていますが、必ず貸し出しノートに記入させるようにしています。それを一覧しますと、どの生徒がどのような嗜好を持ち、どのように勉強しようとしているかが分かります。親に貸す時もありますよ。こうして自己学習のプロセスが進んでくると、今度は教室に置いてない楽譜やCDを見つけて自分で購入するようにもなります。

このような学習方法を身につけることにより、生徒は自主的に他人にない自分の良さを探し出すことができるようになります。「マルチ」「万能」ではなく、自分にしかない特徴＝個性を育てたいですね。ピアノを通して「自分」を発見すること、ジュニア世代にはこれが大切だと思います。

コンクールは自己発見の場

ピティナ・ピアノコンペティションを始め、様々なコンクールや検定に参加させています。ですが、生徒にはあまり競争的な面を意識させていません。生徒のタイプにもよりますが、初めから結果にこだわりすぎず、自分の音楽を追究した結果良い成績を得たという例の方が多いですね。あくまでも定期試験のように利用しています。

コンクールは各々明確な目標を持ってメリットがあると思います。特にピティナでは様々なグレードの人を対象としていますので、視野を広げるきっかけをつかむ、自分の位置確認をする、人生経験として受ける等、多様な目標の持ち方が可能です。このように「自分の目標を持つ」ことが肝心で、最終的には結果如何よりも、その目

標が達成できたかが大切なのです。これは自分との闘いですね。

そしてまたコンクールは一つの「自己発見の場」でもあります。特に同じ志を持つ別の人の演奏を聴くのは刺激になりますし、自分の長所や短所、人と違う特徴などがはっきり分かるようになります。国際コンクールでも同様で、違う国の人の演奏を聴き、その中で弾くことによって、外から日本を見つめなおしたり、自国の文化背景を持つ自分の演奏の特徴を再確認する機会ともなるでしょう。

ただ国際コンクールに出場したからといって、その時に受けた刺激がすぐに大きな意識改革につながったり、ピアノ演奏に反映されるとは言い切れません。というのも、生徒によって物事の受け止め方、感受性が違うからです。受信能力を磨いてなければ、こうした経験が堆肥になることはあっても、華になるとは限らない。逆に国内で日常生活を送りながらも、グローバルな思考を備える人もいます。つまり経験を生かすも殺すも本人次第なのです。

けれどやはり、チャンスが巡ってきたら挑戦した方がいいでしょう。たとえその時の経験がすぐにピアノに生きることはなくとも、

長い人生の中でいつか経験が生きてくる場合がありますから。

私はピアノを通して、ジュニア世代からこうした思考力や自立心を育てていきたいと考えています。今アンサンブルやデュオ教育を推進しているのも、他人と音楽を創りあげる喜びを味うとともに、自分の役割を認識することによって、さらに自分の特徴をよりはっきりと把握し、磨いてほしいと願うからです。

特集 1

指導者に聞く！

現在活躍している生徒のジュニア時代～何が優れていたか

●自己鍛錬能力

自分の求めている音や音楽を表現するために、必要なテクニックや表現方法を磨いていくことに納得するまで練習に励む。

演奏技術と表現力が不足でも、楽曲の解釈ができ自己鍛錬能力があり、現在は海外で活躍。

自分で本を読ませ、アナリーゼなど事前にやらせ、レッスン時間はイマジネーションを育成させた

演奏家になるためには努力と忍耐力がなければ不可能。楽な練習ではなく遠回りでもこつこつ練習させた

●演奏技術

聴奏力に優れ、特にスケールが9歳位で完璧に弾けた譜読みと暗譜が優れていた

一般的な段階にとらわれないので中学生頃からショパンエチュードを積極的にやらせた

・バネのあるリズムと進行性、伸びのある音質感、和声進行感、フレーズのつながり目など、ポイントをおさえた指導にところがけた

●表現力

・より美しいもの、きれいなものを求めていくことに喜びを味わうことができた

・音感と音楽に感動する感性が顕著だった

・オーケストラや他の楽器の特色まで勉強してさらに伸ばした

・歌ったり、指揮をしたり、ピアノで指導して生き生きとした表現力を促した

・本質を見極めて長所が生かされるレパートリーを優先させた

・その子が天性として持っている表現力を伸ばすように、指導者の趣味を押し付けなかった

可能性を開かせるきっかけに

萩原麻未さんは、98年ピティナ・ピアノコンペティションA1級で金賞、2000年にイタリアのフィナーレ・リグレ国際コンクールに参加し、見事最年少優勝を遂げた。現役ピアニストでもある関先生は、いち早くその才能を見抜き、独自の指導法によって萩原さんの個性を引き出してきた。国内も国際もないグローバルな思考で、二人は前へ進んでいる。



関 孝弘先生
当協会国際委員

葉の壁、食べ物との相性、文化の相違。萩原さんも初めて参加したフィナーレ・リグレ国際コンクールで、いろいろと音楽以外の壁にぶつかったみたいですよ。けれど、会場の雰囲気は大変刺激的ですし、西欧の方は社交的な人が多いですから、参加者同士でフレンドリーに会話を交わしたり、多くの収穫を得たようです。また世界のレベル、参加者の傾向などを知る上でも、国際コンクールに参加することで、より視点がグローバルになりますね。ピアノを弾く上でも、イメージがまた広がったのではないのでしょうか。

結果よりも当日までの努力の積み重ねが大切

日本は昔から「結果を出さなければ」という気負いが強い印象があるように思います。これは独特の国民性かもしれませんが、外国ではあまり考えられません。欧米の参加者は、少しくらい失敗しても「運が悪かった」くらいに思っているわけですね。コンクールというのは、審査員が変われば全て結果も変わってしまうものです。

萩原さんの場合、初めての海外の国際コンクールで良い結果を出すことができましたが、コンクールで入賞することは簡単なことではありません。当日最高の演奏ができるよう、目標に向かって長い間できる限りの努力をします。それこそが、可能性を広めていく第一歩ではないのでしょうか。

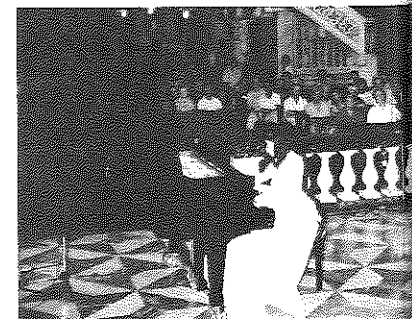
もっとディスカッションを

音楽は、まず理論でなくファンタジーから始まってもいいのではないのでしょうか。どのように弾き

たいか、まず楽譜からイメージを膨らませます。そしてそのイメージを具体化するために、どのような技術を使えばよいか、理論の裏付けをするわけです。萩原さんの場合、もともと日本のマイナス指向的な「だめだめ」教育を受けてこなかったのがよかったのか、実際に楽しく音楽に接しており、イメージも豊かです。ですからいつも先に音楽が頭に浮かび、そしてそれを指に乗せようとする。私はそれを尊重しながらも、常にその根拠を問いただして、現実の音として具体化できるよう理解させるようにしています。ですからレッスンは自然とディスカッションが多くなります。

こうしたディスカッションは欧米では当たり前に行われています。それは自己主張のぶつかり合いではなく、お互いのイメージをすり合わせ、より良い音楽を創る過程に必要な作業です。「先生にこう言われたから、こう弾かなきゃ」といった生徒さんも多いと思いますが、まず生徒自身がどう弾きたいか、考えさせるのも大切です。萩原さんの場合は、むしろ感覚が先行している傾向もありますので、今は外枠を埋めるべく読書を勧めたりもしますが、

自己主張というのは、突然できるものではありません。コンクールに限らず、日常的に自主的に物を考えさせたり、先生と話し合ったり、その積み重ねが大切です。それには先生と生徒の信頼関係がとても重要なのですね。



右) フィナーレ・リグレ国際コンクール優勝者 記念コンサートに招待されて演奏。

一人前の人間としての成長も

2000年度浜松国際コンクールにて、当時若干16歳ながら圧倒的な実力と才能を示し優勝したアレクサンダー・ガブリリュク氏。その恩師であるヴィクトール・マカロフ教授は、ガブリリュク氏を幼少の頃から指導をし、その才能と演奏技術を世界最高峰にまで到達させた。ピアニストであるとともに一人前の人格を持つ人間にさせたいという、その指導法に迫った。



ヴィクトール・マカロフ 先生
オーストラリア音楽院教授

—ガブリリュクさんとはどのような師弟関係なのでしょう。また彼が特に優れている点を教えてください。

10年前に初めてカルコフ特別音楽学校へやってきた時、ここは私がシドニーにくる前に教えていた学校ですが、私は彼の持つ声の良さに惹きつけられました。とてもよく響き流暢で、力強いエネルギーに満ち溢れていました。大変表情豊かに歌えますし、聴音やリズムテスト等も全て完璧にこなせました。彼の両親は聖歌隊に入れたかったようですが、私はすぐさま自分のもとでピアノを習うように勧めました。

1年目は大変でした。将来大曲や難曲、ヴィルトゥオーゾの曲を弾きこなせるように、幼少期から基礎固めをすることを心がけまし

た。精神的発達と自然発生的な成長双方を促すため、様々な訓練に取り組みせました。前者は例えば詩や文学、絵画等を使つての特別な勉強、後者は集中力、記憶力、思考力の鍛錬などです。もちろん彼はテクニックを鍛えるために猛烈に練習し、様々なスタイルのテクニックを習得しました。しかしそれよりも大切なのは、彼の精神性や思考力などを高めてやることでした。

同時に、できるだけ早い段階で、大規模なプログラムが組めるよう準備を始めました。

1995年11歳の時、セニガリア青少年国際ピアノコンクール（イタリア）で4位入賞、その半年後には第2回ホロヴィッツ記念国際コンクール（ウクライナ）で2位に入りました。ここでは予選合計3回分、大規模なプログラムを組んで臨みました。そしてその2年後、第3回同コンクールで優勝することができました。

年齢を超越すること、精神性とプロフェッショナルリズムを磨くこと

コンサート用の難曲などに取り組む際、大体の曲の構造は私が説明しますが、細かい部分については全て彼とともにアナリーゼに取り組みました。これは同時に彼の想像力を発露するものでした。例えば、ラフマニノフの「パガニーニの主題によるラプソディー」を弾くにあたっては、これはハルマゲドン（世界最終戦争；ヨハネ黙示録より）つまり多くの罪を犯した人間へ神が下した罰、がモチーフとなっていると解釈しています。各ヴァリエーション、ハーモニー、

メロディ、リズム、ダイナミック、全ての構造の相関関係、ピアノとオーケストラの連携などを、ヴァリエーション毎に物語を創りながら細かくディスカッションしました。物語は神、悪魔、愛、死、人間がテーマになっています。

アレクサンダーが単にこの音楽に傾倒しているだけでなく、こうして音楽を細部にわたり完璧に理解していたからこそ、昨年の浜松国際コンクールでの力強い演奏につながったのだと確信しています。

レパトリーを広げる計画

彼はラフマニノフの音楽を敬愛しており、ラフマニノフは彼にとって神や広大な海に近い存在なのです。彼はどこまでもその音楽とともに生き、また深く探求しようとしています。それは大変喜ばしいことなのですが、しかしまだ彼は若いのですから、指導者としては彼の将来も同時に考えなければいけません。これは彼の成熟度の問題です。いずれモーツァルトやベートーヴェンばかりを弾きたくなくなる時がくるでしょう。そこには独自の領域と空間が存在することを知ることになるでしょう。また繊細で貴族的なロマン主義を代表するショパン、情熱と狂気が共存するシューマンを演奏すれば、幸福や苦難に満ち溢れた至上愛の世界に、一歩近づくことになるでしょう。

つまり私の目指すと



アレクサンダー・ガブリリュクさん



左) 木立の中でディスカッションする師弟。ラフマニノフのことを話しているのだろうか。

た先生方のプロフェッショナルな活動やそのパーソナリティから多くの影響を受け、現在の私があるといっても過言ではありません。

子供の指導法について、真剣に勉強を始める

1985年、私に一つの転機が訪れました。音楽院での教職が11年目を迎えた年、カルコフ特別音楽学校のピアノ科主任教授に抜擢されたのです。それまで多少子供を教えた経験はありましたが、それと学科全体として国際レベルに到達する実績を挙げることは全く別でした。そこで私は心理学と教育法を勉強しはじめました。つまりどのように学習を動機付けられ



集中力や記憶力、思考力を最大限伸ばせるのか。例えば、若いスポーツ選手がどのようにして驚異的な記録を生み出すのか、などに興味を持って研究しました。そして12年後、若いピアニストの指導法についての著書が出版されました。翌年には英語に訳され、オーストラリアでも発売されています。この本は、音楽家をいかに一人前の人間として育て上げるかをテーマにしています。それは単に優秀なピアニストであるだけではなく、聴衆にスピリットと前向きなエネルギーを伝え、困難に立ち向かう忍耐力を兼ね備えた人を育てたいという願いです。

子供を指導すること、そしてこの本を書き上げることによって、私は指導者として一歩成長したように思います。

常にプロとして試練の場が

私たち指導者は常にプロとしてその力量を試されています。音楽院でも、毎年新しいプログラムでコンサートを開く、生徒の実績を上げる（コンクール、コンサート実績）、指導法を実践する（論文執筆、著述、マスタークラス）等、常に試練の場を与えられるのです。

国際コンクールに向けての準備は、私たち指導者にとって重要な仕事の一つです。若いピアニストにとって、国際コンクールが大変難しいチャレンジであることは容易に想像できると思いますが、私たち指導者にとってもその過酷さは同様です。国際コンクールは学校同士の闘いでもあり、ひいては指導者同士の真剣勝負でもあるからです。

コンクール用のプログラムに取り組むというのは、単に曲を憶えるだけではありません。国際コンクールでは、他人と比べて目立つものでなく、作品の本質を追求して演奏の純粋な完成度を目指すことが必要と思われる。そのためには指導者自身の解釈だけでなく、他人の録音を聴いて比較し、その中から自分が良いと思うものを見つけ、それを生徒に説明する、こうした一連のプロセスを経て、生徒とともに一音ずつ生み出していくのです。もちろん生徒は先生の解釈を鵜呑みにするだけではいけません。

また国際コンクールでは驚異的ともいえるテクニックが求められますが、指導者自身も「過去の経験」に頼ってはならず、常に新しいものを知り、またどのレベルまで到達すべきかを把握する必要があります。

国際コンクールの現場から



種田 直之先生 (エトリンゲン国際青少年ピアノコンクール創立者・芸術監督・審査員長)

1988年に創設され、隔年で開催されるエトリンゲン国際青少年ピアノコンクール。人口約4万人のドイツ小都市で開かれるこのコンクールには、過去多くの若いピアニストが参加し、その後様々な活躍を繰り広げている。今回はその創立者で、現在芸術監督兼審査委員長を務めている種田直之先生に、コンクールを通してジュニア世代をいかに育てていくかを伺った。

様式感に重視を

エトリンゲン国際コンクールには、カテゴリーA（16歳未満）、B（21歳未満）と二つの年齢区分があります。14、15歳は大人の演奏のできる子、子供らしい演奏の子が分かれる年齢です。このコンクールには年齢の下限がありませんので、いずれのカテゴリーで挑戦するか自分で決定することができます。またカテゴリーBに属する18歳から20歳も重要な年齢で、この年齢層の人は無理することなく、現在の自分の位置確認ができます。国際コンクールは平均的に18～19歳から出場可能ですが、このコンクールはその練習台として、また現状の実力試しとしても、とても大切な役割を担っていると思います。

日本人は特に様式感が欠けている場合が多いようですね。また、テクニックだけで音質の裏付けがないと、審査員は元より聴衆にも見透かされてしまいます。当コンクールでは、両カテゴリーとも予選の課題曲としてドイツ古典を出題しています。例えばカテゴリーBでは、予選でハイドンのソナタ第1楽章とバッハ平均律、本選でハイドン・モーツァルト・ベートーヴェン・シューベルトのソナタより1曲というように、普通の国際コンクールより古典に比重が置かれています。こうした課題曲では、様式感の理解度が顕著になります。もちろんエチュードも出題されていて、テクニック的な要素も注視します。

審査員は、1992年第3回以降、同じメンバーにお願いしておりますが、こうした質の良い音楽を見

極めることに対しては、大変な信頼を置いています。聴衆の反応も日本と異なり、非常に正直ですので、自分の音楽が認められたかどうか、端的に分かりますね。

教えすぎないのも大切

特に小学校時代において、あまり教え込みすぎるとはいかかなものかと思います。子供の自然な感情の芽生えや自我の発達を抑えこんでしまいかねません。少しは放っておくのも必要でしょうね。ピアノにばかり専念しないで幼少期から一般教養を身につけておくことも大切です。その方が長い目で見た時に、将来性が期待できるでしょう。例えば、展覧会や美術館等に連れて行ってあげる、価値の高い文学を読ませる。その時直接ピアノに関わりが無いように見えても、その背後にある芸術文化全体への関心を深めていくことが必要です。

ただし生徒一人ではそのきっかけをつかむのが難しいですから、そこを指導者や親がサポートしてあげるべきでしょうね。またピアノ以外の楽器の演奏を聞くのも良いですね。とにかく幅広い勉強をさせてあげることが、結果として個性豊かなピアニストを生むと思うのです。

ところで、まだ日本のピアノ人口の比率からいうと男の子が少ないのですが、男の子にももっとピアノを弾いてほしいですね。男の子はなかなかピアノに集中せず、上手になるまで時間がかかることもしばしばですが、ある時音楽に深く感動し、突然目覚しく練習にいそむようになり、1年間くら

いで驚くほど上達する例があります。特に中学校から高校にかけて、そのような急成長が見られることがあるのです。こうした自然な発芽を助けたいと思います。

国際コンクールでは地元の人のふれ合いも

エトリンゲンではこのコンクール開催にあたり、町全体をあげてサポートします。多くのホストファミリーの申し出、ピアノの無償提供、練習場所提供、70余名にのぼるボランティアの出勤。特にホストは100名近い参加者（予備テープ審査合格者）を受け入れるのに、近隣の都市カールスルーエや他の町からもご提供頂いています。

ドイツ家庭にコンクール期間中滞在し、寝食を共にしながら家族の温かい応援を受けるという体験は、非常に貴重なものです。受け入れた参加者の演奏に対して、いろいろコメントをくれるのも、参加者にとっては身近な人の意見として参考になるでしょう。というのも、審査員に感想を聞くのもいいですが、やはり時間と機会が限られていますから。ところが、日本人は残念ながらホテル生活をしてしまう方が多いのも事実です。毎日ホテルと会場の往復では、ホストとの接触がまったくなく大変もったいないですね。

せっかくドイツまで来ているのですから、そこでしか体験できない文化や生活習慣を体感してほしいと思います。そして、ホストを始めとする聴衆の意見やコンクールの結果を素直に受け止め、自分の成長につなげてほしいですね。

勉強の場としての国際コンクール



杉本 安子先生 (ピティナ演奏研究委員長・洗足学園大学助教授)

1995年中2の時、コンペF級審査員特別賞を受賞した本間裕大さんは、翌年イタリアで開催されたセニガリア国際青少年コンクールに参加、第2位に入賞した。当時指導にあたった杉本安子先生ご自身も、かつて国際コンクールで優勝経験がある。忙しい指導の合間を縫って、積極的に国際コンクール見学に赴く杉本先生は、そこで得たものをどのように指導に反映させているのだろうか。

初めから成功を夢見ない

本間裕大君は、1996年セニガリア国際コンクールに参加しました。国際コンクールは初参加でしたが、もともと私が海外の話を頻りにしていましたので、あまり抵抗感はなかったようですね。気持ちはずっと積極的でした。

この時私が指導したのは、「多彩な音を出すことと個性を出すこと」でした。端正な音楽だけでは国際コンクールで通用しないことはわかっていましたので、どれだけ自分をアピールするパフォーマンスができるかに気を配っていました。もちろん様式感等も考慮しましたが、特に近現代曲に力を入れ、矢野龍渓氏のトッカータを弾かせましたが、これは功を奏しましたね。他国の参加者から楽譜を下さいと言われてたくらいでしたら、インパクトが強かったのではないかと。

最初からあまり気負わなかったのが良かったのでしょうか、その時は幸運にも第2位入賞しました。1回目から全て順調に行くと思わないで、最初は勉強しに行く、くらいに思った方が肩の力が抜けますね。本間君も現地で練習場所の確保に苦労したり、食べ物との相性がよくなかったり大変だったみたいですが、本人にとっては自分の殻を破るきっかけになったようです。

国際コンクールは最新情報の宝庫

国際コンクールでは、他国の参加者のプログラムの組み方が大変参考になります。自分を生かすプログラム構成と多彩な曲目を持つ参加者に会い、思わず唖ってしまふことも少なくありません。自由選曲ですと、いかにプログラム

を組み立てるかも勝負のうちですから、これも自己アピールにつながるわけですね。日本に比べると、どうしてもレパートリーや演奏方法など、凝り固まってしまう傾向があるので、国際コンクールを見学、または参加する生徒に同行することで、新鮮な感覚を取り入れるようにしています。日本ではお目にかかれない斬新な近現代曲を発見し、楽譜を見つけて購入することもあります。

ここ数年中国の飛躍が目覚ましいですが、ジュニア時代から国際コンクールに相当数生徒を送り込んでますし、指導者自らも海外、特に近隣のロシアに見学に行ったりして、積極的に音楽交流を図っています。もちろん一朝一夕にその成果が反映されるわけではありませんが、私自身も少しずつでも土台を築いていきたいものです。

◎視察した国際コンクール

- 1990 チャイコフスキー国際コンクール (ロシア)
- 1993 ワールドピアノコンペティション (米、以下AMSA)
- 1994 第1回中国国際コンクール (中国)、AMSA
- 1995 ショパン国際コンクール (ポーランド)、AMSA
- 1996 AMSA
- 1998 チャイコフスキー国際コンクール、AMSA
- 2000 ショパン国際コンクール、AMSA

◎生徒が出場した国際コンクール

- 1994 第1回中国国際コンクール/丹 千尋
- 1996 第25回セニガリア国際青少年ピアノコンクール/本間裕大
- 1996 ワールド・ピアノコンペティション (AMSA) / 添田哲平
- 1997 第3回浜松国際ピアノコンクール/末木裕美
- 2000 第3回盛岡青少年国際ピアノコンクール/松井紀子

*敬称略・受験時に師事していたケースのみ

<ジュニア国際コンクール一覧>

■ International Vladimir Krainev Young Pianists Competition
ウラディミール・クライネフ国際コンクール
・対象年齢: 13才以下/14才以下/17才以下
・開催日程: 2002年3月
・申込締切: 2001年12月31日
・開催頻度: 2年毎
・問合せ先: 26 rue de La Liberation, F-92210 Saint-Cloude
Tel: +33-1-460-23-336 Fax: +33-1-460-227-25
aaccp@wanadoo.fr

■ Smetana Piano Competition
スメタナ国際コンクール
・対象年齢: 14才以下/20才以下/28才以下
・開催日程: 2002年11月
・申込締切: 2002年9月30日
・開催頻度: 2年毎
・問合せ先: Cs.Armady 300, CZ-50001 Hradec Kralove
Tel/Fax: +420-49-551-3966
hkvs@hk.czcom.cz

■ Gina Bachauer International Piano Competition
ジーナ・バックアウアー国際コンクール
・対象年齢: 11~13歳 (2004年開催) / 14~18歳 (2005年開催)
・開催日程: 2004年6月 (11~13歳部門)
・問合せ先: P.O.Box 11664 Salt Lake City Utah 84147
Tel: +1-801-521-9200 Fax: +1-801-521-9202
http://www.bachauer.com

■ 8th Ettlingen International Competition For Young Pianists
エトリンゲン国際青少年ピアノコンクール
・対象年齢: A:1986年8月9日~誕生の者 B:1981年8月9日~誕生の者
・開催日程: 2002年8月10日~18日
・締切: 2002年5月8日
・開催頻度: 2年毎
・問合せ先: Competition Office, Musikschule der Stadt Ettlingen, Pforzheimer Str.25, D-76275 Ettlingen Germany
Tel: +49-7243-10-1448, 10-1311 Fax: +49-7243-10-1180
http://www.ettlingen.de/piano
E-mail:piano.ettlingen@t-online.de

■ International Competition for Young Pianists In memory of Vladimir Horowitz
ウラディミール・ホロヴィッツ記念青少年の為の国際ピアノコンクール
・対象年齢: Senior (成人部門): 1968年4月19日-1982年4月18日誕生の者
Intermediate (年中部門): 1982年4月19日-1987年4月18日誕生の者
・開催日程: 2001年4月18日~5月4日
・開催頻度: 1~2年毎
・問合せ先: http://www.horowitzv.org
*14才以下はDebut (デビュー部門) と称されており、次回開催は2002年予定

エピローグ

「個性」には海外で通用するもの、国内でしか通用しないもの、という分類はない。作品を十分理解し、自分の特徴を把握し、それをうまく鍵盤の上で結びつけたものが個性的な演奏といえるのではないかと。あとはいかに自信をもって、いかなる状況のもとでも発揮できるか、が問題である。それには、日ごろから自主性や自立心を培い、自分で自分を発見してその特徴を伸ばしていくというプロセスが必要なのである。

今回は国際コンクールという切り口で、「ジュニアの時期にいかに関性を伸ばせばよいのか」という問題提起と、それに対するいくつかの事例をご紹介させて頂いた。これ以外にも方法はたくさんあるし、ケースも千差万別。生徒の個性を開花させることのできる、個性を持った指導者が増えることを願う。

第1回仙台国際音楽コンクール優勝者コンサートシリーズVol.1

【日時】: 2002年3月4日 (月) ~11日 (月)
【会場】: 仙台市太白区文化センター楽楽ホール (4日) / カザルスホール (6~8日) / 盛岡市民文化ホール小ホール / ザ・フェニックスホール (9日) / 札幌コンサートホールkitara小ホール (11日) ※各会場ピティナ会員割引有
【問合せ先】: 仙台国際音楽コンクール組織委員会
Tel: 022-715-8210

ショパンアカデミー学院春季セミナー

【日時】: 2002年3月16日~3月28日予定
【会場】: ポーランド・ワルシャワ市
【締切】: 2002年1月30日 (募集15名)
【予定講師】: A.ヤシンスキー、R.スメンジャンカ、P.パレチニ他
【参加費用】: 約38万円
【問合せ先】: ポーランド市民交流友の会
Tel: 053-522-0692

ピティナ・ピアノ指導セミナーVol.16

9月15日（日）東京・東邦音楽大学にてピティナ・ピアノ指導セミナーVol.16が開催された。4名の講師が様々な教材を使用しながら、初級指導のノウハウを分かり易く説明。この特集では、その講義録をご紹介します。

指導における「言葉」の役割

～いきいきと音楽をつたえるために～

私たちは、毎日さまざまな場面で「音楽」と「言葉」との深い関係を意識させられます。指導にあたって、「この曲に対して感じる私の思いを、言葉でどう表現したらよいのだろう」とか、「生徒さんにそれをどう伝えたらよいのだろう」と悩むことは度々でしょう。また、歌曲やオペラの例を見るまでもなく、言葉と

の係わりの中で音楽が様々な発展してきた歴史があります。私も音大に入学して以降、今日までたくさんの友人達との会話を通して、より音楽を自分なりに味わい、表現出来るようになってきたと感じています。今回は、捉えどころのないこのテーマについて、いくつかの角度から見つめてみることで、指導における「言葉」の役割を考えるきっかけとしたいと思います。

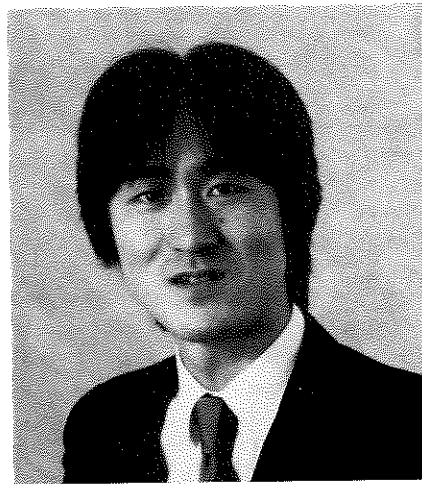
1 偉大な音楽家達の「言葉」から

音楽史上、言葉との係わりで私たちに強い印象を与える作曲家は数え切れません。超人的な意志の力で音楽史に新たなページを切り拓いたベートーヴェン。彼の遺した言葉に感動し、勇気を与えられた方も多いことでしょう。今回は、そうした巨匠達の中から、音楽教育に特に情熱を燃やし、「音楽」と「言葉」の関係を考え続けた3人の言葉の一端をご紹介します。

(1)ピアニスト：アルフレッド・コルトー
コルトーは素晴らしい演奏家であると同時に、様々な音楽教育活動に熱心に取り組み、パリ・エコール・ノルマルの設立等にも寄与されました。表1は、ショパン作品の詩的側面について、私たちに今なお多大

な靈感を与えつづけてくれている有名な例です。彼の言葉の多くは、「コルトー版」の出版によって後世に残され、今日では多くが日本語にも訳出されて、容易に触れることが可能となりました。しかし、本人の口から実際に語られた詩的イメージは、どんなにか素晴らしいものでしょう。私の世代は、もう永遠にそれを生で聴くことはできませんが、機会があれば、コルトーの生の言葉に接したことがある先輩の先生方に、その魅力についてお話をお伺いしたいと願っています。

(2)作曲家：ロベルト・シューマン
シューマンも、教育活動や文筆活動を通じて、積極的に言葉の「遺産」を私たちに遺してくれましたが、ここでは作品の例として、「森の情景」を取り上げてみます。



くにや たかゆき
國谷 尊之

東邦音楽大学講師、当協会正会員、演奏研究委員会副委員長

表1

①アルフレッド・コルトーによる、ショパン作曲『24の前奏曲Op. 28』各曲の印象

- ハ長調、2/8、アジタート「恋しき人を待ちこがれて」
- イ短調、4/4、レント「悲痛な瞑想、遠く彼方に荒涼たる海…」
- ト長調、4/4、ヴィヴァーチェ「小川のせせらぎ」
- ホ短調、2/2、ラルゴ「墓場のほとり」
- ニ長調、3/8、モルト・アレグロ「鳥のさえずりに満ちた樹」
- ロ短調、3/4、レント・アッサイ「聊慙」
- イ長調、3/4、アンダンティーノ「甘い思い出は、追憶の中、香りのように漂う…」
- 嬰へ短調、4/4、モルト・アジタート「雪が降り、風がうなり、嵐が猛り狂う。しかし私の悲しみに満ちた心の中では、嵐がもっと恐ろしく荒れ狂っているのだ」
- ホ長調、4/4、ラルゴ「預言者の声」
- 嬰ハ短調、3/4、モルト・アレグロ「消えゆくろし」
- ロ長調、6/8、ヴィヴァーチェ「乙女の願い」
- 嬰ト短調、3/4、プレスト「闇夜の騎馬団」
- 嬰ハ長調、6/4、レント「異国の地で、星をちりばめた夜に、はるか最愛の人に思いを馳せながら…」
- 変ホ短調、4/4、アレグロ「荒れ狂う海」
- 変ニ長調、4/4、ソステヌート「しかし、死はそこへ来ている。その間の中に」
- 変ロ短調、2/2、プレスト・コン・フォーコ「祭高への道」
- 変イ長調、6/8、アレグレット「彼女は私にいった。私はあなたを愛しています、と…」
- へ短調、4/4、モルト・アレグロ「呪い」
- 変ホ長調、3/4、ヴィヴァーチェ「翼を与えたまえ。わが最愛の人よ、あなたのもとへ飛んでいくために！」
- ハ短調、4/4、モルト・アレグロ「葬送」
- 変ロ長調、3/4カンタービレ「ただひとり帰る、誓いをたてしところへ」
- ト短調、6/8、モルト・アジタート「革命」
- へ長調、4/4、モデラート「戯れる水の精」
- ニ短調、6/8、アレグロ・アパッショナート「血、快楽、死」

た、次のような詩もあったとされています(表3)。

彼はおそらく、彼の音楽そのものが持つイメージの深さが、かえってある決まった枠の中に定着されるのを恐れ、慎重に一曲のみ詩を付することによって最大の効果を得ようとしたのではないかと考えられています。彼のこうした姿勢は、彼の遺した様々な言葉を読み返しながら考えるとき、「音楽」と「言葉」との関係について、私たちに多くの示唆を与えてくれると思われる。

(3)ピアノ教育者：ベアタ・ツィーグラ

近代メソッドの母とも言ってよいベアタ・ツィーグラは、1933年に「Das innere Horen」(邦題「耳から学ぶピアノ教本」)を出版しました。この教本は、それまでの「まず技術指導ありき」というピアノ教育を、音楽イメージ育成を根本に据えた近代メソッドに転換するきっかけとなったもので、当時ヨーロッパに大変な衝撃を与

譜例1

表2

②シューマン作曲『森の情景Op. 82』より、第4曲「評判の悪い場所」の冒頭に付された詩

Die Blumen, so hoch sie wachsen, Sind blaß hier, wie der Tod; Nur Eine in der Mitte steht da im dunkeln Roth Die hat es nicht von der Sonne; Nie traf sie deren Gluth; Sie hat es von der Erde, Und die trank Menschenblut.	高く育つ花ばなは、 ここでは死のように青白い。 まんなかのひつつだけが くらい赤の中に立っている。 それは太陽から受けたものではない； その赤熱が当たることはなかった。 それは大地から受けたものだ、 そして大地は人の血を吸った。
F. Hebbel	F. ヘッベル

えたと伝えられています。

ツィーグラ女史は、当時一般的とは言えなかった彼女の考えを人々に伝えようと、言葉に大変苦心をしたようです。

表4は、その教本に見られる音のイメージについての記述の例で

す。これらを、指導者は、生徒たちにわかる言葉と、指導者自身の演奏による音で伝えていかなければならないとしています。

普段広くレッスンで使うには難しい面の多いこの本ですが、やはり近代のピアノ教本の礎となった

その考え方、技術指導の在り方等様々なヒントが散りばめられていると思います。ぜひその解説書(音楽之友社刊)とともに、目を通されてみてはいかがでしょうか。

ことを説明する、そして、それが出来たらまたほめていっしょに喜び合う。こうした○→X→○のくり返して、少しずつこちらの意図を伝えて行くことによって、最後は大きな成果を生むと言うわけです。

(3) 作品、教材の分析

とはいえ、初級レベルの作品は、曲も短く単純なものが多いだけに、感動を持って(1)や(2)を実践するのは難しいこともあります。そこで効果を発揮するのが、《音楽の三要素～メロディー、ハーモニー、リズム》から見た作品の分析です。

この三要素が、曲の雰囲気を作

り上げることに、それぞれ独特の役割を担っています。例えばベートーヴェンの「エリーゼのために」では、基本になるメロディーは単に「ラ→シ→ド」という上行です。これにイ短調の和音がつくことで、この曲に悲しいムード(ベートーヴェンの恋愛が、今のところうまく行っていない感じ?)が作り出されます。

さらにここにリズム的な要素: 上行する分散音型が加わることで、切ない、訴えかけるような曲想となるわけです。(譜例2)

このような観点で子供向けの作品を簡単に分析していくと、それを私たちの言葉で置き換える手助けになりますし、(2)の「○X○の

指導法」を実践する上でも、生徒さんの演奏の良かった点などを具体的に指摘してあげられます。また、子供向けの曲は音の数が少ないため、内在するハーモニーの動きが感じ取りにくいものですが、それらをも伝えていくことで簡単な曲でも色彩豊かに表現することが出来るようになります。しばしば起こる「ちゃんと強弱もつけて弾いているのに、ぜんぜん面白くない」という演奏は、かなりの割合で和声感が表現されていないために、そのような結果となっていることが考えられます。

表3

同、第7曲「予言の鳥」に、当初付される予定であった詩(初版出版時に削除)

Hüte dich! Sei wach u. munter! 気をつける! 油断するな!
v. Eichendorff フォン・アイヒェンドルフ

表4

⑨ベアタ・ツィーグラ著「耳から学ぶピアノ教本 Das innere Hören (1933)」に記された、「音のイメージ」に関する記述の例

高音部譜表、2点音の最初の5つの音による「5つの音による練習とこどもの歌」(教本の第1頁):
「次にあらわれる音をひくばあい、明瞭で、柔らかいソプラノの音質を思い起こす。音は、はっきりと、柔らかくひびき、しだいにただよいながら消える。耳はひびきの中心(核)をとらえておき、指先にその感覚を伝える。……」

2分音符: 「長い音というのは、《核》で長く休息することである。この間、手と腕はゆるめておく」

休止符: 「休止符の前の音を終止の音としてイメージに持と、しぜん腕の関節はいくらか上がり、手はたれ。ただし休止符の時も、手を鍵からはなさないように。指は次の鍵を打つようなかっこうにならないように。なぜならば、休止符というのは、その前の音の余韻を耳に残しておきながら、充足感のあふれた休息をへることなのである。この内面の感覚に残るひびきはつぎの音への橋渡しとなる。」

「こもりうた」: 「静かで、深いところに音の核がある。」

重音と三和音: 「……2音、3音の重音の個々の音を内面で想像したように、実際にピアノでべつべつに音を出してみよう。つぎに、同時に重音として内面に想像し、またピアノで同時に重音としてひいてみる。こうすれば、手はわざとらしくけいれんのように動いたりもしないだろう。目は重音の個々の音を下から上へと《垂直に》眺み取り、耳はおのおののひびきを《線》として《水平に》追う。……」

2 イメージを育てるピアノ指導のための3つのポイント

ここで、実際の指導の上で、子どもたちにイメージ豊かな演奏を身につけてもらうにはどんなことが考えられるか、3つのポイントにまとめてみようと思います。

(1) 指導者が作品に対してイメージを持つこと

生徒に伝えるために、まず指導者が伝えたいものを持っていないければなりません。大半の生徒は、最初からピアノが大好き、というわけではありませんから、先生の側が心から音楽を愛し、心をこめ

て伝えるという姿を見せていくことは、とても大切なことだと思います。

しかし、つい生徒の演奏を前にして、例えば仏頂面で「その音は、もっと柔らかく(怒)！」などと言ってしまいそうになる場面もあるでしょう。一方で、私たちは「この店のアイスクリームはとてもおいしくて……」などと話すとき、自然と顔は生き生きと輝いて、相手も熱心に聞きたい気持ちになると思います。私たちは、作品の持つイメージを常に心に描き、それを喜びをもって伝える気

持ちを失ってはならないと思います。

(2) 伝え方の工夫

さて、伝える為の有効な手法というのはあるのでしょうか。私が、ある先輩から教えていただいた手法の中に、「○X○の指導法」というのがあります。

多くの人は、まず自分を否定されると大変苦しみを感じ、その後の言葉を聞く気持ちを失ってしまうのだそうです。そこで、最初に相手の良かった点を認めてあげて、それから具体的に改善して欲しい



譜例2

Musical notation for the first part of the example, showing a treble clef and a single note. Below it, the text reads: 「これだけでは、存にもわかりません。」

Musical notation for the second part of the example, showing a piano accompaniment with a bass clef. Below it, the text reads: 「悲しげなムードになりました。」

Musical notation for the third part of the example, showing a treble clef with a melodic line. Below it, the text reads: 「切ない心情がこみ上げます。」

Musical notation for the fourth part of the example, titled "Für Elise" by Beethoven, showing a piano accompaniment with a bass clef and a dynamic marking of pp. Below it, the text reads: 「さらに訴えかけるような要素を加えて出来上り。」

©108 PEARL

さらに訴えかけるような要素を加えて出来上り。

3 具体的な例—「ピティナ・ピアノステップ曲集3」より

それでは、前章で触れたことを、実際の教材の中で見ていくことにしましょう。

「2.小品」

テルク作曲・保坂千里編曲

8小節の短い曲ですが、3小節目から4小節目にかけてクレッシェンドがあり、明確なクライマックスとなっています。この3小節目は★つまり複属七の和音になっていますが、このサイズの作品でこの和声進行は珍しく、重要なポイントでしょう。左手では、それまで全音符だったところに、右手のメロディの盛り上がりに対応するような新しい動きが現れてきます。

「6.かぶと虫の婚礼」

プレスラウアー作曲

8小節目までがmp、9小節目以降がmfとなっていますが、メロディの動きも、8小節目までがなめらかであるのに対して、9小節目以降はトリルの音型や臨時記号が加わり、より動的になったと言えます。たとえば、前半は「かぶと虫の登場」、後半は「かぶと虫の踊り」などの劇のようなイメージがあると、単なる物理的な音の強弱を超えた、mp、mfそれぞれのキャラクターを表現できるようになるかもしれません。

例えば、pで始まる曲のCDを、いくらボリュームをあげてもfにはなりません。音楽における強弱は、音量の物理的な大小とは明らかに異なるわけですが、自発的な音楽イメージの発展無しに、これを表現することは困難です。初期指導のころからこのことは留意しておかなければならないと思います。

「13.4羽の白鳥の踊り」

チャイコフスキー作曲、保坂千里編曲

早い時期から大作曲家の作品に触れるのもうれしいことです。このメロディはあまりにも有名です

が、異なるオクターヴで同じメロディが登場する点に、何か違うキャラクターが思い浮かべられると、音域による表情の変化を表現することにつながるでしょう。また、左手に継続して奏される、第3音なしの5度音程伴奏は、民族的な雰囲気表現のためにしばしば用いられています。

ちなみにステップ曲集の保坂先生の編曲は、各ステップ向けに技術的に平易にする一方で、こうしたそれぞれの曲の根本的な魅力やポイントを極力生かしてあり、また、和声感にも配慮されていて、音数が少なくても充実した響きを出せるようになっていきます。指導の際に、こうした特長を是非生かしたいところです。

「16.海」

井上武士作曲、保坂千里編曲

あまりにも有名な曲ですが、メロディが左手、つまり低音部譜表から始まります。「低音部譜表の読譜」や「左手の訓練」などと固く考えるより、「海のひろびろとした感じが、この音域にぴったりだ」ということを、先生の語りや音でイメージさせてあげた方が、子どもの左手は、有害な緊張を引き起こすこともなく、自由に歌えるようになるかもしれません。

「25.クラリネットをこわしちゃった」

フランスの歌、保坂千里編曲

「26.ワルツ『女学生』」

ワルトトイフェル作曲、保坂千里編曲

この連番の2曲は、調（ト長調）が同じで、しかも冒頭が同音連打7回で始まっています。しかし、当然のことですが、同じように弾き始めるわけにはいきません。いったい異なる点は何でしょう？ 題名、表情記号、拍子、スラーの有無、第1音か第3音か、伴奏形・・・等々、色々と見つけてみるのも面白く、ためになるでしょ

う。もちろん、歌詞をつけて歌ってみても良いですね。歌曲には、歌詞に対応してしばしば同音のくり返しが見られます。

「34.子鬼の火祭り」

保坂千里作曲

教育用のオリジナル作品には、編曲のような制約がないぶん、指導ポイントが効率よく集約されています。

まず目に付くのは、右手と左手の音型の交代による技術的な難しさかもしれませんが、それ以前にこの曲の様々な要素を見渡すと、とても面白い世界が浮かび上がってきます。

まず左手は、前述のチャイコフスキーと共通する完全5度伴奏で、民族的な雰囲気を醸し出しています。どんな打楽器が想像されるでしょう？ また、右手の音形は「火祭り」という題名にぴったりです。まるで、たいまつが火の尾を引いて舞っているかのようです。

このメロディのラインは、小節毎にミ→ミ♭→レという半音下降進行が含まれていて、不気味な感じを内在しています。

他にも、9小節と11小節のメロディの動きの違いと強弱の対応など、色々なポイントがあります。これらを、ぜひ豊かな言葉と音で生徒さんに伝えてあげたいところです。

ところでこの曲は、ブルグミュラーの有名な「アラベスク」と、調、音形等非常によく似ています。しかし、この2曲の曲想、雰囲気があまりにも違うことには驚かされます。このことは、音楽のイメージの成長なしに、技術的な訓練に偏った指導を行うことが、とても不合理なやり方であることをよく物語っているように思えます。演奏の印象を左右するのは、心の中にあるイメージをいかにして演奏として表出するかということであり、それは極めて心豊かな営みの中で身に付けていかなければならない、微妙で人間的、精神的な課題であると言えるのではないのでしょうか。

4 豊かなイメージの成長のために

ここまで、いくつかの角度から見てきたことを、音楽イメージの発展を中心としたピアノ指導の観点から、簡単な表にすることを試してみました（表5）。

教材の表面上の情報のみを機械的に音にするだけなら、機械にも可能なわけで、音楽の素晴らしさのひとつは、この「イメージ」が、弾き手の数だけ存在するところにあるわけです。しかし、イメージを創り出すためには、本間に様々なことを、年月をかけて身に付けて行かなければなりません。それをこの表では「イメージ力と内的聴音力の育成」という言葉で表現しましたが、もちろん他の色々な言葉も言いあらわせるでしょう。正に、この能力を育てるために、私たちの「言葉」は極めて大切な役割を持っているというわけです。

そして、それを演奏として表現するために表現技術の育成というテーマが控えています。こうした見方をすると、例えばエチュードの練習などにも、明確な目的意識と、効果的な取り組み方へのヒン

トが生まれると思います。

最後に、もう一人、偉大な芸術家の言葉をご紹介します。この拙文を終わろうと思います。いくらイメージ力の発展が大切だと言っても、「そうは言っても実際演奏が良くなるはずとまずい」等々考え、焦りを感じる場面も多いです。そんな時、私に、ある道しるべを示してくれたのが、岡本太郎著「今日の芸術・時代を創造するものは誰か」（光文社文庫）という本でした。

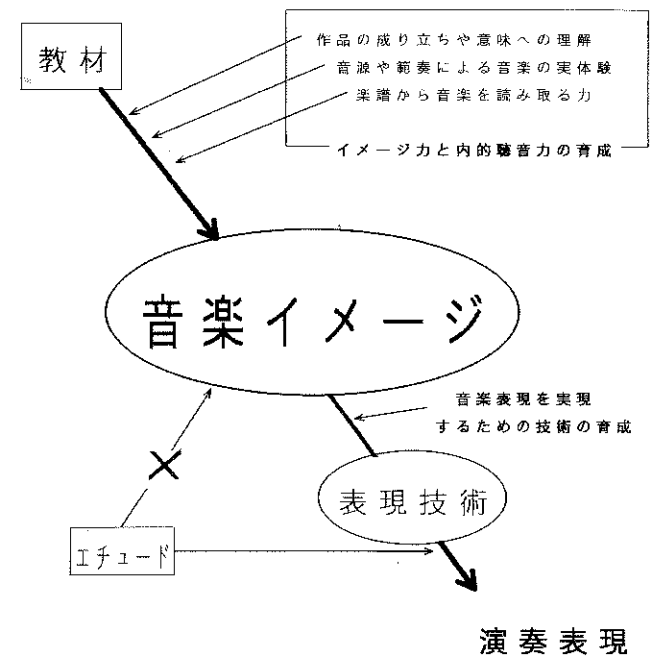
彼は、「創造する」ということは自分自身をつくっていることに他ならない、それは人間にとって、なくてはならないものだと言います。さらに、実際に何かをつくらなければ創造しなかった、なんて考える必要もない。絵を描きな

ら、じつは音楽をやっているかもしれないし、音楽を聞きながら、じつは絵画的イメージを心に描いているのかもしれない。そういう絶対的な創造の意志、感動こそ価値そのものなのであるというのです。

「創られた作品にふれて、自分自身の精神に無限のひろがり豊かなりどりをもたらせることは、りっぱな創造です」—もし私たちが、ピアノや音楽を通じて人々の生きがいを支え、その生命を生き生きと輝かせることに少しでも寄与できたとしたら、どんなに素晴らしいことでしょうか。それは、とても難しいことだとは思いますが、これからは希望を持って取り組んでいこうと思っています。

表5

～音楽イメージを中心としたピアノ指導の概念図～



ピアノ指導に際して考えられる2本柱

- ① イメージ力と内的聴音力の育成 → 生徒の個性的な音楽イメージの発展
- ② 音楽表現を実現するための技術の育成 → 演奏表現の質的向上

感覚的な耳を育てるために

～ノリ・拍感・リズム感の側面から～



きくち たかこ
菊池 質子

JML セミナー逗子教室室長

「鉄は熱い中にうて」は音楽でも同じである。ヤブロンスキーが幼児期にうけた最初の音楽教育は打楽器だった由。ノリ・拍・リズムの各感覚が演奏にいかにかが判っていればこそその見事な選択である。

赤ちゃんは一時期お母さんの膝の上ではちきれそうな感じで足の屈伸運動を繰り返す。これが西洋音楽のリズム感系統の基礎になると思う。この時期にリズム感・拍感・ノリ感覚のよい超一流の音楽(ジャンル不問)をさりげなくたっぷり聴かせながら、屈伸を楽しませておくといだろう。

プレ楽器で感覚的に最高レベルのソルフェージュの指導を受けていた四・五才児の反応である。めだかの学校が突然スタカートで始まった。子供達は即「泳げないよーッ」と抗議する。跳ねる感じの曲がレガートで始まると「とべないよーッ」と。実際にこれを目のあたりにされれば、どなたも「このままのばしたい」と思われるに違いない。

ノリ

西洋諸国には各地にダンスの伝統がある。大人が踊るのをみて、おむつのとれないうちから真似し

て育つ。リズム系のノリの感覚はこの様に楽しみながら、自然に振り子や円の運動と一緒に体で感覚的に憶えてしまう。言葉と共にこの方面に敏感な子供達の、リズム系の基礎になっているに違いない。

日本ではこの風習はないが、前述のプレ楽器の質の高いソルフェージュは、感覚的にリズム系を育てるのに非常に役立つ。又、ノリの良い音楽を充分に聴かせておくこともとても大切。この他運動や遊びを通して運動神経や反射を鋭敏にしておくことも大変プラスに働く。

ノリ=ドライブング。自分でよく集中して脈をとってみると、心地よい自然な弾みのついた拍と同時にグングン先へ引張って行こうとする勢いを感じる。この勢いを感じながら演奏すると、ノリの良い音楽がごく自然に流れ出す。

絶対音感はなくとも音楽は楽しめるが、ノリがないと流れはなくなり、響きは変わる。ノッている演奏は歌っている演奏につながるが、ノリがないと歌っているつもりでも実際にはねばって重く聴こえて来る。

「先生の耳はノリの感覚の有無に鋭敏であるように」「先生が弾かれるピアノ・たたかれる拍等はレッスンの際にじかに、またライブで子供の心身に伝わるので、それが

よいか悪いかで子供の聴感覚がよくなるか否かをきめてしまうという大変厳しい面をもつ。責任は重い」の二点を肝に銘じておかれるように。

導入時から数年、ノリがよく質の高いピアノで育った幼児達の耳は、リズム系ばかりか音楽の質にも冴えた反応を示す。正反対に重い拍・鈍いリズムを数年間聴いていると恐いことだが子供の耳はそれを「よい」と感じる習慣が浸みつく。時に回復不可能に陥る。

なお、導入期にはもちろん、高校生や大学生でもリズム系に限らず、音楽全般の練習に使われる課題一例えば先生のピアノに合わせて歩かせる・聴音等に使う曲も含めて一は西洋音楽に直結して音楽的に質の高いもの(例・きら星・むすんでひらいて・歌曲・室内楽やシンフォニーのテーマ等)を。またその1曲を国語の授業のように、実技・ソルフェージュ・聴音等が渾然一体化した形で扱うことが大切。

拍：曲の始からノリのある拍を感じる

感動させられる演奏の根底には必ずノリのある拍が流れている。これは音楽の基礎教育の一つの盲

点になっているのではないだろうか。

導入時からノリのある拍を曲の始め一曲の頭から拍を安定させるため、実際には始まる数小節前から感じ始める習慣をつけることは、音の出し方、音楽の運び等と同次元で非常に大切である。

その為には子供自身に前奏を感じさせるとよい。出始め八小節の後半四小節、又は大好きな部分四小節(速い曲では八小節)等を弾き始める直前に心の中で拍子を感じながら声に出しているつもりで一慣れないうちは手か足で拍子をとりにながら声を出して一歌い、繰り返しで戻るときの要領で、曲の頭から極めて自然に弾き始める習慣をつける。四小節が大切。弾こうとする音楽は既に体の中でノリのある安定した拍になって流れているので、誰でも気持ちよく自然に弾き始められる。最初に曲に対するイメージをもたせておくとい石二鳥。

西洋音楽の拍

「西洋音楽の拍は弾むためにぶつかっている」とは故小倉朗先生の御名言である。この感覚を座右の銘に子供に接するとよい。

念のために弾む拍を感じる手のたたき方の源は肩の脱力と自然な呼吸である。幼児に肩の脱力をさせるには、すべり台で滑っているイメージをもたせると自然に脱力も息をはくこともできる。

拍子

拍に周期運動を感じる。これが拍子の始まりであろう。(参考)

拍数の唱え方は西洋音楽の生命である弾み・ノリに直結している。重かったりまとったりする感じ方をさせてはならない。拍子感のとまりやすい日本語にこだわる必要はない。例えば

ワン トゥー スリー
アン ドゥ トゥロワ 等は自然に弾みノル。

リズム

人間の言葉・踊り・自然の様子等をいろいろな長さの音や間を時間的に組み合わせた運動で、又様々な音色で表現して聴覚に働きかけて来る。それがリズムである。

音符や休符はそれを記号化したもので、いわば音楽の文字。読みこなしは大切だが…。

幼児期は音楽的にセンスの良い耳を育てるのが先。質の高いリズム感を感じさせ習慣づけることが、言葉で言い表せないくらいに大切である。

動作のリズム感覚とリズム・パターンの関係

これから述べる極めて基本的なリズム・パターンは人間の呼吸と規則的な動作が源であろう。(講例1)

歩くを「」で表すと、「」が示すテンポの幅(例えばフリーサイズのように)は自然に決まってくる。拍子を唱える時等それを無視せぬように。無論はっきりしたテンポは速度標語等でできるが。

参考 拍子のたたき方

- 耳でよく聴きながら
 - (1) 一拍目に感覚的に一拍目にふさわしい心地よいアクセントがピタッとのってキマリ
 - (2) 弱拍は弱拍らしいひかえめで自然に弾んだ拍が
 - (3) 気持ちよいノリ感を伴って周期運動する。
 この三点さえおさえられていれば、どの様なたたき方でもよい。

*幼児は「パー・ゲー」スタイルで自然に弾ませてパー=一拍目=両手共パー
ゲー=弱拍=片手はパーのまま、もう一方はゲーでたたく

*小学生以上(低学年は幼児のように)
一拍目パー
弱拍はゲーの小指側で

●足で拍子(拍)をとる
楽器を弾き乍ら等もちろん感覚的に弾みノリを活かす。
かかとを床につけたままで足全体を弾ませる。この場合足首の脱力が大切。

●拍子(拍数)の唱え方
日本語ならば、弾み・ノリを活かして
イッ(チ) ニッ サン シッ と弾ませて

ほとんど発音しない。はずむ方が大切。

譜例1

歩く	2/4		simile
はや足 またはかけ足	2/4		simile
乳幼児の チョコチョコ した足の運び等	2/4		simile

背骨をのばし足の親指と土踏まずの中間の辺りに重心をおいて腰で自然に歩く。

「トオ」(弱拍)の扱い方について

「イチトオ・ニトオ」と言われる「トオ」や「ト」は拍や拍子・リズム・ノリの感覚を全滅させる。すべての音が同音量・同重量になり、テンポ感までなくなってしまう。だから幼児期にはリズム感・ノリ・音楽の自然な流れ等が感覚的に耳に定着するまで「トオ」を使わない方が真の意味で子供に親切。(譜例2)

うら拍を感じる

思わず踊りたくなるような感覚

的なら拍のきざみの心地よさを、幼児期に叩く・歌う・弾く等して、体と耳双方にじかに感じさせ楽しませることは、原風景的“うら拍感”になる—リズム感すべてについていえる—ので非常に大切である。(譜例3)

くるいのない自然なノリ・弾み・流れを感じさせるリズム唱

コダーイが基礎づくりのために考案されたリズム唱で、クラシック音楽のために感覚的にすばらしい。“しっかりした自然なリズム感の定着は音楽を楽しむ源”という

メッセージが伝わって来る。

子供達の「」等のリズムのこぼりは、片手で自然な拍をとらせながらこのリズム唱(後述)をさせてそれに合わせて弾かせると完全に解消されるばかりか、自然にノリ・弾みをもって気持ちよく流れる。甚だ質の高いすぐれたリズム感の練習法である。レッスンで大いに活用されるとよいだろう。又受験生や大人にもこの感覚的なやり方は大変役立つ。

このリズム唱がつけられた音符やリズム・パターンは極く基本的なものに限られている。(譜例4)

譜例2

生徒唱えたり
叩いたり等
3/4

先生数える

イとト は音の強さも重さも等しくなり弾みやノリは失くなる。テンポも重く遅くなる。

先生・生徒
3/4

先生・生徒

☆イ 即ち二拍目を感じてごく自然のうたにキメル。声もピアノで自然に。

譜例3

リズム唱

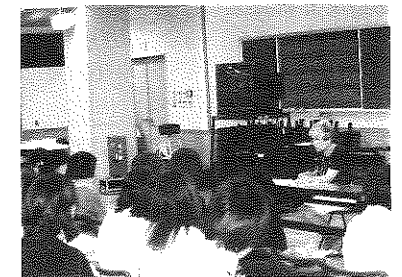
2/4

☆ス を心の中で声に出してしっかり聴くことは内的聴覚を育てる。集中力を高めるばかりか、のちのち応用範囲は広い。

譜例4

二拍が単位

一拍が単位



ピアノも心も弾みだす 美しい響きの防音空間

気兼ねなく、気持ちよく、心ゆくまでピアノレッスン。
実績25年の確かな技術で優れた防音空間をお作りします。

ミュージックキャビン
高遮音型ユニット式独立防音室。
社や梁の形、窓、扉の位置まで自由に設計できます。

ビルトインタイプ
高遮音型フルオーダー式防音室。
完全オーダーシステムにより、どんな形の部屋にも対応でき、スタジオなみの音響空間を自宅に再現できます。

施工は全国どこでも対応いたします。

■お見積もり、ご相談は無料。直営工事でお安くできます。
■ショールームは、いつでもご覧いただけます。防音に関するお問い合わせ・資料請求は、フリーダイヤルまでお気軽にどうぞ。

お客様相談室 ☎ 0120-55-0065

一級建築士事務所

高橋建設株式会社

ミュージックキャビン株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8

TEL 044-853-0547 / 044-852-1588

(社)日本音楽スタジオ協会会員 / (社)日本ホストブティック協会会員
(社)日本音楽学会会員 / (社)日本オーティス協会会員

高橋建設株式会社……(音響・映像・防音・建設・設計・施工)

URL: <http://www.takahashi-kensetsu.co.jp>

ミュージックキャビン株式会社……(組立防音室・設計・施工)

URL: <http://www.music-cabin.co.jp>

初歩のレッスンで伝えるべきこと

～習い始めの3年間に私たちはどこまで音楽の本質を伝えることができるか～



きはら りょうこ
樹原 涼子
作曲家、音楽教育家

ピアノランドを書いて、10周年記念に、ピアノランドフェスティバルを企画、オーケストラとの共演者を選ぶために、全国10箇所ですべての公開レッスンを

しました。その経験をもとに、初めの3年間に私たちは音楽の本質をどこまで伝えられるか、ということを考えてみたいと思います。

音楽って何だろう？

レッスンをしていく中、ピアノを弾くことに「喜びを感じている生徒」と「全く感じていない生徒」がいました。私にとって「音楽」は、とても楽しいものであり、なくては生きていけないほど大好きなエネルギーに満ち溢れているも

のです。「音楽」によって勇気を与えられたり、癒されたり、共感したり、決して指だけを動かすものではなく、心を動かされるものです。そして「音楽」でしか表せなかったものを作曲家は書いたのです。

それを感じよう、汲み取ろうとしているのでしょうか。それはベートーヴェンやショパンなどを弾くときになってでなく、やさしい曲を弾いている時から大切なことです。

1. 音楽を好きにさせる

ピアノのレッスンはプレッシャーやストレスになるのではなく、オアシスになるといいですね。聴くのが、歌うのが、合わせるのが好き。その為には、コンサートと一緒にいたり、ホームコンサートを開いたり、また先生自身が楽し

んでいる姿をまず見せることが大切ではないでしょうか。本物のオーケストラなどのピアノ以外の音を聞く事も、イメージを広げるために必要ですし、家族でCDを聞く時間を持つように促すことも素敵なことです。

「音楽が好き」に育てていくと、どんな短い曲も「心を動かして歌う」ことができるようになります。「物理的にその鍵盤を弾く」というのではなく、「歌おうとするエネルギーをそのまま鍵盤に伝えて歌うように弾く」ことが大切です。

2. 楽譜から作曲者の考えを読み取ろうという姿勢を育てる

単に高さや長さを表すだけでなく、曲への興味、共感、構成、アナリーゼ、どう弾きたいかへのイメージづくりなど、楽譜から読み取る姿勢を小さい頃から積み上げていくことが重要です。例えば1巻の「ひこうき」で例示してみましょう。

(譜例1)
メロディーに合う歌詞を考えましたので、しっかり歌うと棒弾きにはならないと思います。同じメロディーを見つけたら、シンコペーションなど、違うリズムを感じるなど、アナリーゼをして弾くこ

とも大切です。メロディーだけを演奏する楽器に負けないうらいにピアノでも「メロディー」の完成度を高めることが重要だと思います。

3. 表現しようという意欲に応えられるテクニックを育てる

小さい頃から手に対する意識をもたせることが大切です。ピアノの音を出す前に、指の独立をさせる。ねらった指だけ動かす。両手の指先を合わせて、2本(3と5の指)を動かす(図1)、なども、指先の感覚が鋭敏になるでしょう。腕の重みを支える強度も必要なので、机の上に手の形を作り、「山つぶし」「指先つぶし」などゲームにしたりします。

1の指は付け根の関節がキーより上にきて、上下左右などに動く自由度を確保すること、付け根を引っ張って広げてあげることが大切です。まむし指を防げます。5の指の付け根の支えも重要です。筋力があり、柔軟で、関節の角度をコントロールして使うことによって、疲れにくい指が得られます。ピアノを弾く前にねらった指が自由に動くように、机の上などで指の独立の体操などを取り入れましょ

譜例1

また初歩の頃から、タッチを使い分けることも大切です。(腕ごと使う「アームタッチ」、手首を柔軟にして使う「ハンドタッチ」、指先

の「フィンガータッチ」)～ピアノランドテクニック上、(図2) P5～

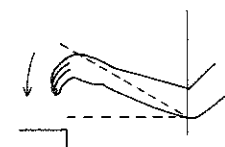
② そーつと タッチ ②と③を5かいくりかえしましょう。

できたら 2のゆびからじゅんばんに、そーつとはなして、「そーつとタッチ」を2かいずつやってみよう。

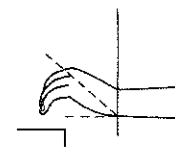
・アームタッチ・
ひじから先を使う、
大きい動きのタッチ

・ハンドタッチ・
手首を柔軟にして、
手首から先を使うタッチ

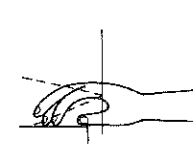
・フィンガータッチ・
手首は動かさず、
指の上下運動を使うタッチ



レッスン1から使い始めますが、子供にアームタッチという言葉は教えるのは、レッスン2です。



レッスン2から使い始めますが、ハンドタッチという言葉はレッスン2で覚えます。



レッスン5から使い始めますが、フィンガータッチという言葉は、レッスン2で覚えます。

4. 音楽的聴力を伸ばす

ただ聞こえてくる耳でなく、注意深く聴く、音楽的聴力を伸ばしてあげましょう。「何を聴くのか」を具体的に示し、細かいところに

耳を使うことを教えてあげてほしいと思います。自分の音を聴いて、良い耳を育て、他の音も聴ければ、連弾が楽しくなるはずですよ。



「ワクワク、ドキドキ、楽しい」の証明、ピアニストの小原孝先生の飛び入り参加、樹原先生との連弾でしめくり。

まとめ

二段階導入法でピアノを弾くために必要なことを、弾く前に別に学びましょう。歌いたい、弾きたい気持ちで指も自由に動かし読譜もOKという状態で、ピアノを弾くことが大切です。

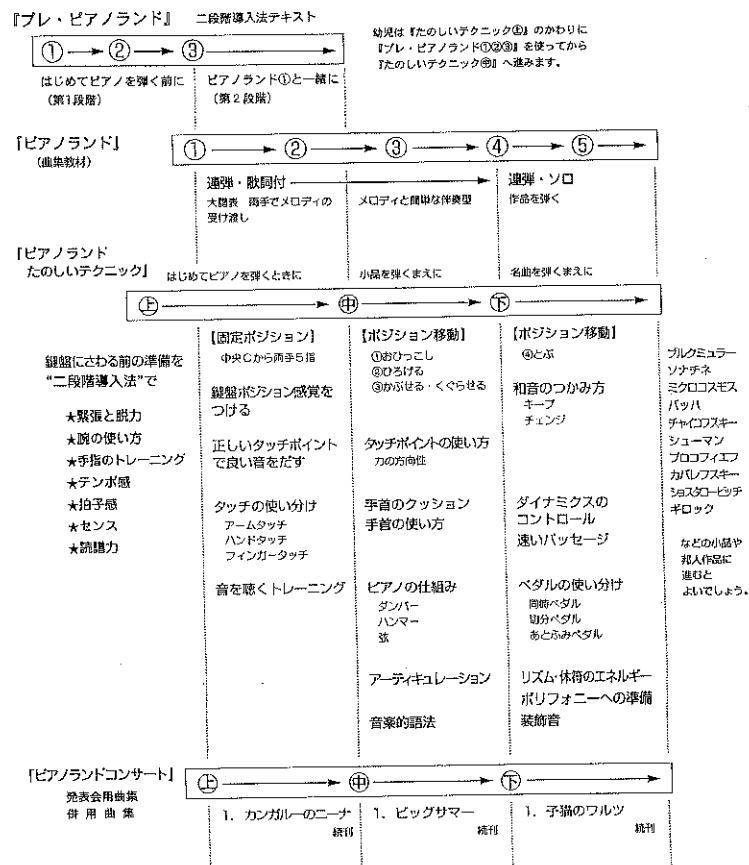
「読む」力を最初の3年間からでこまでつけてあげられるか、そして音楽の原点をいかに楽しく伝えていけるかが私たちの仕事だと思えます。

(レポート：池川礼子 指導者育成委員)

4つの柱「聴く」「歌う」「動く」

ピアノランドシリーズのシ・ス・テム

このシリーズは、ピアノの導入期に音楽性とテクニックの基礎を身につけるためのメソッドです。「ピアノランド」は、テンポ感・リズム感・和声感を得るために連弾でスタート。古典だけでなく、ロマン派・近現代の音楽へと幅広く導くことができます。「ピアノランドたのしいテクニック」は、良い音をだすための身体の使い方を豊富なイラストで解説。タイトルのある音楽的な課題で、興味をもって練習できます。



※配布資料より

特集2

ピティナ・ピアノ指導セミナーVol.16



まるやま きょうこ
丸山 京子

当協会正会員、検定・指導者育成委員

教材選びのヒントはどこに？

～豊かな教材からレッスンの可能性を引き出すために～

本講座では、現在日本で出版されている、主な国内外の導入レベルからの教本に、既に絶版となっているが、内容に特色があり、示唆に富むと思われるものをいくつか加えて、1951年/メソッドローズ～1999年/ミュージックパサウェイズまでを日本初版の年代順に、著者国籍/構成&併用教材/特色の3項目で表にまとめ、いくつかの視点から教本の特色を考察し、教材選びのヒントを探った。

明治13年、ホワイティング・メーソンによって日本にもたらされたバイエル教本が日本のピアノ教育に大きな影響を与えてきたこ

とは周知のとおりだが、昨今では、その内容の是非についてずいぶん論議されている。日本では1951年に、故 安川加寿子訳・編によるメソッドローズが出版されて以来、現在に至るまで数々の外国教本及び日本人著者・作曲家による教本が出版されてきた。

どの教本にも特色があり、中でもハンガリーや旧ソヴィエトの教本には、その国独自の教育システムが土台にある。また、ハンガリーや旧ソヴィエトを含む海外で学んだ日本人による教本や、日本人作曲家の作品を取り入れたり、ハンガリーやアメリカなどの教本

の影響を、少なからず受けていると思われる海外の教本などから、歴史的に国境・民族・宗教などを越えて、多くの教本がアイデアのみならず、音楽教育に取り組む上での基本的な考え方という点で、それぞれ独自の世界を持ちながら、大なり小なり影響を及ぼし合ってきたと感じられる。

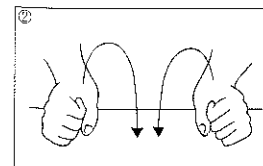
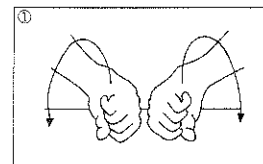
ハンガリー系教本

(譜例1)

〈ピアノの学校〉は、ハンガリーの音楽教育システムを築いたゾルターン・コダーイの考えを生かし

譜例1 てを回してんさせよう (げんこつ) Let's rotate with the fists

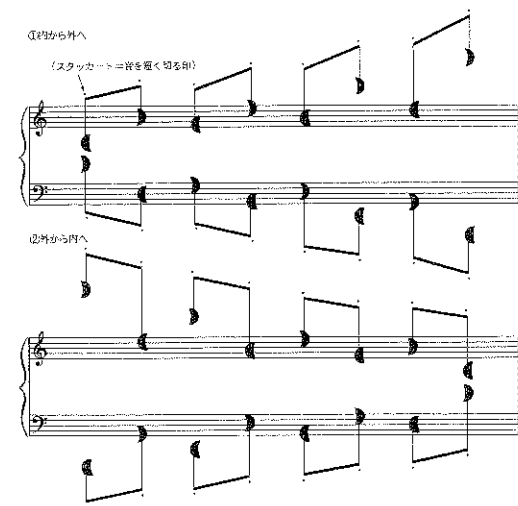
<ピアノはうたう>
加瀬り子 監修
加瀬園子 編者



手首は、もち上げたり、前に押ししたり、引っぱったり、いろいろな動きができます。ここでは、手首を回転させてみましょう。

(1)手を軽くにぎって、親指と人差し指の側を鍵盤に乗せます。肩の力を抜いたまま、げんこつを上にはじきますが、はじいた勢いで弧を描き、小指の側が鍵盤の上にくるように回転させます。鍵盤に乗せてから、これも上に向けてかっくはじきます。音ははじいた時に出ることになります。

(2)今度は、外側から内側に回転させます。(1)と同じ要領で、必ず鍵盤に手を乗せてからのはじいて下さい。



て作られたピアノ教本である。音楽は歌うことから…、自国独特の音感覚をも育てよう…など、ハンガリーの歌を中心に歌うことを土台とした、コダーイシステムの特色を知ることが出来る。

〈新ピアノの学校〉、〈ピアノはうたう〉では、ハンガリーの中心的音楽教育者・作曲家であるクルタークの作品や教育手法が巧みに取り入れられている。〈ピアノはうたう〉では、げんこつや肘で弾くクラスターや、倍音・グリッサンドなどを使って鍵盤上を自由に弾かせる遊びの精神を、ピアノを弾く上でのテクニック学習と結びつけている点が大きな特色である。

ハンガリーの教本には、ペラ・バルトクが書いた〈こどものために〉や〈ミクロコスモス〉などがあるが、導入レベルという点で、本稿の考察の範疇から省いている。絶版となっているが、ペラ・バルトクが音楽教育者シャーンデル・レショフスキーと合作したテクニック教本〈ピアノメソッド〉は、ピアノの弾き方に対する非常に細かいアドバイスが、必要な楽典と合わせて書かれていて、バルトクのピアノ教育に対する考え、こだわりなどを知る上で大変興味深く、教本史上、テクニック

教本の秀作として特筆されるべきものと考えられる。

ドイツの教本

ドイツの教本のなかでは、クラウス・ルンツェの〈12のキー〉が、ひときわユニークなものとなっている。演奏に結びつく想像力・創造性の開発を、鍵盤に触れて発見・体感させながら導いていこうとする考えが興味深い。(譜例2)

フィンランドの教本

スオミ・ピアノスクールが1988年に翻訳出版されている。

スオミとはフィンランド語でフィンランドを意味する。この教本では、最初の段階から終始一貫して、想像と創造を表裏一体とする考え方で学習内容が構成されていることが興味深い。その特色は、即興・創作のページで顕著である。(譜例3)

バロック・古典・ロマン・近代の作品が演奏曲目として配列され、フィンランドや日本の作曲家の作品、米系ジャズスタイル作品も取り入れられている。コードネームの学習がレベルごとに整理されているのも興味深い。

アメリカの教本

アメリカの教本に関しては、分量が多く、ここではその大半について述べる事が出来ないのが残念であるが、どれもユニークで示唆に富む内容構成となっており、導入レベルから中・上級にいたるまでの学習内容を、ソルフェージュ・楽典・鍵盤和声・移調・即興創作(問答奏)など音楽学習に必要な内容を網羅し、相互関連して学習を進めることができるように、テキストをレベル・内容ごとに分冊する形をとっている教本も多い。

講座では、ひとつの視点として、各教本で初めてピアノを弾く学習をどのように扱っているかを考察するために、その部分を並列掲載した譜例を参照した。

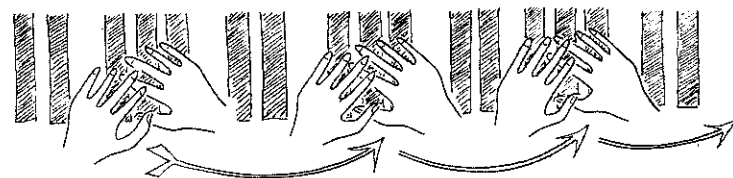
日本の教本

日本では1957年に、みんなのオルガン・ピアノの本、いろおんぶが出版され、1982年に出版されたメソッド・クリエは、音楽総合学習の考え方で非常に示唆に富む内容・構成をもっている(絶版)。海外の教本・音楽教育に対する基本的考え方に大きな影響を受けていると感ぜられる日本の教本は多い。

譜例2

ごあいさつ「シマウマさん、こんにちは！」

ピアノのふたをあげましょう。
黒いキーと白いキー、シマウマのようですね。
それとも、おうだんほどうかな。
2つならんだ黒けんと、3つならんだ黒けんのあいだは、すきまがあいていて、はが、ぬけているみたい。



ひきかたの手引き

両手を3つの黒鍵群上に乗せて、ピアノの低音部の端から高音部の端までひいていきます。しっぺ遊びなど、子どものよく知っている遊びを使って、手を重ねていきますが、つぎに移るときには、下の手から抜くようにします。

ピアノとの最初の出会いは、黒鍵による大小のクラスターからはじめます。鍵盤上を平手で、2つの黒鍵群、3つの黒鍵群、さらに、5つの黒鍵群といったようにひいていきます。

ピアノの響きを、触覚からも感じるために、目を閉じて、鍵盤上を這うように進みましょう。

教材を選ぶ上でのポイント

◎どのように育てたいか…生徒に身につけさせたい技術や知識・能力などの到達目標を持つ。

◎教材の内容・構成・流れを調べ、その根底にある考え方、教育理念を理解する。

◎生徒の個性を見極める。今何が必要か…、どのように育ちつつあるか…などを、注意深く観察し

判断する。

◎一人一人違う個性や状況に対応できるよう、ひとつのメソッドに生徒をはじめこみすぎず、多くの教本から得られる知識、知恵、方法、基本的考え方を活用できるように、教師自身が常に学ぶ姿勢を持つ。

教本がどのような考えで書かれているかを知ることは、教材選びの際の大きなヒントとなる。教本

に見られるさまざまな指導の工夫や配列、ピアノ教育に対する基本的な考え方、姿勢などから、教師自身も大きな示唆を得ることが出来るのである。

譜例3

展覧会にて

絵をもとにした即興演奏です。それぞれに示したガイドは単なるヒントですからそれに厳密に従う必要はありません。これまでになが学んだ作品のアイデアを利用して下さい。新しいテクニックをあなたのセンスで伝統的な様式に結びつけても良いのです。特にニュアンスをつけることや、いろいろな弾き方(スタッカートやレガート等)をすることを忘れないで下さい。即興演奏する時に、はじまりと終わりのある全体像を創り出すようにしましょう。勇気を持っていろいろな可能性を試して下さい。即興演奏においては「まちがった音」はないのですから。

自分の演奏をよくおききなさい!

1. 鐘乳洞にて

鐘乳洞の奥深くで響く音に耳を澄まして…。
単音で、又はアルペジオの和音で、均等にあるいはだんだん速く、あるいはだんだん遅く、例えば次のように弾いて下さい。



短いメロディーを弾いたり、和音を勢よく弾いて、それが洞にひびく…のをききましょう。ペダルを十分に使って下さい。

2. 月夜にうかぶ影

形のない影、重い足どり一逃げなければならない…
多調和声で多調的な和音の集まりをつくりましょう。左右の手で互いに関係のない調の和音(例えばCとF#)を同時に弾きます。トレモロや突然のアクセント、興奮するようなリズムで緊張感を作り出して下さい。

3. メタモルホーズ(形の変化)

まず、下のように始めて下さい。それから少しずつ変化を与え、終わりにには全く違ったものになるようにします。音だけでなく、リズム、テンポ、デュナーミク、タッチ等も変化できることを忘れないで下さい。



4. 火山

…大地が揺れ、もえる硫黄のおう大噴火のなか、岩のかたまりが大きくなっていく溶岩の流れにのまれる…
グリッサンドやいろいろな幅のクラスターを使って下さい。あなたの腕はどのくらい広く鍵盤をおおえるか試して下さい。

5. 機械

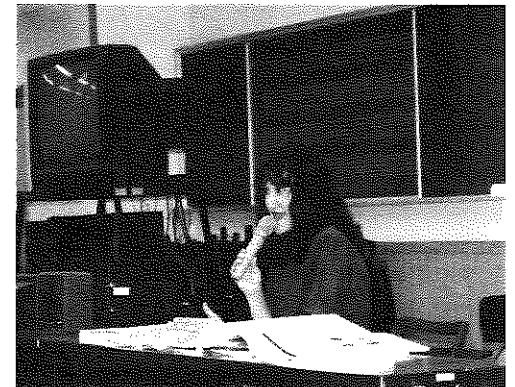
規則的なリズムと金属の響き—機械は眠りません。スタッカートのタッチと力強いアクセントで止まることなく繰り返される機械のリズムを弾いて下さい。メロディーを捜そうとせず、はじの方の鍵盤を使いましょう。はじの方は音の高さが厳密には区別できないので、リズムやいろいろな響きを創り出すことに集中して下さい。

6. 舞い降りる雷

～12月～
白鍵だけを使いましょう。右手は柔いオスティナート、ずっと繰り返す単純な音型を考えて下さい。左手は長い和音、又は例えば、オクターブが6度でゆっくりとしたメロディーを弾きましょう。

7. ピラミッド

1000年—1秒…
左腕で低音域の黒鍵をできるだけ広く無音のクラスターで押します。それから右手で白鍵をスタッカートで不規則に弾き、神秘的な音を発展させましょう。響きをきいて!



Interview

平成音楽大学

～21世紀を切り開く新しい校風と教育～

九州や台湾、韓国出身の学生を中心に、基礎からきちんと教え込む音楽方針で30余年。多くの教員や音楽家の輩出、米カーネギーホールでの公演の大成功、半数以上に上る短大卒業生の専攻科進学など、数々の総合的な教育の成果に後押しされ、21世紀の幕開けとともに、九州で唯一の4年制音楽大学として、平成音楽大学（旧熊本音楽短期大学）が新たなスタートを切った。

●監修●音楽大学代表連絡委員会

「心と心の繋がり」が見える校風

一先日の出田学長の就任祝賀会で、学生のみなさんによる合唱を拝見しましたが、その生き生きとしたポジティブな表情が大変印象的でした。また、学内で通りがかったどの学生も、明るい声でしっかり挨拶をされます。正直言ってこういう大学は初めてだったものですから、びっくりしました。これは、御校独特の雰囲気だと思います。

音楽以外にも含め多くの大学で、教員に挨拶をしないばかりか、顔も見ない学生たちが多いことに驚かされます。確かに挨拶することが自然となっている本学の伝統は珍しいのかもしれませんが、学生たちは入学前の講習会やオープンキャンパスでこの気風に触れていますから、多くの者が入学時にはそのことを理解しているようです。

私も学長という立場にあっても、学生1人ひとりに声をかける機会を大切にしています。大規模校では難しい「心と心の繋がり」が本学の教育の要ではないでしょうか。

それぞれの学生が現在どのような状態でレッスンや演習に臨んでいるのかを把握しながら、各教員は

授業を進めていくことが大切です。そこで何か問題があれば、私生活のことであったとしても個別にカウンセリングしながら進めます。欠席がちな学生にはそれぞれの理由がありますし、彼らをひとくりにせず各人に応じて対応することや、親御さんに対しての毎年次の単位取得状況を報告することにより多くの問題を解決することができます。特に音楽以外のマンモス大学では、「何となく入学して何となく単位を取り、授業なんてろくに聴いてはいない」ということを、多くの先生方から聞きます。日本では入学する前は「勉強なさい」と言う人がたくさんいるのに、入学後に常に気を掛けてくれる人は少ないということを痛感します。最近では受け身型の学生が多いようですが、そういう学生たちに対しては、目標や意欲を持たせる配慮が必要でしょう。

「潰しのきく人材」の育成へ

一四年制大学として開学するにあたって「21世紀型音大の設立」を打ち出されていますが、どのような教育サービスを提供していきたいとお考えですか。



出田 敬三
Keizo Ideta

作曲家・平成音楽大学学長・教授

20世紀の日本の音楽教育は、欧米から輸入した音楽を模倣してこれに追いつくことを目的としていました。本学の目的はこれから脱皮し、アカデミックなスタイルを守りながらも、新しい時代へ向かって、全国そして欧米へ何かを発信できる音大を目指すことです。クラシック音楽のみならず、コンピュータミュージックや電子オルガン、日本の伝統音楽やポピュラー音楽、大衆音楽、音楽マネジメント、音楽療法、生涯教育、国際交流、地域との交流などをキーワードに、ユニークな新しいスタイルの音大にしたいと思っています。日本での音楽教育は東京に集中しがちですが、ヨーロッパでは各地に音楽学校があり、それぞれが独自の伝統を持って教育を行っているように、その地域ならではの教育、発想が必要なのではないかと思えます。また、経済的理由から優秀な人材が埋もれることがないことを願い、学費を押さえる努力もしました。特に優秀な人材は特待生として授業料減免で迎える制度もあります。（平成音楽大学の初年度学納金は190万円。全国平均比マイナス53万円）



左上) ピアノ科の授業風景：ピアノ科の一学年は60～70人程度。「特定の門下の学生」という概念ではなく、この大学に入った生徒はみんなの生徒だ」という考えから、ピアノの教員は学生1人につき2名。実技試験の日は、日ごろジーパンを履いている学生も、正装で臨むのが伝統になっている。

左下) ニューヨーク・カーネギーホール公演：1997年に熊本音楽短期大学開学25周年記念公演で、100名のプラスオーケストラと80名の女声合唱団を指揮。自らの作品である電子オルガンとパーカッションの曲にモダンバレエを取り入れた演奏は、アメリカの音楽雑誌で紹介され好評を博した。

右上) 「華麗なる音楽の祭典」：毎年開催しており、県外に於いても高い評判の演奏会。宗教曲や日本歌曲、オペラからミュージカルまで、幅広いジャンルの音楽を披露してきた。全学部の学生が10月1日から毎日1時間の練習を開始し、11月後半になると夜の7時半くらいまで練習が続く。専門科目の垣根を取り払い、全科目の学生と教員が一体となった音楽活動に励んでいる。

一確かに、これまでのピアノ教育は、数百年前の西洋音楽を再現することが中心、卒業後はほとんどの人がピアノの先生になっていたと思います。今後は指導する上でも編曲や伴奏付けや即興演奏を取り入れた方が良くと思うのですが、どうお考えでしょうか。

これからは「潰しのきく人材」、つまり演奏家として指導者として、また職業人としての養成が大事です。ピアノ以外の教育の強化、例えば即興演奏、ポピュラーを含めてちょっとした歌の伴奏などを施すことによって、ピアノが社会活動や生涯教育に結びつくと思います。やはり総合的な音楽力を身につけることで、現在、限られた分野を除けば全国的に就職難の状況にあります。地域を含め各方面で活躍できる人材を育て輩出していくための体制を強化しています。演奏活動、教育活動、社会活動の3本の矢を持った折れない人材を育てていきます。

社会活動への積極的な参加と支援

一例えば、ピアノ指導者によるコンクール運営も社会活動の1つと思いますが、ピアノのスキルを持つ人

材が貢献できる社会活動としては、どのようなことをお考えですか。

全国の市町村には立派なピアノのある音楽ホールがたくさんありますが、弾く人が少ないというのが現状です。どこでも地域のニーズに合った演奏をする優秀な人材を求めています。もちろんクラシックも重要ですが、たとえば懐かしの名曲や日本の歌、童謡などをピアノでも自由に弾きこなしていく応用力が求められていると感じます。生涯教育という場面では、老人ホームや障害者の施設・病院などでもピアノが入れられています。音楽の需要はたくさんあり、十分に活躍していく場はあると思います。それらと繋がりを持つべく、積極的にお付き合いをすることが必要でしょう。ただピアノを弾くだけでなく、社会がどのように流れているかを捉え、それに対してどのような音楽を作っていきたいのか、社会と音楽の繋がりは何かということ、今後ますます考えていく必要があると思います。

一地域の社会活動に参画していくために、御校では具体的にどのような対応をされていますか。

附属機関として音楽総合センターを置き、私自身が所長としてこれにあたっています。公共団体や企業との関係作りに努め、地域の情報を収集し、年間何十本もの演奏の機会を創出しています。たとえば駅でのコンサートをプロデュースしたり、スポーツ大会のオープニングで演奏したり、スクールコンサートで小中高校や幼稚園へ出前演奏したりしています。つい先日もサントリーのビール工場がこの町にできることになり、そこで演奏の機会がありました。そういう企業との文化を通しての繋がりも含め、いろいろな場面で発展のチャンスを期待しています。

またセンターでは、教授陣の学外での演奏についても支援しています。教育だけにとどまることなく、自らがリサイタルなどで演奏し研鑽して実践を積んだ上で、教育に生かされなければならぬと思います。ピティナの先生方にとっても同じ問題だと思いますが、先生たちが競り合って、頂点を目指していくのが、教育に対する士気を上げていくのにも必要なことだと思います。

一ありがとうございます。

取材◎福田成康（当協会事務局長）
文◎霜鳥美和

出田 敬三◎ウィーン国立音楽大学作曲家卒業。ウィーン市立音楽院指揮科修了。米・イオンド大学名誉博士（芸術学）。オペラ「細川ガラシア」の作曲をはじめ、現代音楽、ポップス、イベント音楽、NHK「みんなのうた」までジャンルは幅広く、国内外で多数の作品を発表。東京シテフィアルや丸舞なども指揮。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、日本童謡協会、各会員。日本音楽著作権協会正会員。

Report

日中友好学生ピアノコンクールを立ち上げて

～大阪・上海友好都市20周年記念～



中田 元子
Motoko Nakata

当協会評議員・当協会千里支部部長

大阪府・上海市友好都市締結から20年。かねてからアジアを結ぶ音楽交流を考えていた中田先生は、これをきっかけに国際コンクールを創設。企画から実施まで数ヶ月という厳しいスケジュールにも関わらず、日中交流の名にふさわしい工夫に満ちたコンクールとなった。

●監修●国際委員会

アジア各国の極めて高いレベルを目の当たりに

今年も熱く盛り上がったピティナのコンペティションが終り、私の周りは再び静かな生活に戻りました。今年は昨年のショパンコンクールの優勝者リ・ユンディの先生であるダン・シャオイー教授が海外招聘審査員として来られた事がとても印象的でした。

教授の「21世紀のクラシック音楽の中心はアジアにある」とおっしゃる言葉は、私自身も実感している事です。それは1995年仙台における第2回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールを見学に行った時、初めて感じたことでした。中国や韓国から多勢の子供達が受けに来ていて、彼等の演奏が素晴らしい事にショックを受けた事が思い出されます。

日中友好年に共同で国際コンクールを立ち上げ

それから5年後の2000年、私は日本と中国の子供達の為のコンクールを作りました。

事のきっかけは、昨年2月に蘇州のピアノコンクールで入賞した子供達が大阪を訪問したことに始まり

ます。その時ご縁があり、私の生徒達と合同で演奏会を致しました。それがとても有意義な事と強く感じて下さった方達の中から、「2000年は大阪府と上海市が友好都市締結20周年であるので、それを記念して日中学生ピアノコンクールを作ってみてはどうか」という話を持ち上がったのです。

2000年以内に予選と本選を実施するのですから、急がなくてはなりません。ピアノに関する事項は、私ともう一人の理事が連日の様に話し合っ進めて行き、他の理事や主人達が資金集めに奔走して下さいました。また中国人の理事は通訳として動いて下さったりと、大忙しでした。しかし私達の頭の中はどんどん夢が広がり、今までにないコンクールを作りたいという気持ち一杯でした。

日中共催をより実のあるものに

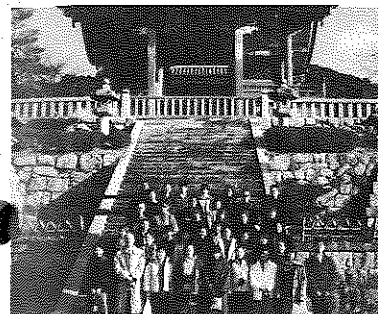
予選の審査員は指導者としてベテランの方でなく、むしろ経験よりも国際的にピアニストとして活躍しておられる方から選び、本選は日本と中国以外の諸外国の方々から全て選びました。それはなるべく国際水準のレベルで、日本の子供達のピアノを聴いて頂きたかった事と、アジ

アの中の日本と中国の子供達の演奏が、西洋人である教授達の耳にどの様に聴こえるのかを知りたかったからです。

よく耳にする話ですが、「日本人の演奏は皆どの人も同じ様どか、指はよく動くけれど個性が今一つ」等とされています。けれど皆さんそれぞれに音楽を理解して音楽づくりも考えている筈です。それなのにどういふ事なのか、という疑問が私にはいつもありました。現に、かつて上海音楽院へも教えにいらした事のあるニキタ・ユジャン先生から「今、中国の子供達のレベルは大変高いけれど、日本の子供達は大丈夫か？」と何度も訊かれました。また現ヴァンクーヴァー音楽院ピアノ科主任教授のリ・カムシン先生は、北京中央音楽院の客員教授として時々中国で指導されていると伺ったので、かなり中国に力を入れているのだなと思っておりました。

今回のコンクールを通して、中国の子供達がどういふ教育を受けて、どんな演奏をするのか、また日本と中国の教育の違いも何かわかるのではないかと、大変ワクワクした思いでした。

課題曲は小学生、中学生、高校生、大学生とも、予選本選を通してバッハ作品、ハイドン、モーツァル



左) コンクールの授賞式にて、入賞者全員で記念写真。
左下) コンクール本選の翌日、審査員の先生方と京都散策へ。
中央) 今年3月上海音楽院での入賞者記念コンサート後に。左はピティナでも活躍した堀勇気君。
右) 同じく同コンサートにて。右より泊真美子さん、酒井有彩さん、堀勇気君。皆さんピティナでもお馴染みの顔ぶれである。

ト、ベートーヴェンいずれかのソナタ第一楽章、ロマン派の曲等。本選においては、小学生の部では香月修、中学生の部は西岡龍彦、高校生の部では夏田昌和、大学生の部では三瀬和朗各氏に、このコンクールの為の委嘱作品を作曲して頂きました。それらは本選に通過した者に、同時に手渡されました。私達はピアノのコンクールというだけでなく日本の作曲家の作品を広く知って頂き、また次回コンクールの開催が実現した折には、中国人作曲家の作品を本選の課題曲として採り入れ、両国の楽曲が交流する事も意義のある事と考えていました。

両国が大健闘でお互い良い刺激に

予選を8月に日本と上海別に行い、本選は12月23日日本にて開催することになりました。

日本における予選本選に際しては、ヤマハミュージック大阪の藤野社長が「本選にはスタッフと、浜松から国際コンクールにふさわしい素晴らしいピアノを無料で運び入れ提供しましょう」と言って下さいました。このスタッフというのが奥山功

課長をチーフとするピティナ千里支部のメンバーで、コンペや他のコンクールで鍛え上げた素晴らしいチームワークで見事にサポートして下さい、おかげさまでコンクールを無事終える事が出来ました。

また上海側はヤマハ上海(小川恭士社長)が、ヤマハ100周年のイベントの一つとして協賛して下さいました。

上海では参加者が多数集まり、予選に加え急遽上海本選を致すこととなりました。この上海本選に合格し、日本本選進出が決まった出場者には、日頃あまり良いピアノを弾いていないとのことで、日本での本選に備え、日本で弾く予定のCF「S」を用いてのホール練習も何度もさせて頂きました。

そして、いよいよ日本での本選の日。小学生部門と中学生部門では、中国からの出場者が「本当にこれが子供の演奏か」と思える程の素晴らしい演奏を聴かせてくれました。高校生と大学生部門では、日本の学生達がよく頑張り、ピティナ子が大健闘致しました。お互いにより刺激とよい影響を与え合った事でしょう。

次の日は審査員の先生達と本選

出場者とその父兄、そして我々スタッフとで京都見物に行き楽しく遊びました。食事の時には前日の自分の演奏についてアドバイスを求めている姿も見られました。

聴衆の方々から口々に「こんなにすごいコンクールになるなんて」と言われましたが、私も予想しておりませんでした。

特に私がおもしろいと思ったのは、同じ部門で共通して弾く委嘱作品においては、国民性の違いか、教育の違いなのか、日本的、中国的の2つの傾向に分かれていた事でした。中国の子供達の演奏は、リズム感のシャープさと曲全体の構成がしっかりしていて音色とニュアンスが曲に立体感を持たせていました。日本の子供達は少し線は細めですが、繊細で情緒的でした。また中国の小学生の弾くベートーヴェンソナタの中のアフタクトの部分で、審査員全員がお互いに顔を合せたり「ウーン」と満足そうにうなずき合っていたのも印象的でした。

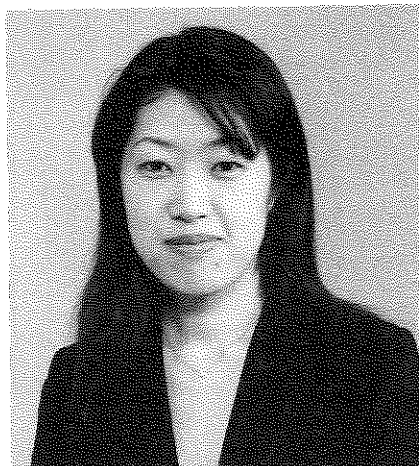
そして今年3月、上海音楽院にて、日本、中国各部門の最上位入賞者の演奏会を行ない、全てのコンクールの行事を終えました。

なかた・もとこ◎相愛大学ピアノ科卒業。相愛音楽教室の非常勤講師として25年間ピアノとソルフェージュ教育にあたってきた。現在は自宅の教室で後進の指導にあたり、ピティナをはじめ全日本学生音楽コンクール等の受賞者を輩出している。

Report

伝えたい音楽を伝える喜びを実感

～2001年度ソロ部門特級金賞グランプリ～



佐藤 展子
Noriko Satou

東京音楽大学大学院2年
第25回ピティナ・ピアノコンペティション
ソロ部門特級金賞グランプリ受賞

ピティナ・ピアノコンペティションソロ部門の頂点である特級金賞グランプリ。自分と向き合いじっくり築き上げた音楽は、多くの人を魅了した。演奏の成熟には豊かな心の醸成が大切であることを実感した佐藤展子さんに、受賞に至るまでの軌跡を振り返って頂いた。

●監修●授賞企画委員会

数々のチャンスを与えて下さった先生方

大学院2年目の今年、学生で最後の機会と思い臨んだ今回のコンペティションで素晴らしい賞を頂くことができ、大変うれしく思っております。

付属高校から大学、大学院と、私は東京音楽大学で勉強して参りました。播本三恵子先生と倉沢仁子先生のクラスのクラスに入れていただき、音楽の勉強のしかたを根気強く教えていただきました。人前で弾くことが苦手だった高校の頃を振り返ると、1つでも多くのことを吸収しようと毎日必死だったような気がします。加えて、海外の著名な先生方の特別レッスン、短期留学、特待生奨学金と、これまで数え切れないほどのチャンスを与えていただきました。高校時代から多くの舞台を経験させていただいたおかげで精神的にかなり鍛えられましたし、素晴らしい先生方に出会えて「音楽する」ことの喜びも知ることができました。9年間、常に視野を広げながら勉強できる環境に在籍でき、本当に幸せだったと思います。

自分を見つめ直した留学体験

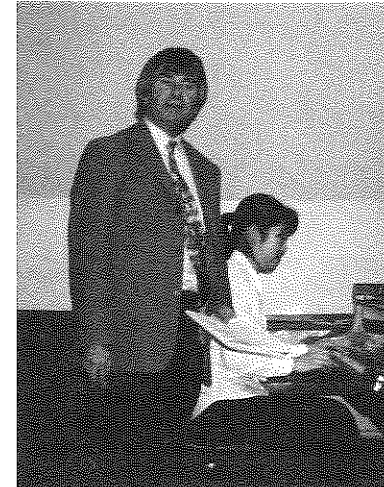
東京音楽大学より特別奨学金を得て体験した海外留学は、私に大きな刺激を与え、自分自身の音楽に対する意識を根本から見つめ直すことができました。

大学2年次に参加したザルツブルクのモーツァルテウム音楽院夏期講習会では、緊張して硬くなっている自分に対して、さまざまな国から集まってきている個性あふれる学生たちが自由にのびのびと演奏する姿に接して、ハッとすることを記憶しています。そのとき、「レッスンを受けました」「先生の言われる通りに弾きました」「間違えずに演奏しました」ではなく、自分自身の言葉で語りかけなければ通用しない、ということを実感したのです。思えば、それは播本先生がレッスンで常日頃おっしゃっていたことでした。それから3年後の昨年、東京音楽大学とロンドンのロイヤルアカデミーとの交換留学生として、3ヶ月間の短期留学を経験しました。モーツァルテウムの講習会の時と大きく違った点は、ロンドンの一家庭に下宿し、生活をしたことでした。授業

の始まる1ヶ月前から現地の語学学校に入り会話の勉強をしたものの、当然ながら、実生活で下宿先の家族や大学の先生、学生たちとコミュニケーションをとるだけの十分な語学力はまだついていませんでした。それを補うために言葉だけでなく全身で表現することを覚えていくうちに、余分な緊張がとけて解放されていく自分を感じました。体全体で意思を伝えようとする姿勢が、自分の中の音楽表現にも変化を与えていったように思います。

音楽の道を選んだ自分に確信を持ってコンペに挑戦

このようなさまざまな経験を通して、やっと「音楽の道を志して幸せだった」と思えるようになった21世紀元年の今年6月、「プログラムも大体できたことだし、そろそろコンクールを受けてみてはどうか」と播本先生に言われました。2年前、「外国のレベルを知らなければいけないから」と言われ、大胆にも突然参加することになったミュンヘン国際音楽コンクール以外、まともにコンクールというものに挑戦したことがなか



左上) 2001年度ピティナ・ピアノコンペティション表彰式にて(8月29日・帝国ホテル) 98年度同賞の伊賀あゆみさんより祝福を受ける。同門の友人でもある。
左下) 表彰式後のパーティーで播本三恵子先生と。
中央) ロイヤル・アカデミーのクリフォード・ベンソン先生のレッスンにて。
右) モーツァルテウム・サマーアカデミーでレッスンを受けたアンドレイ・ヤシンスキ先生と。

った私でした。やっと自分を認めてもらえたような気がしたので。そして、コンクールというよりも、自分が今まで苦しみ模索しながら築き上げてきた音楽を舞台で表現してみよう、という気持ちで特級を受けることを決意しました。しかし、締め切りギリギリまで悩んだプログラムは決して華やかなコンクール向きなものではなかったのも、正直、不安もありました。決勝に残ることが決まってきた10日間は、指を動かすことよりもこのプログラムで演奏することの意味、伝えたい音楽は何か、を考える毎日でした。緊張感の中、カザルスホールの舞台で自分の音楽に集中し楽しんで演奏できたこと、その充実感と、今まで苦手だった本番を克服できたのだ、という喜びは一生忘れがたいものとなりました。

これまでご指導くださった播本先生、倉沢先生、毎年の特別レッスンで様々な音楽上のアイデアやインスピレーションを与えてくださったホカンソン先生、音楽を愛し表現する喜びを教えてください

たロイヤルアカデミーのベンソン先生、室内楽でアンサンブルの響きの奥深さを示してくださった土田先生、迫先生、これら諸先生方の導きがあったからこそ、困難な課題も乗り越えていくことができ、この賞を頂けたと思っております。ここに改めて感謝の思いを深く感じます。そしてまた、若い音楽家のために素晴らしい機会を与えて下さるPTNAの創始者、福田靖子先生に心より御礼申し上げます。

2001年度特級金賞グランプリ日本フィルとコンチェルト共演決定

今年のピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ受賞者、東京音楽大学研究科2年に在学中の佐藤展子さんが、新年の日本フィル「サンデーコンサート」にて、ピアノコンチェルトを披露することが決定した。

- 日時：2002年4月7日(日) 14:00
- 会場：東京芸術劇場
- 入場料：1月発売開始予定(ピティナ会員は10%割引)
- 指揮：沼尻竜典
- オーケストラ：日本フィルハーモニー交響楽団
- プログラム：ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」(予定)
- お問合せ：「日本フィルコンサート」係 霜鳥TEL 03-3944-1583



さとう・のりこ◎1978年生まれ。3歳よりピアノを始める。東京音楽大学付属高校を経て同大学入学。高校2年次より現在まで特待生奨学金を授与される。モーツァルテウム音楽院夏季アカデミーに奨学金を得て参加、A. ヤシンスキ氏のレッスンを受講。大学卒業時、NTTドコモより奨学金を得る。卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。英国王立音楽院に東京音大より奨学金を得て短期留学、C. ベンソン氏に師事。現在、同大学大学院2年に在学中。播本三恵子、倉沢仁子各氏、室内楽を土田英介、迫昭嘉各氏に師事。

Report

人種・宗教を超えて、音楽 で平和の架け橋を

～NY・マネス音楽院留学記～



古川 まりこ
Mariko Fukukawa

マネス音楽院留学

ジェローム・ローズ先生を求めて、今年9月からニューヨークのマネス音楽院に留学した古川まりこさん。奇しくもその1ヶ月後、世界を揺るがす同時多発テロが発生し、避難を余儀なくされた。その中で、音楽の役割とはと問いかげながらレポートを綴って頂いた。

自分の演奏を変えたローズ先生の一言

はじめてローズ先生と出会ったのは高校3年の春、桐朋学園の富山キャンパスでのマスタークラスに参加した時の事でした。

初めてのレッスンでまだ仕上がっていなかった私の演奏を聴いて先生は、「とにかくどのフレーズもメロディックに」とおっしゃったのが印象的でした。「テクニク」と「音楽」は別のものだと思っていた私にとって、それはとても新鮮な事でした。テクニク的に無理があるのにその上に音楽をのせるなんて限界があると思っていたからです。

でも言われた事を意識して練習していると、新しいインスピレーションが浮かんだり、それまで気付かなかった大切な事が発見できたり、自分の演奏が変わるのを実感して、我ながら驚きました。

この刺激的な出会いから3日が経ち、東京へ帰る日、先生は、私にニューヨークのマネス音楽院での音楽祭に来てみないかと言って下さいました。高橋従子先生の強いすすめもあり、その夏、マネス音楽祭に参加する事になりました。その音楽祭で私は、はじめてロー

ズ先生の演奏を聴き、そのダイナミックで、それでいてデリケートで、自由で、ppの音は鳥肌が立つくらい美しく、魅力的な音楽にひかれました。

ニューヨークへ旅立つ

何度か、レッスンを受けるうちに、自分が自由に弾けるようになっていくのを感じ、又先生の温かいお人柄が分かるにつれ、この先生にもっと教えてもらいたいと思うようになりました。

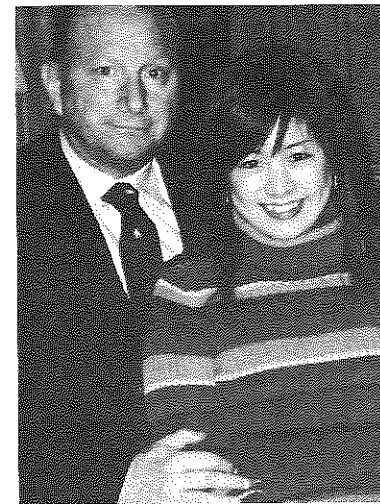
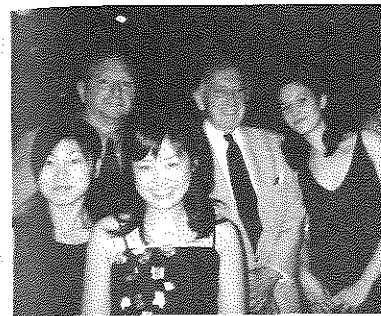
しかし、現実的に考えると、多くの問題がありました。大学に入り、授業を英語で受ける事がいかに大変な事か、学校の事が大変すぎて練習ができないのではないか、練習場所の確保、住まいの問題等々、考え出すとつきりがありません。不安でしたが、どんなに辛くても行こうと決心させたのはただ一つ、ローズ先生にどうしても習いたいという気持ちでした。

その冬、私はマネス音楽院の入学試験を受けに行き、無事合格する事が出来ました。そして今年の夏、3度目のニューヨークとなりましたが、7月にマネス音楽祭に参加し、そのままNYに残る事になりました。

今年の音楽祭は、本当に充実していました。あこがれていたシブリアン・カツァリス氏のマスタークラス、多くのコンサート、そして最後の3日間で行われるコンペティション。私はファイナルまで残る事ができ、TVでもおなじみのスタインウェイ・サロンで弾かせて頂きました。本番では納得のいかなない演奏をしてしまいましたが、コンペティションの後、多くの方が声をかけて下さったり、感想を言って下さったり、ポール・ポレイ先生*も私の事を覚えて下さっていて、声をかけて下さいました。こちらのホールはとてもオープンな雰囲気、観客の拍手が温かく、良いと思ったら迷わず声をかけて下さりとても良い経験になりました。

そして9月からついに留學生活がスタートしました。授業は思ったよりハードで、宿題も私にとっては骨の折れる作業です。さらに、練習したい時は、学校が練習室を予約しなければならないので、弾きたい時に弾きたいだけという訳にはいきませんが、弾ける時間がとても貴重なのでかえって効率的な練習が出来ていると思います。

始めのうちは、学校でも寮に帰っても英語英語・・・で精神的に



左上) マネス音楽祭コンクール、ファイナリストと。後列左よりローズ先生、ファルヴァイ・シャンドール先生。
左下) 友人たちと。
中央) ローズ先生宅でレッスン
右) 憧れのスタインウェイ・ホールで演奏。マネス音楽祭コンクール決勝にて。

参りそうでしたが、最近では随分楽しくなってきました。マネス音楽院は規模の小さい学校なので、生徒も先生も仲が良く、とても良い学校です。まわりの人たちに支えられ、間違った英語を直してくれたり、教えてもらったりしながら少しずつ楽になって行くようです。

NYは本当に刺激的な都市です。近くには美術館、コンサートホール、オペラ劇場、ミュージカル等、何でも揃っています。得られるものはどんなものでも得て音楽に結びつけられたらと思っています。

歴史的事件に遭遇し、アメリカの真の姿を見る

この原稿を依頼された直後の9月11日、NYではテロ事件が起こりました。私の住んでいる寮は、ワールドトレードセンターからわずか3ブロックしか離れていないので、しばらく別の安全な場所に避難しなければならず、服も生活用品も何も持たずに逃げ出してきました。メキシコの友人が、「親戚の家が近くにある。地下鉄が動かないので、歩いて行こう」と誘ってくれたので、ほこりだらけになりながらも必死の思いで辿り着きました。そして、そこで2、3日お世話になることになりました。

ふるかわ・まりこ◎5歳よりピアノを始める。92年ピティナ・ピアノコンペティションB級金賞、94年C級銀賞、96年E級金賞、00年G級銅賞受賞。97年全日本学生音楽コンクール東京大会中学校の部第3位、98年同全国大会高校の部第1位。00年マネス国際音楽祭でのコンクール特別賞受賞。01年4月卒業演奏会出演、9月マネス音楽院入学。これまで右高理絵、高橋従子、ジェローム・ローズの各氏に師事。

そこで底抜けに明るく親切なメキシコ人家族によって、私の暗い気分が随分癒されました。その後地下鉄が動き始めてからは、別の友人のお宅にお世話になり、約一週間後、やっと寮に戻れることになりました。その時、Tシャツとサンダルで出てきた私は、NYの秋にはもう似つかわしくない格好をしていました。

学校では衣類や身の回りのものの支給などの物質的な援助から、カウンセリングなど精神面のケアもしてくれ、私はとても感動しました。

学校では衣類や身の回りのものの支給などの物質的な援助から、カウンセリングなど精神面のケアもしてくれ、私はとても感動しました。

今、ニューヨークの人々は、事件以来とても強くなっています。通りでは、人々がキャンドルを持って集まり、平和を祈って合唱しているのを見かけます。そんな時、思わず立ち止まって聴き入り、その力強さに感動し、自分も頑張ろうという気持ちがわいてきます。

今回偶然にも、この歴史的事件に出会った事で、より早くアメリカの真の姿を見る事が出来ました。

学校には、イスラエル人もいます。韓国人もいます。中国人もユダヤ人もいます。もちろんアメリカ人もいます。色々な国の人達が、仲良く勉強しています。それぞれの歴史を超え、宗教を超えて、憎しみを捨て、平和な日が来る事を祈りつつ、音楽がそのかけ橋となる事を信じています。またその一役が担える演奏家になれる様、頑張りたいと思っています。

最後になりましたが、このアメリカ留学へのきっかけは、小学校の時のB級金賞のごほうびで行ったアメリカ演奏旅行や、中学校の時のE級金賞での海外派遣賞、又昨年G級銅賞受賞でした。私を小さい頃から育てて下さり、夢を現実へと導いて下さったピティナ・ピアノコンペティションに深く感謝致します。私にとってコンペティションは、人と競い合うものではなく、自分の目標である夢に近づく為の階段であり、これからも又一步ずつ登って行こうと思っています。

*ポール・ポレイ先生：シーナ・バックアウワー国際コンクール創始者・主宰

アンサンブルの魅力 [2]

Interview

室内楽サマースクール

～「ピアニスト」と「アンサンブル」とは～



金子 恵

桐朋学園大学・国立音楽大学非常勤講師。
当協会正会員、国際委員、演奏研究委員。
写真上) 金子恵先生(中央)と、受講生の奥村恵三さん、余越真樹さん

8月6日(月)～9(木)、日本弦楽指導者協会主催の弦楽サマースクールに、ピティナから3名のピアニストが参加した。室内楽クラスの講師を務めた金子恵先生と、レッスン受講生2名。今回は、スクールのレポートを通してピアニストとアンサンブルを考える。

●監修●新教育法開発委員会

志賀高原で行われた弦楽サマースクール(JASTA SUMMER MUSIC SCHOOL)では、全国から弦楽指導者と生徒が集まり、合宿しながら合奏・プライベートレッスン・室内楽のコースでレッスンを。昨年よりピアノトリオのコースも設けられ、ピティナから室内楽の講師(ピアノ)1名と公募のピアノ受講生が参加している。

圧巻! オープニングコンサート

2日目の夜、講師陣による「室内楽の夕べ」が開かれた。ピティナからはピアニストとして金子恵先生が参加し、そうそうたるメンバーと共にシューベルト ピアノ五重奏「ます」を演奏した。

弦楽の受講生から、「(金子先生の演奏を聴いて)ピアノもいい楽器だなと初めて思いました」と声をかけられる一幕も。また共演した磯良男先生(ヴィオラ)は、「始めの合わせの段階から素晴らしかった。バランスの感覚が良く、音楽的。タッチがクリアでピアノパートが伴奏の部分でも音が美しい。暖かく、心のこもった後味のよい演奏でした」と語って下さった。

室内楽レッスン

ピティナから参加した室内楽コース受講生は奥村恵三さん、余越真樹さんの2名。曲は2人ともシューベルト ピアノ三重奏 第1番変ロ短調で、ヴァイオリン受講生、そしてチェロパートとして参加して下さった講師の青嶋直樹先生と共に、この難曲に挑んだ。2日間にわたって磯良男先生、金子恵先生のレッスンを受け、最終日に修了コンサート。チェロの青嶋先生に、ピアニストへのアドバイスを伺った。「どの楽器でもそうですが、一人で練習していると、他のパートが入り込むスキがない程に曲を作ってしまう。本当は、ゆるみ・すきまの部分に他のパートが入って初めて全体が出来上がるのですが。ひとりでがんばらないこと。一人より二人、三人で作った方が楽しく、ラクに出来るはずですよ。」

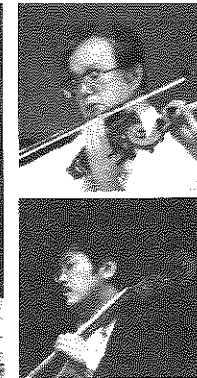
ピアニストにとってアンサンブルとは?

—金子恵先生、コンサートにはどのように臨まれたのでしょうか。

メンバーの先生方とは、事前に1回だけ東京で練習、あとは当日のリハーサルのみで本番を迎えました。シューベルトの「ます」は大学時代から何回となく演奏会で弾く機会があり、大好きな曲で自分のイメージがハッキリしていました。しかし、リハーサルは2回だけ、初顔を合わせのベテランの先生方が勢揃いということで、内心いっただいどうなるのかしらと…でも、そう! まずは自分の音楽をやる! と気を強く持ち1つ1つの練習を重ねていきました。リハーサルの時は呼吸を合わせることで話し合い、あとはそれぞれ感じるものを表現し合ったという感じでした。終わってみると本番の演奏はリハーサルよりはるかに良く、また非常に楽しめたのでした。限られた時間の中だったせいか、それぞれの弦楽器の音をよく聴くことで、メンバーの先生方の感じていらっしやること、考えていることを理解し、歩みよろうとする気持ちでいっぱいになりました。人と人がコミュニケーションすることの素晴らしさをまた新たに実感でき、音楽ができる人生である事に感謝いたしました。



左) 8月8日夜、受講生による修了コンサート。写真は余越真樹さん。弦楽の受講生とともにシューベルト ピアノ三重奏曲 第1番 変ロ短調Op.99を演奏。



中央上) 磯良男先生 下) 青嶋直樹先生
右) 時間外もホテルでレッスンを。金子恵先生と奥村恵三さん。



8月7日夜、講師によるオープニングコンサート「室内楽の夕べ」プログラム。

—今回、ピアノトリオの指導も担当されました。

皆さん、個人的にはとてもよく練習されていました。もちろん3人で1つの曲を演奏するのですから、これは必要なことです。最初は自分の音と弦楽器の音を聴く余裕が持てなかったようです。自分1人で弾いている時と合わせた時の音の出すタイミングが全然違う! と口を揃えておっしゃっていました。弦が入ると自分の音が聴こえにくくなるせいか、フォルテはやたら強くなるし、ピアノで弾かなくてはいけない所は弱くなら

ず、バランスをつくるのに苦労をされていました。しかし練習するうちにコツを掴んで、修了コンサートでは好演奏をされていました。人間が生きてゆく上で一番大事なのは、人とのつながりですね。室内楽はそれと同じです。音楽にある基本をすべて教えてくれます。ですからソロが弾けないからアンサンブルをしようという考えがもしあるとすれば大きな間違いだと思います。アンサンブルができなくてソロはできないし、ソロができなければアンサンブルもできない、要するに2つで1つなので

す。いつも感じることでありますが、ピアニストはなかなか経験するチャンスが無いのが現状です。日常的に気の合う仲間とアンサンブルできる、そんな日本にできたらいいなとつくづく感じた日々でした。

楽器は違って、違うからこそ、本当に「音楽」を理解しているかが問われ、また目指す音楽があれば、技術の違いを超えて認めあえる…これからさらに多くのピアニストが、音楽経験の節目ごとに他楽器とのアンサンブルを体験するようになるだろうと感じさせる機会となった。

(取材・文◎池田小里恵)

“アンサンブルピアニスト” アンケート結果

Our Music掲載の「アンサンブルピアニスト募集」に沢山の方から反響を頂き、アンケートにお答え頂きました。ここに御礼申し上げます。今後のアンサンブル企画に生かして参ります。「一人でのソロ活動ももちろん魅力だが、違う楽器との演奏では、お互いの呼吸、楽器と楽器の対話、また互いに主役の部分と伴奏の部分の一つの曲で楽しめる。本当に楽しい!」

(東京都・木村裕平さん)「他者と共に、一つの音楽を作り上げる楽しさがある。結婚・育児で少し離れてしまったが、また何らかの形で指導・アンサンブルにかかわってほしい」(武蔵野市・小林京子さん)など、多くの方が指導のみでなくご自身で演奏され、実際に講習会などでチャンスを見つけてライフワークとして取り組んでおられることが分かりました。

聴講生募集 アンサンブル(室内楽) 研修会

～受講生はピティナ入賞者ほか～

金子恵先生が講師の一人を務めるピアノトリオの公開レッスン「アンサンブル研修会」。ピアノ受講生が、一流の弦奏者と共演しながら、講師の公開レッスンを受ける。室内楽に興味のある学生、指導者の方におすす。詳しくは78ページをご覧ください。

研修会 A <2日間コース>

11/10(土)～11/11(日) <東音>ホール (東京・東鴨)
講師: 大石潤 (国立音楽大学教授)
共演&アドバイス: 宮内道子 (ヴァイオリン)・菊地知也 (チェロ)
曲目・受講生: ● 初級 モーツァルトNo.4 変ロ長調 Kv.502 : 池川礼子 (正会員) / モーツァルトNo.6 ハ長調 Kv.548 : 沼田理美 (1999年C級金賞) ● 中級 メンデルスゾーン 第1番 二短調 Op.49 : 入佐千晴 (1997年F級入選)、天野浩子 (2001年G級ベスト賞) ほか / ベートーヴェン 「街の歌」・「幽霊」等 (以上いずれも第1楽章)

研修会 B <2日間コース>

1回目: 12/15(土)～16(日) 2回目: 2002年1/6(日)
講師: 金子恵+江崎光世
共演&アドバイス: 田辺秀樹 (ヴァイオリン)・諸岡由美子 (チェロ)
曲目・受講生: ● プレ初級 ピアノトリオによる日本の四季「春の小川」: 桑野雅依子 (2001年B級銅賞) 他 / 同 赤とんぼ: 片田愛理 (2000年B級金賞) 他 / 同 村祭: 嘉村えりか (2001年デュオ初級優秀賞) 他 ● 初級 ハイドン Hob.XV.25<ジプシー風> ● 中級 ベートーヴェン 第3番Op.13 / プラームス 第1番Op.8

聴講券申込 各コース2日間通し券 会員2,500円 一般3,000円 各コース1日券 会員1,500円 一般2,000円
ピティナ本部事務局 アンサンブル研修会係 TEL 03-3944-1583 FAX03-3944-8838 e-mail: ikeda@piano.or.jp

(出演) ヴァイオリン 篠崎功子 (バガニーニ国際コンクール第3位、桐朋学園大学教授) / ピオラ 磯良男 (日弦協理事長・武蔵野音楽大学教授) / チェロ 勝田聡一 (元日本フィル首席チェロ奏者、日本音楽コンクール審査員) / コントラバス 吉川英幸 (東京フィル首席コントラバス奏者) / ピアノ 金子恵

Interview
甲府支部

～「ライブ」な感動の場を求めて～

山梨で唯一のピティナ組織として、コンペ・ステップ・トークコンサートなど、幅広く活動している甲府支部。コンクール一辺倒でなく、あらゆる世代が音楽と親しめる場を追求している。

●監修●組織委員会

内藤楽器は来年で創業100周年を迎える。韭崎・富士吉田に営業所を構えるほか、音楽教室や物流の拠点など、山梨県内に広く活動エリアを築いている。山梨のピティナは18年くらいの歴史があるが、地元のピアノ指導者から内藤楽器に事務局が移行されたのは8年ほど前のことである。内藤楽器の三代目である内藤民部社長は、開口一番、ピティナに対する率直な気持ちを語って下さった。

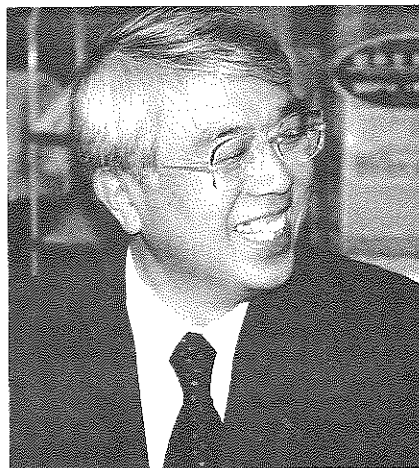
「単なる物販に比べて、すごい仕事をさせていただいている、という実感があります。心の琴線に触れ、感動を共有できる仕事ができる、誇りと充実感。音楽好きな子どもたちを作りたいという、そのサポートが出来る立場に居ることの優位性を、これからますます追求しなければなりません。普及への取り組みは、まだ始まったばかりです。」

現在、山梨県で唯一のピティナの組織である甲府支部に、所属会員は45名。山梨では、芸術祭的なイベントは開催されているが、県主催のコンクールなどは行われていない。一見、すぐにも拡大できそうな環境に思えるが、コンペティション地区予選の参加者は、毎年70～80名ほどの数に落ち着い

ている。

1999年4月、ピアノ指導者の交流の機会を増やすべく、第1回目のステップを実施。初回ということで、ピアノ指導法講座で毎年甲府を訪れている、藤原亜津子先生をアドバイザーに指名した。(ちょうど取材日に、藤原先生の講座を開催中だった。)その後、最初は様子見だった指導者が、一人二人と生徒を出し始め、着実に根付きつつあることを実感しているが、内藤社長は決して慌てない。

「地元では、親子のアンサンブルや3世代コンサートなどが見受けられるようになりました。団塊の世代以後の方は、小さい頃から音楽と接して楽しむ素地があります。少子化云々にかかわらず地道に努力して開拓することだと思います。どんな習い事でも、下地として、小さい時にそういうことをしようと思ったとか、体験したことがなければ不可能です。幼児の段階で音楽の良さを伝えておく。何でもよいので、早い段階で体験しておく。感性として心の中に植え付けておく。『音楽の楽しさを知っている』ということ。この活動は、我々楽器店の使命と言えるでしょう。」



内藤 民部
Mimbu Naitou
内藤楽器 代表取締役社長

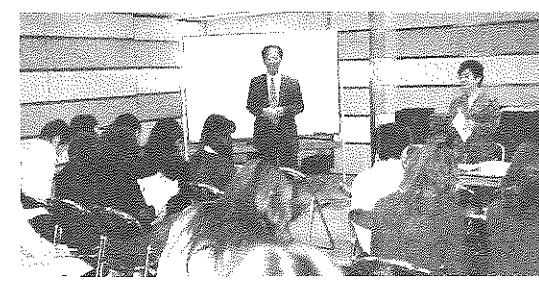
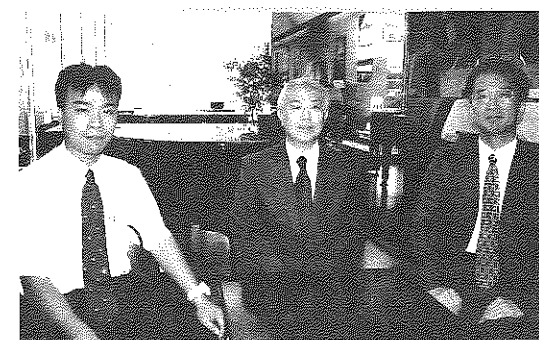
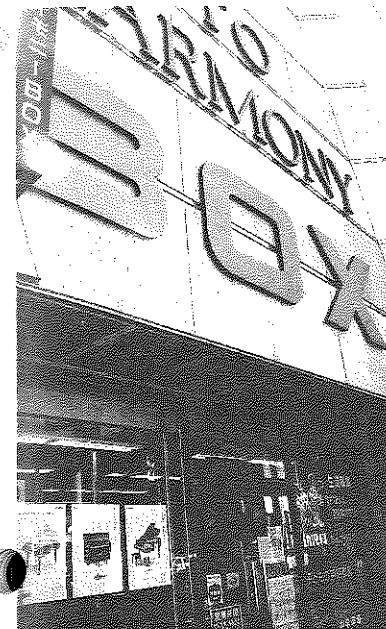
感動の原点とは何か？

内藤社長はさらに、ライフワークとしての音楽を伝えることができる人物こそ、真の指導者と考える。

「名医とは何か、と考えた場合、地域の名医の条件とは、自分がある患者を迎えた時に、自分の技量でどこまで対応できるか意識できていることではないでしょうか。」

コンクールで優秀な成績をおさめた指導者だけが素晴らしい、という雰囲気を払拭し、将来はピティナ・ピアノステップを発展させて、ピアノに限らず音楽好きが集う「ミュージックステップ」を開催したい、という夢を抱いている。

「……なぜなら、楽器店の存在価値は、『ライブ』ということになるからです。音楽はその場になければ体験できないし、しかも人によって感じ方が全く違う。それが音楽の持つ芸術性であり、感動の原点です。最近『アイボ』で癒される、とか聞きますが、バーチャルとリアル、マシンが鳴らした音楽と人が目の前で演奏した音楽と、同じ感動しかおぼえない、という感性では淋しい限りです。」



左) 内藤楽器正面
右下) 9月28日(金)、内藤楽器ハーモニーBOXにて、藤原亜津子先生の公開講座が開催された。
中央上) 内藤楽器のスタッフ3名。左より伊藤氏・内藤社長・小池店長。

好きなものは長続きする

支部の事務局を一手に引き受ける小池一幸店長は、内藤社長の信念を現場からフォローする。

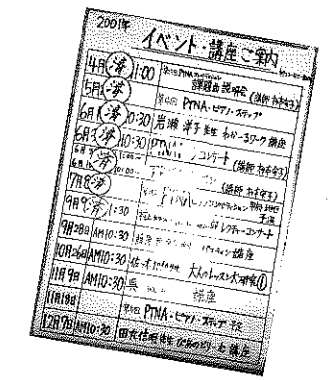
「当たり前のことかも知れませんが、『好き』と感じたものは長続きします。生涯にわたって音楽を愛する人を育てること……。ピアノ指導法の講座にしても何にしても、つなげること。ピティナを通じて出会った熱心な先生方と一緒に、続けることの大変さと大切さを感じている毎日です。そこで得られた『力』という文字には、『たから(宝)』というふり仮名をふることができるでしょう。」

小池店長は、東京で行われる全国支部連絡会やブロック支部連絡会に、毎年欠かさずご参加下さるが、初めてその会議に出席された時、各地のベテランの担当者の皆様が白熱した議論を交わす姿に、大きな刺激を受けたという。ピティナを接点として「迷わず同じベクトルに向かっている」ことのエネルギ―を感じたことと思われる。

当面の課題である支部所属会員同士のコミュニケーション強化は、子育てにひと段落ついた指導者層を取り込みながら、一步一步、進行中である。拡大のスピードという点では全国的に見て穏やかな地

域かも知れないが、いつ訪問しても前に進んでいる印象を受けるのは、長期的な観点での本質を見失わない、ポジティブな気持ちに触れることができるからであろうか。

取材・文◎堀明久



上) イベント日程表。ピティナ関係のイベントが目白押しだ。
左) スタッフ会議中。打ち合わせが和やかに進む。

【参考】ピティナ組織のキーワードより「支部所属会員」

ピティナの定款施行細則「支部運営規約」中に、「支部の役割」として、「地域のピアノ指導者及びピアノ学習者、その保護者など、ピアノ愛好家のサークル活動の助成をすること。」という記載があります。また、会員に関しては「この法人の会員は本部に所属するが、最寄りの支部にも所属することが望ましい。」と記されています。支部には正会員を含め、最低10名の会員の所属が必要になります。

積極的に活動したい、という地域の先生方の意欲に、支部がいかに対応できるか。その信頼関係作りが、ピティナの組織の基本と言えます。

Enjoy piano lesson!

ポピュラー 活用法講座

その<12>



佐土原 知子

会報編集・広報委員

突然ですが…最近出版された(2001.6月発行 小学館)「〜ドラえもん音楽おもしろ攻略〜ピアノと歌がじょうずになる」をご存知ですか?

前作の「楽ふがよめる」も大人気で、小学1年生の仲良し4人グループは、レッスン室に入るなり「ドラえもんだー!」と本に群がり、レッスンが終われば「きょうはここまで読むぞー!」とまた本に駆け寄り…マンガの効力には驚くやら感心するやらです。

さて、新作の「ピアノと歌がじょうずになる」は前作に比べちょっと説明が多いのが気にはなりますが…「ピアノをよく知ろう」「正しい姿勢と指の形」「メロディー

楽しいピアノレッスン&発表会の コードを知ろう

～変化音を持つコード(2)～

をひこう!」に始まり、その後コードの話にもかなり詳しく触れています。この講座で取り上げてきた、「英語音名」「よく使われる三和音」「コードの転回」「メジャー・コード、マイナー・コード」「セブンス・コード」なども、「ドラえもん」が分かりやすく解説してますので、復習がてらお読みになってはいかがでしょうか。また生徒と読みながら、実際に先生が音出しして解説をしたり、コードの話のキッカケに使ってみるのも面白いと思いますよ!

「ドラえもん」に負けてられない先生方!さあ、今回も勉強、勉強っと!

理論編

変化音を持つコード(2)

<第5音の変化>

前回の<第3音の変化>に引き続き、<第5音の変化>したコードを取り上げます。まず第5音の表記法を覚えましょう。(譜例1)

譜例1

(第5音の変化)

第5音の表記法

省略 -5(♭5) +5(♯5, aug)

完全5度 減5度 増5度

マイナー・セブンス・コード、ドミナント・セブンス・コードの第5音を変化させたものとしては、次の3つが挙げられます。(譜例2、3、4)

譜例2

①マイナー・セブンス・フラット・ファイブ・コード

$Cm^{\flat 5}$ (シー・マイナー・セブンス・フラット・ファイブ)

減5度

マイナー・セブンス・コードの第5音を半音下げたもの。短調ではドミナント・コードを導く大事な役割を果たす。

譜例3

②ドミナント・セブンス・フラット・ファイブ・コード

$G7^{\flat 5}$ (ジー・セブンス・フラット・ファイブ)

減5度

ドミナント・セブンス・コードの第5音を半音下げたもの。ボサノバでよく使われるコード。

譜例4

③ドミナント・セブンス・オーグメント・ファイブ・コード

$G7^{\sharp 5}$ (ジー・セブンス・オーグメント・ファイブ)

増5度

ドミナント・セブンス・コードの第5音を半音上げたもの。

ために

連載<その6>でダイアトニック・コードを取り上げましたが、ジャズやポピュラーでは、サウンドが豊かなセブンス・コードが多く用いられます。

今まで学んだセブンス・コードを思い出しながら実際に音を出して確認してみましょう。(譜例5)

譜例5

(セブンス・コード)

(読み方) (シー・メジャー・セブンス) (イー・マイナー・セブンス) (ジー・セブンス) (ビー・マイナー・セブンスフラット・ファイブ)

(コード・ネーム) $Cmaj7$ $Dm7$ $Em7$ $Fmaj7$ $G7$ $Am7$ $Bm7^{\flat 5}$

(和音記号) $IIm7$ $IIIm7$ $IVmaj7$ $V7$ $VIIm7$ $VIIIm7^{\flat 5}$

(読み方) (2度マイナー・セブンス) (4度メジャー・セブンス) (6度マイナー・セブンス)

(1度メジャー・セブンス) (3度マイナー・セブンス) (5度セブンス) (7度マイナー・セブンスフラット・ファイブ)

以上、出典(譜例1~5)「新・やさしいピアノ伴奏法2」(ドレミ楽譜出版社)

実践編

コード連結トレーニング(3)

では今月も一段譜(リード・ジート)を見て、左手のコードをバツとつかむ練習をしましょう。ゆっくり音を確認しながら、トレーニングしてみてください。(譜例6)

※ 曲中の分数コードは、分母がベース音、分子がコードを表しています。つまり転回形の指示ということです。これについては次号で詳しく触れます。

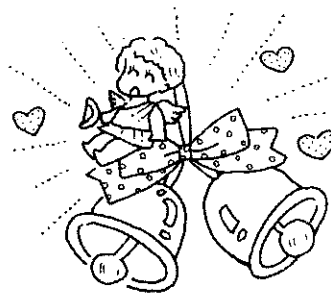
譜例6

喜びの歌

ベートーヴェン

楽譜例6: 喜びの歌 (ベートーヴェン)

楽譜には、左手のコード進行と右手のメロディが示されています。コードには分数表記が用いられています。



～ポピュラー曲を中心としたコンサート(1)～

2001.8.26 ミュージックスタジオ ア・ラ・モード発表会より

前号で予告しましたが、去る8月26日無事発表会を終え、ホッと一息ついているところです。このところ公開の場での演奏などが続きましたので、今回の発表会は、生徒及びその家族など親しい方だけでのアットホームなパーティ形式としました。休憩時間にはお茶とケーキも用意し、また2部は当教室が開設15周年ということで、今まで

の発表会等の写真をスライドで紹介しました(私のナレーション&生徒のBGM付)。

誌面の都合上、プログラムとアンケートを今号で、次号で好評だった曲の出典、アレンジや演奏のヒントなどをご紹介しますと思います。

プログラム

【第1部】～コンサート部門～

～オープニング～ So In Love /C.ポーター P+E

<動物コーナー>

- 1 ぶんぶんぶん変奏曲/徳木純一 P+S
- 2 みつばちマーチ変奏曲/佐土原知子 P+S
- 3 メリーさんの羊/アメリカ民謡 E
- 4 ドッグ・ゴーン・ブルース/ジャスティン&J.S.ハスティン CVP (P+S)
- 5 くまのプーさん/R.M.シャーマン&R.B.シャーマン P+S+CVP

<ゲーム&アニメ>

- 1 「ドラゴンクエスト」より ロトのテーマ/猪俣誠 P+CVP
- 2 「もののけ姫」より もののけ姫/スズキ
- 3 「ファイナルファンタジー」より 魔女のレレード/塩田祥天
- 4 「新世紀エヴァンゲリオン」より フライミー・トゥ・ザ・ムーン/BAワード P+S

<ワールドミュージック>

- 1 インディアンの踊り/ホルト
- 2 インディアンの酋長/ハスティン
- 3 真夜中の火祭/岸吉徳
- 4 ダットン人の踊り/ホルティン P+CVP
- 5 ラテンプレリュードⅡ/C.ノートン
- 6 キャラバン/O.エリントン E
- 7 情熱大陸/加賀山正徳 P+S
- 8 アサヤケ/徳木 生 G+B

<ミュージカル&シネマ>

- 1 「ミッキー・マウス・クラブ」より ミッキー・マウス・マーチ/J.ドット P+CVP+E+E
- 2 「ワルン・ミラー」より 紫色のこびん/ワインナー P+E+E+CVP
- 3 「ニュー・ジャマ・バグ」より ニュー・ジャマ・バラダス/A.Moricone & E.Moricone
- 4 「雨に濡れても」より 雨に濡れても/B.ワグラー
- 5 「グレイ・デイズ」より チャイド・アンド・ティ/C.ポーター
- 6 「マイ・フェア・レディ」より マイ・フェア・レディ/ジーンズ/R.ロジャース P+S
- 7 「マイ・フェア・レディ」より 踊り明かそう/F.ロウ P+S
- 8 「サマー・タイム」より サマー・タイム/G.ガーシュイン P+S

<クラシック・コーナー>

- 1 メヌエット 長調/J.S.バッハ CVP
- 2 メヌエット 短調/J.S.バッハ
- 3 ススキの舞列/岸吉徳
- 4 ファンファーレ/野平一郎
- 5 小さなドビュッシー/岸吉徳
- 6 ソナチネ 第1楽章/ショガール
- 7 ソナチネ 第2楽章/ラヴェル
- 8 ソナチネ 第2楽章/尾高尚忠
- 9 夢/ドビュッシー E
- 10 ノバレット 長調/ブーラン
- 11 「雨」より 木星/ホルスト E

<ビートルズ・コーナー>

- 1 イエスタデイ/レノ&P.マッカートニー P+S
- 2 イエスタデイ(ジャズアレンジ)/レノ&P.マッカートニー
- 3 イエロー・サブマリン/レノ&P.マッカートニー CVP
- 4 ノルウェーの森/レノ&P.マッカートニー
- 5 アンド・アイ・ラブ・ハー/レノ&P.マッカートニー G+Y
- 6 ヘイ・ジュード/レノ&P.マッカートニー P+S
- 7 デイ・トリッパー/レノ&P.マッカートニー P+S
- 8 ～みんなで歌おう～ オブラディ・オブラダ/レノ&P.マッカートニー P+E+CVP+U+G+B



写真上)「ドッグ・ゴーン・ブルース」電子ピアノで楽しく連弾(ミュージック・データ使用)

写真中・下)「音楽クイズ」&「アンケートタイム」もBGMにのって、思わずペンも進む?!この間に、次の表彰式の準備も完了!

～ティー・タイム～



【第2部】～パーティー部門～

よみがえる思い出のシーン!一挙大公開

- 1 G線上のアリア R
- 2 テンダリー G
- 3 愛のテーマ
- 4 めぐり逢い
- 5 Love
- 6 Everything
- 7 アンバーサリー
- 8 星に願いを
- 9 愛しのクリスティーン
- 10 主よ、人の望みの喜びよ 他 E

<クイズ・コーナー>&<アンケートタイム>

- メラニック動物園メドレー P+S
- 11 ディズニー・エレクトロカル・バラード E
- 12 ミッキー・マウス・マーチ(ユーロビート) E

〔P+ピアノ E+エレクトーン CVP+クラビノーバ P+プリモ(鍵盤上パート) S+セコンド(鍵盤下パート) G+ギター B+ベース R+ウクレレ Y+歌 演P+ピアノソロ〕

<5年、7年、10年、15年継続表彰式>

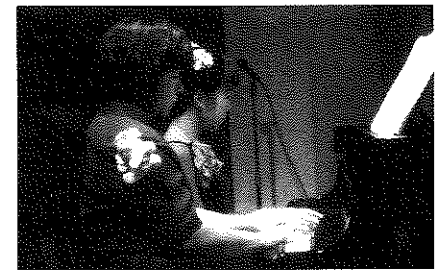


写真)「くまのプーさん」(肩にもプーさんが!)親子の連弾に、電子ピアノでオブリガードを入れ、かわいらしく演奏!人気の一曲でした。

～アンケートより抜粋～

★印象に残った曲 ベスト5

- ・ミッキー・マウス・マーチ(ユーロビート)
- ・木星
- ・情熱大陸
- ・サマー・タイム
- ・キャラバン



その他、「くまのプーさん」、「アンド・アイ・ラブ・ハー」、「踊り明かそう」、「ディズニー・エレクトロカル・バラード」、スライドのBGMなども人気がありました(どの曲もよかったという意見も多数あり)。

★コーナーとしては「シネマ」、「ビートルズ」、そして何と言っても「ティータイム」スライドが大好評でした!!

～出演者及び来場者の感想より抜粋～

発表会といってもアラモードのはバラエティ豊かでコンサートのようなので楽しいです。自分の番があって緊張しながら、というのが残念ですが、今回もみなさん素晴らしく、本当に飽きさせないものでした。ケーキもおいしかったので最高でした!先生方、リハーサルからずっと大変だったと思います。ありがとうございました。(M代さん:成人)

いつもながらバラエティに富み大変楽しく、退屈するところではありません。外見のみならず一段と上達された方々を観るのがたのしみです。(Sさん:祖母)

先生のお人柄がしのばれるあたたかな発表会に参加できて光栄です。バラエティーに富んだたくさん曲に出会えて楽しかったです。普段聴いている曲もアレンジを変えたり演奏者の個性により新鮮な感じになりますね。(Hさん:母)

1部の曲も2部の曲もきいてすごかった!!きれいな音も弾きたいなと思いました。(Aさん:小6)

第2部のスライドが面白かったと思う(みんなちっちゃくて!!)。コーナー別だから聴いて飽きなかった!ビートルズコーナーがよかった!弾き語りとか、はやりの曲とかも入れると面白いと思う。(T美さん:中1)

バラエティーに富んだ楽しい発表会でした。子供さんだけでなく、大人の方も人生を楽しんで演奏している様子に好感が持てました。若い男性達も頑張っている姿がよかったです。(Oさん:母)

第2部のバックミュージックは良かった。色々なジャンルの音楽があり楽しく聴く事ができました。なごやかな雰囲気でも良かったと思います。(Bさん:父)

ホームページ <http://homepage1.nifty.com/alamode/> では写真と全てのアンケートを公開しておりますので、ご参照下さい。また「発表会やレッスンで使えるビートルズレパートリー」につきましてはムジカノヴァ9月号48-50頁(音楽之友社)に寄稿いたしましたので、お急ぎの方はそちらをご参照下さい。

作曲家研究

その<20>

シューマン

その3



久元 祐子

会報編集・広報委員

前回に続き、シューマン晩年の曲集《子どものためのアルバム》から、もう少し見ていきましょう。

3：子どものためのアルバム（続き）

○「美しい五月、お前はまたやってきた」

前回取り上げた「冬。」が冬の気配や寂しさを歌っているのとは対照的に、この曲は、長い冬が過ぎ去った後の春の訪れの喜びを讃えた曲です。この五月の曲を弾いていますと、歌曲集《詩人の恋》の第1曲「美しい五月に」を思い起こします。

「美しい五月に」は、ハイネの詩にシューマンが曲をつけた作品です。—「すべての蕾が開く美しい五月に、私の胸にも愛が花開いた。すべての小鳥が歌い、私も乙女に憧れと願いをうち明けた」—という内容です。

この詩は韻を踏んでいて、一節ごとに、sprangen.....gegangen.....sangen.....gestanden.....Verlangenとenという響きで終わるように出来ています。歌詞の柔らかな響きに対応して、音楽も柔らかく息をつぎます。そしてフレーズは僅かなブレスをはさんで次のフレーズへ引き継がれます（譜例1）。演奏も、やはりその辺を心得たものでなければならないと思います。

「ゲン！」「デン！」と、フレーズの終わりをなぐるように終わるやりかたで歌ってしまったらどうなるでしょうか。おそらく「乱暴な五月に」になってしまい、次の一節を聴くのもいやになってしまうことでしょう。

もちろん、ピアノの曲の場合は、歌曲と違い、歌詞はついていません。でも、同じ五月を歌った歌曲の歌詞と音楽のイメージは、シューマンのピアノ曲を弾くときに

も演奏の手がかりになるように思えます。具体的に詩が書かれているわけではないけれども、そこにあたかも韻をふんでいるように詩が聞こえるような演奏が、詩的な演奏ではないかと思えます。

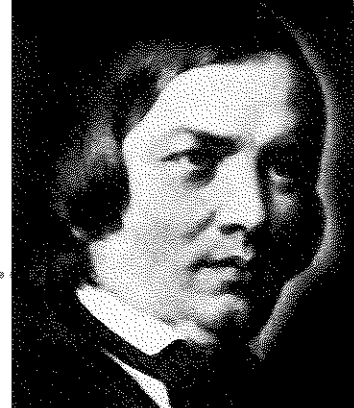
このピアノ曲の出だしは、弧を描くようなフレーズで始まります（譜例2）。続いて全音高くなり、気持ちが少し盛り上がるもうひとつのフレーズ（譜例3）が対になって続きます。

さきほどの韻を踏んだ柔らかな言葉の繰り返しのように、それぞれ、ずっとフレーズが終わるような息づかいが求められているように思えます。フレーズ感を表すテクニックはいろいろあると思いますが、手首の動きは息づかいを表す大切な方法です。指先に息を吹き込む、あるいは息を抜く、という感じで、手首のしなやかな動きによって息づかいを表現できれば最高です。楽譜を見ながら、もし自分が歌い手だったら、どこまでをひと息で歌おうか、歌詞がついているとしたら、どこまでが一節だろう、と実際声に出してメロディを歌いながらフレーズを感じ取ってみます。

このフレーズでは、出だしの h, chis, はノンレガート、次の h, gisはレガート、といった具合に、微妙なアーティキュレーションの変化があります。言葉を語りかけるように、あるいは、皮膚呼吸をしているかのように、デリケートに伸び縮みしたり、ふくらんだり引いたり、という変化をしながら、曲は進んでいきます。

例えば、最初のひとフレーズの中でもっとも重みがあるのが、2小節目の h の音です。この音はほかの音より長い音価である4分音符で、しかも美しい前打音を伴って奏でられます。前から続いているレガートの流れを損わないよう、その h を豊かな響きで受け止め、aの音ですっと息を抜く感じです。当然 h から aは、ディミニユエンドのニュアンスとなります。

指先の感覚で細かい変化を出しながら、同時に手首でもって流れをつくっていく。手のひらの内側でそれらをささえながらメロディーを浮き立たせていく、といった感じでしょうか。音楽の変化を、大袈裟にテンポを揺らすのではなく、指先と手首の変化、つまりこまやかなアーティキュレーションと音色の変化で表現することがポイントだと思います。



譜例1

Langsam, zart. Op. 48.

譜例2

譜例3

4 《森の情景》

○健康と病理との奇妙な混合

シューマンのやはり晩年の名曲に《森の情景》作品82があります。1848年から翌年にかけて作曲されましたが、この頃シューマンの精神にはすでに後の悲劇に至る兆候が見られるようになっていました。この曲には、明るく健康的な気分と暗く異常な雰囲気とが、奇妙に入り交じっているように思えます。

第1曲《森の入り口》は、これから森に入る、生き生きとした、楽しい気分が溢れています。しかしすぐに第2曲から、不気味な、神秘的な雰囲気に入り、第3曲《孤独な花》では、梢の間から射し込む淡い光すら不気味に感じられます。第4曲《呪われた場所》、有名な第7曲《予言の鳥》は、神秘的、超幻想的な雰囲気を醸し、シューマンのきわめて個性的な世界が現れます。

この曲を弾いていると、シューマンの精神は森の中の牧歌的な光景から、超現実的な空想へとめまぐるしく飛翔し、幸いなことに第9曲《別れ》で美しく、明るい気分で終わるのですが、それはもしかしたら単なる偶然だったかもしれないような気さえします。深い森の中の幻想的な世界に分け入ったまま、シューマンは、ひょっとして還って来なかったかもしれない— そのような危うさを孕んでいるような音楽です。

通して弾くときは、曲集全体の構成に気を配る必要がありますが、とくに個性的な曲をピックアップして弾いてみるのも、シューマンの世界を味わういい機会となることでしょう。

○「森の入り口」

詩的な世界への導入のようなこの冒頭の曲は、森へ入るときの楽しい期待感と深い森に対するかすかな怖れが交錯している作品です。軽やかな足取りを表すようなリズムは、合の手が重くなってしまうと流れが止まり、生き生きとした息づかいが消えてしまいます。手首などをつっぱらせずに、柔らかく軽やかに弾きましょう。楽しい気分の中にも、後に続く雰囲気を暗示するようにしたいと思います。

お話しの手が、静かに森の物語を話し始める、期待とともに耳を澄ましていつの間にかその世界に入り込んでいく— そのような空間を創り出せるかどうか、この出だしで決まることなのでしょう。

これは私の趣味も入りますが、落ち着いたテンポをとり、冒頭を行進曲風のリズムをやたらに強調するのではなく、自然にリズムが聞き取れるように弾きたいと思えます。短調に翳る箇所も、やたらにテンポ・ルバートする

のも考え物でしょう。自然に淡々と始まり、ドラマや起伏が生まれていくわけで、最初からうんざりするような押しつけがましきやいやらしいほどの毒々しい色づけは不快な演奏につながるような気がします。

○「寂しい花」

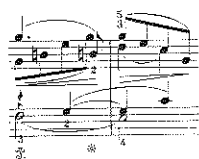
この曲は、とても幻想的な気分が溢れている作品です。この入り組んだ気分は、複数の声部が重なり、和声が微妙に変わって、色彩が変化していくことによって醸し出されています。

この曲は3声で始まり、ときどき4声となり厚みが増します。片手で2声を弾くとき、ともするとひとつの音の固まりとなって聞こえてしまいがちですが、2つの声部に、微妙に異なる音色、アーティキュレーション、ダイナミックを与えることによって、それぞれの声部が、それぞれの声として立体的に聞こえてきます。もちろんふたつの声部が溶けあうような場面もあるでしょうし、声部を弾き分けるとしても、増減ほんの少しひとつまみ、という場所もあるわけですが、ときには2つの声を光と影のように弾き分けたりしながら、糸が織りなしているような響きを出したいものです。

たとえば、(譜例4)では、右手の8つの8分音符に光を当てれば直前の小節のリズムを繰り返す喜びが伝わりますし、もうひとつの声部を強調すれば17小節に現れたリズムを再び感じ、過去の記憶、思い出が蘇るような懐かしい気分が表出されます。その8小節あとに全く同じ音型が繰り返して出てきますが、左に声部がさらに加わり、音がさらに複雑に重なっていきます。繰り返すときは、1回目と違う方の声部を出したりして、色合いの微妙な変化を楽しむこともできるでしょう。

冒頭(譜例5)は、バスが音楽の方向を決め、弱拍にやわらかく奏される和音が色を決定し、その上に歌が歌われる、といった感じで始まります。そよ風に乗ってふっと聞こえてくるような自然な歌です。“Semplice”というさりげない自然な演奏を求める指示は、簡単なようで意外と難しいかもしれません。ごちなくなっても、わざとらしくなくても、極端に走っても、雰囲気はぶちこわしになります。何も特別なことをしなくても、持っている音色と旋律の動き、ハーモニーの色合いに乗せることが出来れば、心にずっと入っていくもので、何かしておもしろい演奏にしようとか、動かして歌っているように見せよう、聴かせてみせよう、などという不自然な心の動きが入った途端、シューマンの音楽はそこからずるりとこぼれ落ちてしまうことなのでしょう。アピールする、表現する、ということは何が目立つことをする、

譜例4



ということとは違います。こういった曲の場合、素直に旋律の動きとその響きに耳を澄ませ、音色を味わいながら進んでいくことで“Semplice”のメロディーは自然に流れていくように思えます。

また(譜例6)は、日の光が当たって明るさが広がったと思ったら、そこからふと翳るような、色彩的な変化が生まれる場所です。シューマンの音楽には本当に色がついているのではないかとすら思える瞬間です。ピアノという楽器は、pのときに特にこまやかな音色の変化を表すことができるように思えます。ペダルの深さを変えてみる、あるいは、ソフトペダルを少し踏むことによってハンマーが弦に当たっている部分をわずかにずらすことが出来ます。つまりいつもハンマーが当たることになって堅くなっているフェルトから少しずれることによって、やわらかな毛がふさふさしている部分のハンマーで弦に当てることになり、別の音色が生まれます。あるいは、弾くときの指の角度をちょっと変える、押すときの方向をいろいろ試してみる— そのような自分の音色探しには、この曲は最適だと思います。

譜例5



譜例6



組立式防音室で満足しますか? **ピアノ室防音音響工事** For Your Better Music Life

適音性能保証はもちろんのこと、残響時間の設計、インテリアデザイン、その他、手づくり工事ならではの品質のよさをホームページでご覧下さい。

03-3239-1871・1874(fax)

資料御請求下さい。

手作りピアノ室を手がけて20年

一級建築士事務所知事登録19719 建築工事業知事許可(般7)67009
東京都千代田区五番町六番地クレイス五番町ビル6F
株式会社アコースティックエンジニアリング

<http://www.acoustic-eng.co.jp/piano/>

Column Vol.1 ピアノがもっとうまくなるために

～まずは耳を鍛えよう～

好きこそものの上手なれ、と好きなことをコツコツと続けていくうちにいつのまにか「プロフェッショナル」と呼ばれるようになる職業がある。例えば、デザイナー。素敵な服を着たい、他人にも着せたい、という願いからさまざまなアイデアが湧いてくる。例えば、シェフ。おいしいものが大好きで、自分やのおなかを満足させたくて試行錯誤を進めるうちに、他人も喜ばせる料理をつくれるようになる。

しかしピアニストの場合はどうだろう。大きくなってからある日急に「ピアニストになりたい!」と思っても、小さい頃からの訓練なしにはプロフェッショナルに達することは難しいだろう。しかし転じれば、全員いつの日かコンサートピアニストとして開花する可能性を秘めているのだ。ところが残念ながらお母さんの「うちの子は練習をなかなかしない」という声の方が大きいようである。

「上手なお子さんはどうやって練習をしているのでしょうか?」

この質問の答えには、様々な人が様々な立場で回答されていると思うが、本連載では、「ピアノがうまくなる=音楽をもっと好きになる」という観点から、音楽好きに育てる環境づくりについて考えてみたいと思う。

初回は、若い音楽家の環境作りについて、大阪音楽大学理事・音楽評論家の日下部吉彦氏にお話を伺う機会を得た。

初代大阪音大カレッジオペラハウス館長・大阪音大理事/日下部吉彦氏に聞く

大学時代は伝統ある同志社大学のグリークラブの指揮をし、若い頃から持ちつづけた音楽への情熱は、初代大阪音大カレッジ・オペラハウスの初代館長という仕事につながった。

このオペラハウスは専属のオーケストラと合唱団を持っている「日本で唯一の本格的なオペラハウス」だそう。まずはその特徴を語っていただいた。「演目は普通の興行では手が出ないような現代ものや実験的なものを企画してきました。例えば98年にやった黛敏郎の『金閣寺』(原作・三島由紀夫)は特に大成功でした。首都圏や関西圏で公演し、高い評価を頂きました。今年は11月に『広島島のオルフェ』(芥川也寸志)をやりませう。」

教育の現場ならではの刺激的なオペラハウス。学生はやはり安く観ることができるのだろうか?

「もちろんです!でもね、残念ながらお客さんは一般のオペラファンがほとんど。最高のチケットで6000円なのに、学生は1割程度しか来ないんです。どんなことにも、どん欲な関心を持たないのが、今の大学生の気質なのか。学生のうちこそ数多くのコンサートを聴いておいた方がいいのにね。」

仕事から、先生は年間に数多くのコンサートを聴かれるが、若いうちにどういったコンサートを聴いておくべきなのだろうか?

「聴くべき、とかそこから何かを学び取ろう、とかそう言った小難しいことは考えなくてもいいんです。コンサートに行く、そして素直に音楽の美しさ

や楽しさを味わえばいいんです。そういった経験が音楽好きを育てていくのだと思いますよ。」

小さい子どもにも、ピアノを教えたりするだけでなく、いい音楽会に連れて行ってやるのが大切とおっしゃる。

「私は音楽会で、ステージと客席をトータルに見ています。どういう反応をしているのか。どういう顔をして演奏しているのか。そういった客席と演奏家のキャッチボールは、コンサートでしか感じられませんよね。」

音楽に関わる人はひとりひとりが日本の音楽の未来を握っていると言う。音大を出て、音楽が好きなお子に出来るか出来ないかは、先生の教え方にかかっている。そこから日本の音楽界の裾野は広がってゆくのです、という。

クラシックやポピュラー、ロック、ジャズなどの垣根を取り払うことが大事。これが先生の結論でした。(取材・文◎小里 歩)



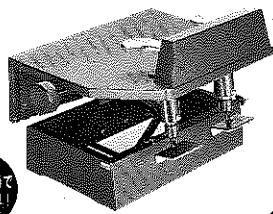
ピティナで育った補助ペダルM-60

ハイグレードなメカニズムで

より豊かな表現力を。

『ピアノ本体のペダリングに限りなく近く』をテーマに、多くのプロフェッショナルからの貴重なアドバイスを基に開発された“M-60”補助ペダル。その確かな安定性と独自のメカニズムは、発売以来多くのコンクールやレッスンに使用され、絶賛を博しております。

つまみ調節で
上下も簡単!





M-60ピアノ補助ペダル
定価 ¥37,000

◆会員特別価格 ¥32,000 (税、送料込)

※ペダル間隔の狭いGP2本ペダル用もご用意。

M-60 専用キャリングケース
(キャスター、ストラップ付)
好評発売中! 定価 ¥13,000

◆会員特別価格 ¥11,050 (税、送料込)

お問い合わせ・お申し込みは、ピティナ購売部まで 03(3944)1581 総発売元  

(お申し込み方法) 郵便局または東音企画ホームページからお買い求めいただけます。

●郵便局から.....郵便局の青色の振込用紙をご利用下さい。

※口座番号: 00110-6-25889

※加入者名: 株式会社 東音企画

※通信欄: 補助ペダル、必要数量

PTNA会員.....32,000円 (税、送料込) 必ず会員番号をお書き下さい。

一般.....37,000円 (税、送料込)

※振込人住所氏名: 郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して下さい。

(商品は、振込人住所へイトーシミュージックより直送となります。)

振込手数料: 誠に勝手ながらお客様のご負担とさせていただきます。

●ホームページから.....<http://www.to-on.com/shop/>へアクセスして下さい。

お支払いはVISAカードの決済となります。

商品の到着は、お申し込み日から1~2週間程度かかります。

<記入例>

00 払込取扱票		振込受領印
001106	25889	32000
001106	25889	32000
PTNA会員No.140000		東音企画
補助ペダル 1台		32,000円
170-0092	東京信託銀行支店	1-15-1
1-15-1	東京 15-1	〒115-0001
03-3944-1581		15-1

Check it out!

PTNA TICKET INFORMATION

11月～2002年1月

■ピティナ会員に限り、一部チケットに割引がございます。お問い合わせの上お確かめ下さい。
■お申込後のチケットの変更・キャンセルはご遠慮下さい。
■曲目が変更になる場合もございます。
■チケットの発売、満席の場合はご容赦下さい。

第3回ショパン国際ピアノコンクールinASIAプレイベント ケヴィン・ケナー (ピアノ)

PTNA OFF



2001.11.3 (土) 18:30開演
刈谷市民会館 アイリスホール
指揮：ヤン・クレンツ
シベリウス：交響詩「フィンランディア」
ショパン：ピアノ協奏曲第1番 短調作品11
チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調作品23
全席自由 ¥6,000 ピティナ会員各種10%OFF
Tel:0120-212-637
主催：ショパン国際ピアノコンクールinASIA
実行委員会 後援：ポーランド共和国大使館

オール・ショパンプログラム チェン・サ (ピアノ)

PTNA OFF



2001.11.3 (土) 19:00開演
トッパンホール (東京) ¥4000
2001.11.5 (月) 19:00開演
ザ・フェニックスホール (大阪)
¥3,500
ピティナ会員各種10%OFF
東京アイエムシー
Tel:03-3401-9561

日本フィルハーモニー交響楽団第8回大宮定期 梯 剛之 (ピアノ)

PTNA OFF



2001.11.16 (金) 19:00開演
大宮ソニックシティ大ホール
オッコ・カム (指揮)
ベルリオーズ：序曲「ローマの謝肉祭」
モーツァルト：ピアノ協奏曲第12番 変イ長調 K.414
プロコフィエフ：バレエ組曲「ロメオとジュリエット」
S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000
ピティナ会員各種10%OFF
ソニックシティホールメンバーズ
Tel:048-647-7722

東京交響楽団 東京芸術劇場シリーズ第59回 オリ・ムストネン (ピアノ)

PTNA OFF



2001.11.16 (金) 19:00開演
東京芸術劇場 ジャンドレア・ノセダ (指揮)
ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲
ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲作品43
プロコフィエフ：バレエ組曲「道化師」作品21b
ラヴェル：ラ・ヴァルス
S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000
学生 (B) ¥3,000 C¥2,000
ピティナ会員各種10%OFF
東京シンフォニーチケットセンター
Tel:03-3369-1661

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 スタニスラフ・ブーニン (ピアノ)

PTNA OFF



2001.11.23 (金) 19:00開演
大宮ソニックシティ大ホール
カジミエシュ・コルド (指揮)
ベートーヴェン：「エグモント」序曲 作品84
ショパン：ピアノ協奏曲第1番 短調 作品11
ショパン：ピアノ協奏曲第2番 変ロ短調 作品21
S¥12,000 A¥10,000 B¥8,000 C¥6,000
ピティナ会員各種10%OFF
ソニックシティホールメンバーズ
Tel:048-647-7722

園田高弘と訪ねるライブツィヒの音楽 園田 高弘 (ピアノ)

PTNA OFF



2001.12.1 (土) 18:30開演
東京オペラシティコンサートホール
バッハ：イタリア協奏曲へ長調BWV971
メンデルスゾーン：幻想曲嬰へ短調作品28
メンデルスゾーン：厳格な変奏曲二短調作品54
シューマン：幻想曲ハ長調作品17
¥4,000 ピティナ会員特別割引1枚 ¥3000
*ただし郵便振替でお申込みの場合
口座番号：00270-2-78131
口座名義：伊藤力生 (Tel:042-746-7017)

ピアノ・リサイタル ピエール・レアック (ピアノ)

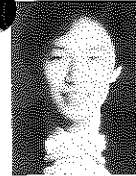
PTNA OFF



2001.12.5 (水) 19:00開演
旧東京音楽学校演奏堂
J.S.バッハ：イタリア協奏曲へ長調 BWV971
シューマン：フモレスケ 変ロ長調 Op.20
ドビュッシー：子供の領分
ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3章
全席自由 ¥5,000 (前売 ¥4,500)
ピティナ会員各種10%OFF
宮地楽器小金井店 Tel:042-385-5585

第276回名古屋フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 迫 昭嘉 (ピアノ)

Present



2001.12.7 (金) 19:00開演
愛知県芸術劇場コンサートホール
小林研一郎 (指揮)
ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 短調
ストラヴィンスキー：春の祭典
S¥5,000 A¥4,500 B¥4,000 学生 ¥2,000
名古屋フィル事務局 Tel:052-322-2774
*ピティナ会員へ3組6名様ご招待
全日本ピアノ指導者協会「チケットプレゼント」係
〒170-0458東京都豊島区巣鴨1-15-1
応募期間：11月15日～21日必着分 (はがきのみ)

浜離宮朝日ホールデビュー！ イリーナ・メジューエワ (ピアノ)

PTNA OFF



2001.12.15 (土) 14:00開演
浜離宮朝日ホール
ヘンデル：組曲第5番 変ロ長調 HWV430
([調子のよい鍛冶屋]を含む組曲)
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番 嬰ハ短調 作品27の2 《月光》
ショパン：バラード第3番 変イ長調 作品47
メトネル：おとぎ話 変ロ長調 作品9の2
全席指定 ¥4,000 学生当日 ¥3,500
ピティナ会員各種10%OFF
オレンジノート Tel:045-545-4316

ハーラル・セーヴェラー楽譜出版記念 ピアノリサイタル 関 小百合 (ピアノ)

PTNA OFF



2001.12.7 (金) 19:00開演
東京FMホール (東京)
セーヴェラー：やさしい小曲集Op.14より/リーヴステールからの歌と踊り第3集より/やさしい小曲集Op.18より//ピアノ・ソナタト短調 (日本初演)
モーツァルト：ソナタK.311
E.サティ：ジムノペティ第1番
全席自由 ¥4,000
ピティナ会員各種10%OFF
アルテ・エスプランサ Tel:03-3473-6044

東京交響楽団特別演奏会 ニューイヤーコンサート2002 中村 絃子 (ピアノ)

PTNA OFF



2002.1.8 (火) 19:00開演
サントリーホール
秋山和慶 (指揮)
ドヴォルジャーク：交響曲第9番 短調作品85「新世界より」
チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調作品23
J. シュトラウス[ワルツ]「美しく青きドナウ」作品314
S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000 P¥4,000
ピティナ会員各種10%OFF
東京シンフォニーチケットセンター
Tel:03-3369-1661

東京交響楽団特別演奏会 キリンニューイヤーコンサート2002 羽田 健太郎 (ピアノ)

PTNA OFF



2002.1.14 (月・祝) 13:30/17:00開演
Bunkamuraオーチャードホール
秋山和慶 (指揮) 渡辺玲子 (ヴァイオリン)
グリムカ：「ルスランとリユドミラ」序曲
チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲二長調作品35
ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー
チャイコフスキー：祝典序曲「1812年」作品49
S¥3,500 A¥2,500
ピティナ会員各種10%OFF
東京シンフォニーチケットセンター
Tel:03-3369-1661

読売日響・第30回東京芸術劇場マチネーシリーズほか 館野 泉 (ピアノ)

PTNA OFF



2002.1.19 (土) 14:00開演 東京芸術劇場
2002.1.21 (月) 19:00開演 サントリーホール
オスモ・ヴァンスカ (指揮)
シベリウス：交響詩「ポヒヨラの娘」Op.49
グリーグ：ピアノ協奏曲イ短調Op.16
シベリウス：交響曲第2番 二長調Op.43
A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 G¥2,000 (1/19)
A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 G¥3,500 (1/21)
ピティナ会員各種10%OFF
読売日響チケットセンター Tel:03-3820-0013

Check it out!

PTNA TICKET INFORMATION

ピティナ会員の演奏会 2001年11月～

●全21回Beethoven室内楽全曲演奏会 小川 由希子 (ピアノ)



2001.11.2 (金) 19:00開演
古河文学館サロン
第2回ALBERI String Quartett+Yukiko Ogawa
チェロソナタ第2番ト長調op.5-2
ロンドト長調WoO.41 (1793)
ピアノ三重奏曲第2番ト長調op.1-2
弦楽四重奏曲第1番ト長調op.18-1
全席¥2,500
小川由希子 Tel:0280-92-5708

ピアノ・リサイタル 種田 直之 (ピアノ)



2001.11.11 (日) 14:00開演 津田ホール
オールショパンプログラム
ショパン：幻想ポロネーズ作品61
ソナタ第3番 短調作品58
マズルカ 短調作品56-3
3つのマズルカ作品59 第1番イ短調、第2番変イ長調、第3番嬰へ短調
子守歌 作品57 他
全自由席 ¥4,000
アレグロ・ミュージック Tel:03-3403-5871

ピアノ・リサイタル 田中 克己 (ピアノ)



2001.11.17 (土) 18:30 開演
川口リリア音楽ホール (JR川口駅西口正面)
ラベル：亡き王女のためのパヴァーヌ
ラベル：古風なメヌエット
シューマン：クライスレリアーナ
ショパン：カンタービレ/コントゥルダンス
ノクターン嬰ハ短調遺作/ピアノソナタ
第3番
¥3,000
オフィス・ソガ Tel:048-542-8286

室内楽シリーズ 1886年—トウーン湖のブラームス 多 美智子 (ピアノ)



2001.11.19 (月) 19:00開演
東京文化会館小ホール
石井光子 (ヴァイオリン)・河野文昭 (チェロ)
ブラームス：チェロ・ソナタ第2番ヘ長調作品99/ヴァイオリン・ソナタ第2番イ長調作品100/ピアノ三重奏曲第3番ハ短調作品101
全自由席 ¥4,000
新演奏家協会 TEL 03-3561-5012

東京ニューシティ管弦楽団 第23回定期演奏会 稲田 潤子 (ピアノ)



2001.11.21 (水) 19:00 開演
東京芸術劇場大ホール
内藤彰 (指揮)
ラフマニノフ：ヴォカリーズOp.34-14
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番ニ短調Op.30
シューマン：交響曲第3番変ホ長調 Op.97「ライオン」
S¥6,000 AY¥4,500 BY 3,000
東京ニューシティ管弦楽団事務局
Tel:03-5952-7617

テノールリサイタル 佐伯 雅巳 (テノール) 一戸 智之 (ピアノ)



2001.11.22 (木) 19:00 開演
カザルスホール
一戸智之 (ピアノ)
シューベルト：美しき水車小屋の娘 全曲
¥4,000
二期会 Tel:03-3796-4711

ソロリサイタル 藤原 由紀乃



2001.12.1 (土) 18:30開演
カザルスホール
ショパン：子守歌 変ニ長調 op.57
ショパン：3つのマズルカ op.59
シューマン：トッカータ ハ長調 op.7
シューマン：クライスレリアーナ op.16
全席指定 ¥5,000
日本ベアタ・ツィーグラール協会
Tel: 03-3594-7581

モーツァルト室内管弦楽団サロンコンサート第60回例会 大竹道哉<クライネ・モーツァルト>



2001.12.7 (金) 18:30開演
門良一 (指揮)
大阪倶楽部 4Fホール
モーツァルト：ピアノ協奏曲第12番Kv414
舟歌 作品60 他
全席自由 ¥4,000 (ドリンクサービス付)
大阪アーティスト協会 06-6135-0503

チェンバロリサイタル 渡邊 純子 (チェンバロ)



2001.12.18 (火) 19:00開演 紀尾井ホール
C.Fh.E.バッハ：ソナタホ短調
W.F.バッハ：ファンタジア
J.J.フローベルガー：ブランシュローシュ氏の死に寄せるパリで作られたトンボー
J.S.バッハ：パルティータ第2番BWV826
J.S.バッハ：平均律クラヴィア曲集より
J.S.バッハ：半音階的幻想曲とフーガニ短調 BWV903
¥4,000 渡邊純子 Tel.03-3710-0559

第2回アンサンブルコンサート 『美年ピアノ』&キーボードオーケストラ『楽』



2001.12.19 (水) 13:30開演
大宮ソニックシティ小ホール
出演者：受講生 (40才代~70才代) 130名、講師15名、「楽」メンバー30名
曲目：「上を向いて歩こう」、「八木節」、バッハ：ピアノ協奏曲ト短調 他
入場無料
PTNA埼玉中央支部 戸沢睦子
Tel: 048-620-7200

ピアノ・リサイタル 水村 さおり (ピアノ)



2001.12.21 (金) 18:45 開演 しらかわホール
尾高尚忠：日本組曲 [1. 朝に 2. あそぶ子供 3. 子守唄 4. 祭り]
小山清茂：かごめ変奏曲
吉松隆：プレアデス舞曲集より第3舞曲集
西村朗：3つの幻影 [1. 水 2. 炎 3. 祈り]
武満徹：リタニ、雨の樹、素描、閉じた眼
一般 ¥4,000 ベア¥ 7,000
しらかわホールチケットセンター
Tel:052-222-7117

ピアノ・リサイタル 富田 与子 (ピアノ)



2001.12.24 (月・祝) 14:30開演
宇都宮市文化会館小ホール
スカルラッティ：ソナタ
ベートーヴェン：ソナタ第26番 変ホ長調 Op.81a「告别」
ショパン：バラード第4番ヘ短調Op.52
武満徹：雨の樹、素描
リスト：タペの調べ 変ニ長調
ラヴェル：ラ・ヴァルス
全席自由 ¥1,000 富田与子 Tel:028-624-2900

ピアノリサイタル 鈴木 直美 (ピアノ)



2002.3.3 (日) 14:00開演
東金文化会館小ホール
カバレフスキー：ソナチネOp.13 No.1
ベートーヴェン：ソナタOp.53ハ長調「ワルトシュタイン」
ラヴェル：夜のガスパール
ドビュッシー：夢/月の光/喜びの島
全席自由 ¥2,000
鈴木直美 Tel: 0475-73-3982

ピアノリサイタル 樋口 紀美子 (ピアノ)



2002.3.29 (金) 19:00開演
王子ホール
ドビュッシー：前奏曲集第1集I~XII
ショパン：スケルツォ全曲
¥4,500
音楽事務所サウンド・ギャラリ
Tel: 03-3351-4041

YAMAHA

感動を・ともに・創る



新しいクラビノーバで、
こころ弾む音楽の世界へ。



美しい音、多彩な機能に磨きをかけて新登場。
生まれ変わったクラビノーバが、
音楽を奏でる感動を、あなたにお届けします。

Clavinova

聴くだけの音楽から、自分で弾いて楽しむ音楽へ。クラビノーバは、ご家族の夢をハイクオリティな音と響き、そして多彩な機能で応援するいちばん身近な本格派。レッスンを受けている方から鍵盤楽器は初めてという方まで、ひとりひとりに最適なピアノライフをお届けできるよう、便利でうれしい新機能を装備しました。あなたもクラビノーバで、音楽のある豊かな暮らしをはじめませんか。

ピアノ音色が、さらに美しく表現力豊かに。クラビノーバならではの確かなピアノ音色が、ますますグレードアップ。ピアノ以外にも充実の「新プレミアム音色」を搭載しています。音色、伴奏スタイル等を自動的にセッティング。好きな曲に適した伴奏のスタイルを曲名から瞬時にチョイスできる「ミュージックファインダー機能」で、一層楽しさが広がります。見やすい、大型カラー液晶ディスプレイ。楽譜表示ができる大型カラー液晶ディスプレイを搭載。楽器の種類、伴奏スタイルなどが見やすく表示されるので、操作もスムーズです。



● CVP-209 ¥559,000・CVP-207 ¥450,000・CVP-205 ¥350,000・CVP-203 ¥280,000・CVP-201 ¥250,000 ● 専用高低自在イス/ヘッドフォン付き・税抜き価格 ● 価格はすべてメーカー希望小売価格です。
© ヤマハ クラビノーバ ホームページ <http://www.yamaha.co.jp/product/cl/> ヤマハ株式会社



STEINWAY & SONS.

スタインウェイを選ぶ。
Steinway Artist — 内田光子



Der Steinway ist das vielseitigste Instrument, das ich kenne.
スタインウェイは私の知るピアノの中で最も万能な楽器です。

スタインウェイジャパン株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋3-23-5 御成門郵船ビル1305 TEL:03-3432-1611 FAX:03-3432-1640
<http://www.steinway.co.jp>

スタインウェイ・サロン 東京

■ 御茶ノ水・カザルスホール並び
■ JR/御茶ノ水駅 地下鉄/御茶ノ水駅・新御茶ノ水駅・神保町駅より各5〜7分

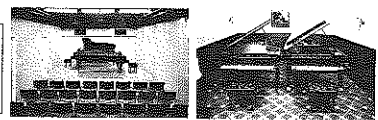


東京本店・会員制・リハーサルスタジオのご案内

スタインウェイフルコンサートグランド設置の会員制スタジオです。スタインウェイでの、個人練習・2台練習・広い空間での練習をご希望の方に最適な施設です。Aスタジオは、約20cm高きの舞台上にピアノを設置。客席に50席前後のパイプ椅子を並べることができますので、発表会や、勉強会、小さなコンサートなどにもご利用頂けます。その他のレッスントップのお部屋では、個人練習、グループレッスン、アンサンブル等にご活用ください。スタジオを会員価格でご利用頂くには、会員カードへのご入会が必要です。詳細はお問い合わせください。

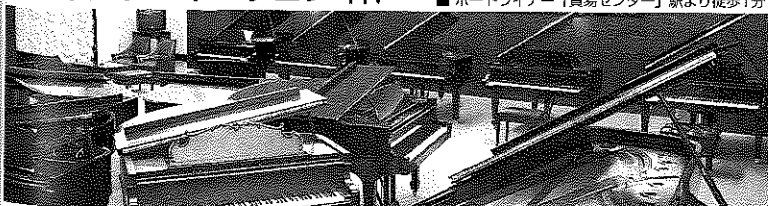
	会員 ピジター
Aスタジオ(55m ²) 1または2台 / 1時間	¥5,000 ¥7,000
Cスタジオ(18m ²) 2台設置 / 1時間	¥3,000 ¥4,000
Dスタジオ(14m ²) 1台設置 / 1時間	¥3,000 ¥4,000

営業時間：【平日】10:00〜21:00 (入室19:00迄)
【土・日・祝】10:00〜19:00 (入室18:00迄)
定休日：月曜 (祝日の場合は営業、その翌日休)
予約専用電話：03-3219-5185 (予約受付時間：11:00〜19:00)



スタインウェイ・サロン 神戸

■ JR・阪急・阪神「三宮駅」より徒歩8分
■ ポートライナー「貿易センター」駅より徒歩1分



神戸店・練習室のご案内

お気軽にご利用いただける練習室
一室を完備。
初回の1時間は無料、以降1時間¥
2,100です。スタインウェイフル
コンサートグランド1台に、スタ
インウェイをもう1台 (D-274あ
るいはB-211のいずれか) の計2
台を設置しておりますので、ピ
アノデュオ等の練習にも最適です。



スタインウェイ・アンド・サンズ 関東・関西地区正規特約店
ポストピアノ特約店

東京本店 ☎ 0120-00-4331
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-6 お茶の水スクエアA館1F TEL:03-3219-5150
営業時間：平日 11:00〜21:00 土・日・祝 11:00〜19:00

株式会社 松尾楽器商会

神戸店 ☎ 0120-00-4071
〒651-0084 神戸市中央区磯辺通2丁目2番10号新南泰ビル1F TEL:078-221-4071
営業時間：10:00〜18:00
定休日：日曜・祝日 (日曜日が祝日の場合、その翌日休)

<http://www.h-matsuo.co.jp/>



ピアニストは、託

ピアノは、応えた。

第14回ショパン国際ピアノコンクールにおいて、第2位に入賞したイングリッド・フリッター氏

国際ピアノコンクールでは、ピアニストから信頼に足ると判断されたピアノだけが挑戦のステージに上がることが許される——。「とても弾きやすいピアノ。ダイナミックレンジが広く音色も多彩で音楽を表現しやすい。ショパンコンクールでのEXのサウンドは、それはそれは美しく、重厚で、音色豊かなものだった。EXで演奏できたことを心から光栄に思っている」第14回ショパン国際ピアノコンクールにおいて、栄えある第2位に入賞したイングリッド・フリッター氏は、受賞後、EXをこう評した。カワイフルコンサートピアノEX。世界最高峰の国際ピアノコンクールの舞台上、それは、ピアニストの信頼に確かな響きで応えた。

KAWAI EX
CONCERT PIANO

株式会社河合楽器製作所 〒430-8665 静岡県浜松市寺島町200 Tel.053-457-1317 Fax.053-457-1351

ホームページアドレス: <http://www.kawai.co.jp/> カワイホームページでは(商品情報やイベントのご案内)〈音楽、体育、英語、絵画造形など各種教室のご案内〉(お近くの直営ショップのご案内)〈カタログ請求受付、オンラインショッピング〉など、各種サービスをお楽しみいただけます。



Wien Akademie



ウィーンへと続くキャンパスライフ。



本学園がウィーンに「東邦ウィーンアカデミー」を開設したのは平成3年のこと。今年新たにシェーンブルン宮殿の隣に研修所が誕生し、より素晴らしい音楽環境が整いました。大学3年生は必修、短大2年生は選択で体験する15日間のウィーン研修は音楽の道を歩むみなさんにとってかけがえのない貴重な経験になることでしょう。

平成13年度 大学説明会のお知らせ

進学を考えている中学生・高校生のみならず、及びご父母の方、先生方にもレッスンの先生方、卒業生及び一般の方などでもご参加頂けます。
内容・本学の概要
・実技指導(個人レッスン形式)
・進学相談(希望制)
費用 無料

月日(曜日)	場所	時間
11月25日(日)	埼玉 川越キャンパス	13時～
12月2日(日)	東京 大塚キャンパス	13時～

申し込み: 〒112-0012 東京都文京区大塚4-46-9
問い合わせ先 東邦音楽大学・短期大学事務局(上條・長井・大塚)宛
TEL 03-3946-9667 FAX 03-3946-2455
E-mail: info@toho-music.ac.jp

平成13年度 入試のための冬期セミナーのお知らせ

セミナー期間: 平成13年12月21日(金)～平成13年12月23日(日)
申し込み期間: 平成13年11月19日(月)～平成13年12月14日(金)
受講科目: 小論文、楽典、ソルフェージュ等
実技科目: ピアノ、声楽、管弦打、作曲(個人レッスン)、音楽療法(グループレッスン)
申し込み方法: 下記住所迄ハガキ・電話・FAX・Eメール等でご請求下さい。
〒112-0012 東京都文京区大塚4-46-9
東邦音楽大学・短期大学事務局 庶務担当
TEL 03-3946-9667 FAX 03-3946-2455
E-mail: info@toho-music.ac.jp

平成14年度 東邦音楽学校・音楽専門学科(第2回)入試日程

出願期間/平成13年12月8日(土)～平成13年12月22日(土)
試験期日/平成14年1月19日(土)
合格発表/平成14年1月21日(月)

平成13年度 定期演奏会のお知らせ

研究発表演奏会が下記の通り開催されます。
お問い合わせの上、学生・生徒たちの日々の研鑽のほどをご鑑賞下さい。
日時: 平成13年11月29日(木) 場所: 文京シビックホール

平成14年度 推薦入試日程

	出願期間	試験期日	合格発表
東邦音楽大学 (音楽学部音楽学科)	平成13年11月1日(木)～ 平成13年11月8日(木)	11月14日(水)	11月20日(火)
東邦音楽短期大学 (音楽科)			
附属東邦高等学校	平成14年1月18日(金)～ 平成14年1月19日(土)	1月22日(火)	1月24日(木)
附属東邦第二高等学校	平成14年1月17日(木)～ 平成14年1月18日(金)	1月23日(水)	1月25日(金)

平成14年度 一般入試日程

	出願期間	試験期日	合格発表
東邦音楽大学 (音楽学部音楽学科)	平成14年1月10日(木)～ 平成14年1月22日(火)	2月1日(金)～ 2月2日(土)	2月7日(木)
東邦音楽短期大学 (音楽科)			
附属東邦高等学校	平成14年1月25日(金)～ 平成14年2月8日(金)	2月10日(日)	2月12日(火)
附属東邦第二高等学校	平成14年1月25日(金)～ 平成14年2月6日(水)	2月8日(金)	2月9日(土)
附属東邦中学校	平成14年1月21日(月)～ 平成14年1月28日(月)	2月1日(金)	2月2日(土)

学校法人 三室戸学園

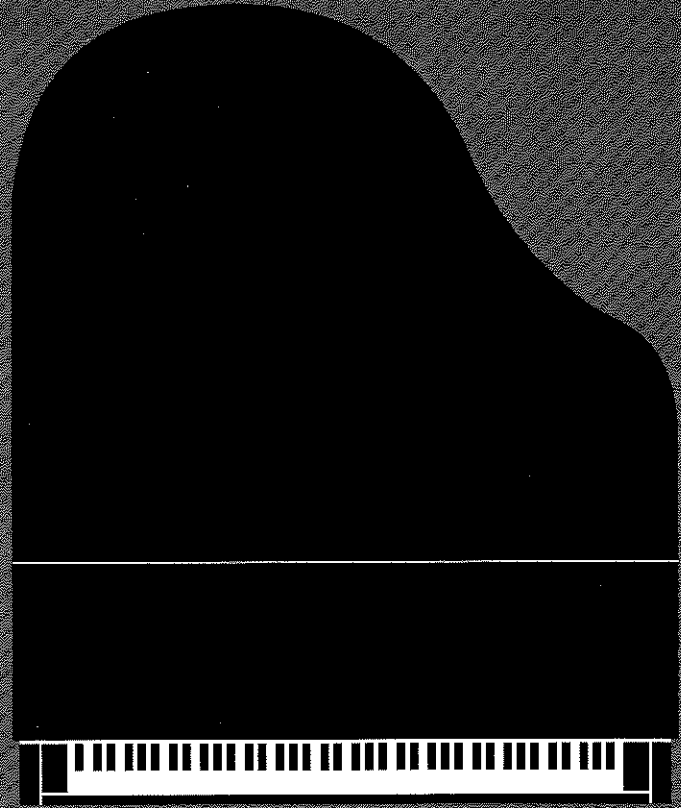
東邦音楽大学 東邦音楽短期大学

音楽専攻科・音楽学部音楽学科
○声楽 ○ピアノ ○管弦打楽器 ○作曲 ○音楽療法
専攻科・音楽科
○声楽 ○ピアノ ○管弦打楽器 ○作曲
附属東邦第二高等学校 音楽科(女子) 附属東邦高等学校 音楽科(共学)
東邦音楽大学総合芸術研究所 附属東邦中学校(音楽・共学)
東邦ウィーンアカデミー 東邦音楽学校
川越キャンパス 大塚キャンパス
大学: TEL049(235) 2157 短大・音楽学校・研究所: TEL03(3946) 9667
附属東邦第二高等学校: TEL049(235) 2401 附属東邦高等学校・中学校: TEL03(3946) 9668
〒350-0015 埼玉県川越市今泉84 〒112-0012 東京都文京区大塚4-46-9

URL: <http://www.toho-music.ac.jp>

SENZOKU GAKUEN COLLEGE of MUSIC

INSTRUMENTAL MUSIC MAJOR
VOCAL MUSIC MAJOR
MUSIC EDUCATION MAJOR
MUSIC COMPOSITION MAJOR



洗足学園大学 音楽学部

器楽専攻
声楽専攻
音楽教育専攻
作曲専攻

〒213-8580 神奈川県川崎市高津区久本2-3-1 TEL 044-856-2955
<http://www.senzoku.ac.jp/>

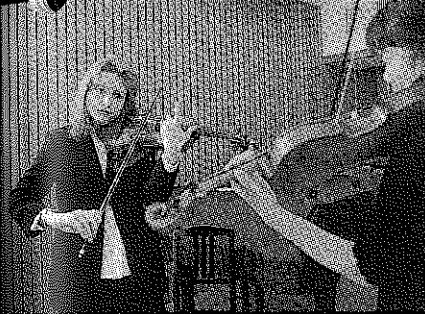
Moscow National Academy of Music Special Performance Course



倉敷で学ぶ「モスクワ音楽院」
世界最高峰の技術と感性が
日本で学べます。



アナスタシア・チェボタリョワ (Vn)



アンドレイ・ビスアレフ (P)



くらしき作陽大学 音楽学部 音楽学科

モスクワ音楽院特別演奏コース

2000年4月、世界初の試みとして誕生した「モスクワ音楽院特別演奏コース」は、ロシアが世界に誇る「チャイコフスキー記念ロシア国立モスクワ音楽院」と「くらしき作陽大学」のジョイントから生まれたハイレベルな音楽教育システムです。現在、本コースにはピアノとヴァイオリンの2専攻があり、ロシア本校と同じカリキュラムで、本校から派遣されたヴィルトゥオーソ（一流演奏家）のロシア人教授がマンツーマンのレッスンを行っています。くらしき作陽大学を卒業すると同時にモスクワ音楽院の修了証を取得でき、さらに世界的に権威のあるロシアの国家資格「ディプロマ」の受験資格も得られます。ちなみに教授たちは倉敷に在住していますから、あらゆる面できめ細やかな指導が可能。世界の舞台への道が倉敷の地に開かれています。

INFORMATION モスクワ音楽院特別演奏コース：12/1・2のうち1日

くらしき作陽大学音楽学部・作陽短期大学音楽科入試日程				
	出願期間	試験日	合格発表	
推薦入試	10月23日(火)～11月1日(木)必着	11月5日(月)～11月7日(水)	11月10日(土)	
第一次入試	1月7日(月)～1月28日(月)必着	2月1日(金)～2月3日(日)	2月8日(金)	
第二次入試	2月28日(木)～3月13日(水)必着	3月15日(金)～3月16日(土)	3月19日(火)	
モスクワ音楽院特別演奏コース入試日程				
	出願期間	試験日	合格発表	
推薦入試	10月23日(火)～11月1日(木)必着	11月7日(水)～11月8日(木)	11月10日(土)	
第一次入試	1月7日(月)～1月28日(月)必着	2月3日(日)～2月4日(月)	2月8日(金)	

☎ FREE-CALL 0120-911-394 (入試広報室)

くらしき作陽大学【音楽学部】 作陽短期大学【音楽科】

音楽学科

- 特別演奏系 モスクワ音楽院特別演奏コース(ピアノ専修/ヴァイオリン専修)
- 演奏系 声楽専修/ピアノ専修/管楽器専修/弦楽器専修/打楽器専修/オルガン専修/ハープ専修/作曲専修/指揮専修/電子音楽専修/邦楽(琴・尺八)専修
- 音楽文化系 日本伝統芸能専修/情報音楽専修/アートマネジメント専修

教育音楽学科

- 音楽教育系 音楽教育専修
- 音楽指導系 吹奏楽指導専修/幼児音楽指導専修
- 音楽療法系 音楽療法専修

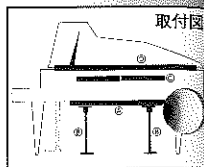
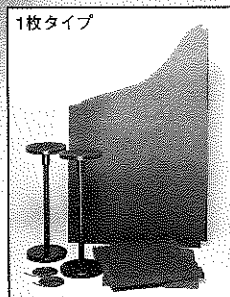
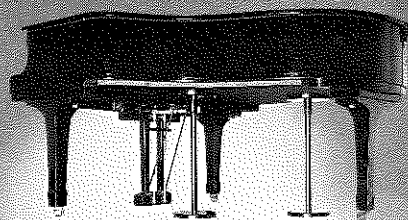
音楽科

- 音楽系 声楽専修/ピアノ専修/管楽器専修/弦楽器専修/打楽器専修/電子音楽専修
- 邦楽(琴)専修
- ミュージカル系 ミュージカル専修

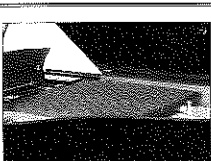
お問合せ先/〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515 TEL.086-523-0888(代) <http://www.ksu.ac.jp>

ショールーム
OPEN!!

簡単に取り付け！ ご近所に迷惑かけずにピアノレッスン！



商品構成：
 ①スーパーミラクルソフトGP用
 ②固定用脚(2本)
 ③ウレタン吸音材(2枚)
 ④合成ゴム発砲パッキング(2本)



型番 S-100
 定価 ¥9600
 寸法 1000×1000×40mm
 特長 表面に凹凸を付けることにより、大変優れた吸音特性を持ったGP専用の吸音材です。大屋根を開けてGPの内部に入れることにより、大きすぎる反響音を、適度で優しい音量に変えてくれます。長時間のレッスンにも疲れることが少なくなります。GPの形状や大きさに合わせて簡単にカットし、GP内部に差し込んで下さい。

スーパーミラクルソフト GP用

S-001 ¥84,000 (C-3クラスまで) S-002 ¥98,000 (C-5クラス以上)
 ※取り付けはご自分で出来ます。(取り付け作業は、1人又は、2人で行なって下さい。)

■特長

- ネジ、ビスを一切使わないため大切なピアノを傷めません。
- 着脱は、いつでもOK。③吸音材の使用によりピアノの反射音を抑え、整った音場を実現します。このため長時間のレッスンも疲れません。④音のこもりもほとんどありません。
- ピアノの機種に合わせて防音パネルを製作。大きな機種は防音パネルを2枚に分割。取り付けもより簡単です。



防音ジュウタン GP用

型番 S-070
 定価 ¥56000(色はベージュのみ)
 寸法 C-5迄(大きさは1種類のみ)
 特長 上質のジュウタンに防音シートを巻いた便利なものです。グランドピアノの形状に合わせて製作。インテリアとしてもお部屋にピッタリ。防音性能は約5~7db。床からの反射音も抑えられ、雑音がりがして有りますのではつれる心配もありません。



床補強パネル GP用

型番 S-080
 定価 ¥18000(3枚1組)。
 寸法 360.6×15mm
 特長 最近のマンションは床厚が少なく、グランドピアノを置く場合は床を補強して頂くことが安心です。材質はMDFです。仕上げはピアノ塗装でGPに大変よくマッチいたします。

室内音場調整 パネル



型番 S-090
 定価 都度お見積り
 寸法 壁面に立てかけるもの。厚みは100mm天井高さと同様に計って頂きます。ハンドリングし易い様に当社で分割して製作致します。
 特長 マンションの壁は殆どがコンクリートの上からクロス仕上げ等の仕様となっております。従って、ピアノルームとして最適な環境とはなりません。ピアノ音が反響しすぎライブ過ぎで大変疲れると言う方が多くおられます。この音場調整パネルをひとつの壁に立てかけるだけで、大変優れた音場に改善されピアノ演奏がより一層楽しくなります。色はベージュです。隣室や隣家への防音効果もあります(約7~10dbの遮音)

当社ショールームにて試奏が出来ます。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

商品紹介

グランドピアノのための防音装置

グランドピアノを購入するにあたり、近所への音漏れは大変気掛かりなもの。そこで今回は、手頃な価格で取り付けの自由度の高い

防音装置と、音空間づくりの商品を2点紹介させていただきます。

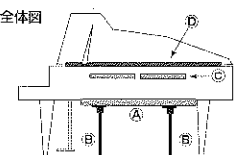
まず、「スーパーミラクルソフトGP用」と名づけられた防音装置(写真A)。これはグランドピアノの下面に取り付ける防音パネルのことで、これをセットになっている2本のパッキングと固定用脚で装着させる仕組みになっている。また、ピアノの内部には音の反射を防ぎ、整った音場をつくるための凸凹状の吸音材を差し込む二重構造になっている。いずれも取り外しが簡単で、ピアノを傷つけないようネジやビスを使わないようにできている。ピアノ好きな私たちにとってはとても嬉しい配慮だ。

早速個室で防音装置が付いたものと付いていないものを弾き比べてみた。85~95デシベルの音量が、約15デシベルほどカットされているそうであるが(15デシベル以上になると音量が落ちすぎるといった感じになるらしい)、はっきりとした格差がうかがえ驚いた。しかも反響が抑えられ、長時間練習しても疲れな快適な音質だ。当初、ピアノの内部にウレタンの吸音材が入っていると聞き、音のこもりが心配だったが、特に問題はなかった。これなら近所迷惑を気にすることなく、

レッスンや日頃の練習を思う存分することが出来るだろう。値段の方も手頃でヤマハC-3クラスまでは84000円、それ以上の大型は98000円となっている。大規模で高額な防音室の工事をするのは躊躇われるという人には、防音対策の入り口としてはうってつけの装置といえる。



写真A



全体図

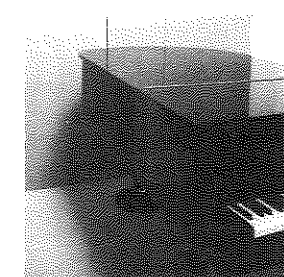
①スーパーミラクルソフトGP
 (2脚)
 ②固定用脚
 (2脚)
 ※取付方法は右図をご覧下さい。
 ③ウレタン吸音材 (2枚)
 ④防音テープ (2本)

もう一つ、ここで紹介するのはピアノ音場調整スタンド「アコースティック・コンディショナー・スタンド」という商品(写真B)。これはピアノの部屋の壁際に立てかけてつかうパネル状のもので、より豊かな音場空間をつくるためのものらしい。実際に個室で立てかけて弾いてみると、なるほど、先ほどまで派手に反響していた音が吸収され、とてもクリアで快適な響きに変化した。ショールームの人に聞けば、マンションの天井や壁はクロスがけのコンクリートでできているため、反響し過ぎるという不満の声が常日頃寄せら

れるという。そういう場所での商品のもっとも効果を発揮するということだ。値段は、設置場所の天井の高さや横幅により都度お見積りということだが、私が使ったものは規格サイズで、横

18000円と手頃だった。厚みも100mmと場所をとらない。自宅やレッスン室でピアノの音が過度に反響してしまうという場合は、耳を鍛えるという意味でも使ってみると良いだろう。近所の迷惑度も、どの程度カットできるかはもっとも興味深いところであるが、「これらの商品を購入したお客さんからのクレームは一度もありません」と、奥居社長は自信をもってお勧めしてくれた。さらに「これだけの対策をとったということをお近所の方にお伝えし、理解を得ることも必要でしょう」とのことだ。

(取材協力：東京防音株式会社)



写真B

れるという。そういう場所での商品のもっとも効果を発揮するということだ。値段は、設置場所の天井の高さや横幅により都度お見積りということだが、私が使ったものは規格サイズで、横980mm×縦980mmで1枚



代表取締役社長 奥居敏治氏

第25回ピティナ・ピアノコンペティション コンチェルト部門 参加者募集

Topics

全地区 リハーサルを公開

1. 第一線の指揮者との共演
群馬支部、小田野宏之、吉田裕史、山田裕史、山田裕史、山田裕史
2. 指揮者によるアドバイス・リハーサルがさらに充実
一初・中級は演奏時間の約2倍。いつもと違う音楽の世界。
3. 上級決勝は洗足学園管弦楽団と共演
一決勝進出者は、リスト第1番全楽章を洗足オケと(上級のみ)
4. 上位入賞者は2002年3月ピティナ・ワールドフェスティバル「入賞者記念コンサート」出演
その他、ピアノパートの演奏カットなし/地区予選から迫力の電子オルガン3台伴奏を起用

(写真) 洗足学園大学管弦楽団 (於 洗足学園前田ホール)

●地区予選課題曲

【初級】(小学6年生以下)

- ◆川崎絵都夫/こどものためのピアノ協奏曲「不思議の国の冒険」第2・3楽章
- ◆ハイドン/ピアノ協奏曲 ト長調 Hob. XVI/11/4 第3楽章
- ◆平吉毅州/こどものためのピアノコンチェルティーノ
- ◆三枝成彰/チルドレンズ・コンチェルティーノ第1・3楽章

【中級】(高校3年生以下)

- ◆ミホライ・グレッキ/若きショパン風ピアノ協奏曲 第2番
- ◆ハイドン/ピアノ協奏曲 二長調 Hob. XVI/11 第1楽章
- ◆モーツァルト/ピアノ協奏曲 第26番「戴冠式」K. 537 第1楽章
- ◆シヨスタコヴィチ/ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 Op. 102 第1楽章

【上級】(年齢制限なし)

- ◆リスト/ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S. 124 第1・2楽章
- ◆リスト/ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S. 124 第3・4楽章
- ◆サン＝サーンス/ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op. 22 第1楽章
- ◆ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op. 11 第1楽章
- ◆ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 Op. 73「皇帝」第1楽章
- ◆ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 Op. 18 第1楽章
- ◆シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 Op. 54 第1楽章

●全国決勝大会課題曲

- 【初級・中級】
地区予選課題曲に同じ。地区予選で選択した曲でも可
- 【上級】リスト ピアノ協奏曲第1番 変ホ長調 S. 124

●参加申込

参加申込には、「2001年度ピティナ・ピアノコンペティション参加要項」が必要です。100円切手12枚(会員は11枚)を下記宛にお送り下さい。〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1 社団法人全日本ピアノ指導者協会「2001年度コンペティション要項係」

●演奏形態

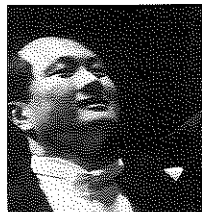
*地区予選/全国決勝大会の2段階選抜 *地区予選/全国決勝大会ともに指揮者+電子オルガン3台の電子オーケストラ伴奏 *原則としてピアノパートの演奏カットなし。カデンツァ含む。通して演奏。

●後援・協力

後援 文部科学省/東京都
協力 ヤマハエレクトーンシティ渋谷
会場協力 洗足学園大学/東邦音楽大学
決勝オーケストラ協力/洗足学園管弦楽団

●指揮者

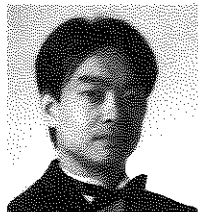
地区予選から、アドバイス・リハーサルそして本番を通じてみなさんを音楽の高みへ導くマエストロ。担当地区予選は●印で記しました。



◆小田野宏之

広島交響楽団正指揮者。東京芸術大学非常勤講師。

●大阪/名古屋/東京



◆吉田裕史

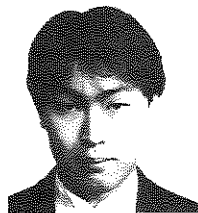
1999年文化庁派遣芸術家として渡欧、現在バイエルン国立歌劇場にて準・メルクル氏のアシスタントを務める。

●東京後期/福岡



◆田久保裕一

ルーマニア・第1回「デュ・ニクス」国際指揮者コンクール グランプリ受賞。日本指揮者協会会員 ●大阪



◆鈴木織衛

東京芸術大学付属音楽高校、常葉学園大学教育学部講師。

●名古屋/東京後期/福岡

●地区予選日程【お知らせ】東京前期地区は、諸般の事情により開催中止となりました

大阪	2001年11/17(土)~18(日)	9/19締切	定員25名	千里支部
名古屋	2001年12/23(日)~24(月)	10/24締切	定員25名	名古屋支部
東京後期	2002年1/12(土)~14(月)	11/14締切	定員40名	東京支部
福岡	2002年1/26(土)~27(日)	11/28締切	定員25名	福岡支部

●全国決勝大会 2002年3/23(土)~24(日) 洗足学園前田ホール

●入賞者演奏会 2002年3/27(水)~31(日) ピティナ・ワールドフェスティバル入賞者記念コンサート(東京音楽大学ホール)

●地区予選参加料

	一般	指導者割引	会員割引
初級	27,500円	26,500円	24,500円
中級	39,500円	38,500円	36,500円
上級	50,000円	49,000円	47,000円

※全国決勝大会参加料は、別途参加要項をご参照下さい。

■ 紀要論文/研究レポート募集 ■

2001年度のピティナ研究論文募集のご案内

紀要論文募集(第4号)

~音楽を研究する人が多くの人々の批評を受けることで、知的に洗練される場を提供します。

- 紀要への採用にあたっては、学術論文としての要件を満たしていることがその条件となります。
- (例:論旨の明確さ、独創性、あるいは参考文献、資料の取り扱いなど技術的な部分)
- 採用された論文はピティナの公式紀要論文として発表され、音楽文献目録への登録も行います。
- すべての論文はインターネット上で発表されます。
- 論文の規模は20000文字以内。(脚注、図版を除く)

研究レポート募集(第1号)

~必ずしも学術的な枠組みにとらわれない、自由な形式のレポートを募集します。
ピアノ音楽やその指導法について、日常感じたり研究していることを発表してください。

- 作品や作曲家、指導法、演奏法など広くピアノに関する文章を募集します。レポートとして発表する意欲があるものであれば、必ずしも学術論文としての体裁を取っている必要はありません。
- 採用されたレポートはピティナの紀要論文と同じく、インターネット上で発表されます。
- レポート採用者のうち、ピティナの会員の方には指導者賞ポイント(10ポイント)が与えられます。
- レポートの文字数は10000文字程度まで。(脚注、図版を除く)

※応募期間

2001年9月1日~11月30日

※採用発表

2002年1月末日予定(インターネット上への発表は4月1日)

※応募料

紀要論文 18000円(ピティナ会員9000円) / 研究レポート 12000円(ピティナ会員6000円)

◎応募条件等詳細は下記URL参照、あるいは担当までお問合せください。

社団法人全日本ピアノ指導者協会
事務局 紀要編集委員会担当 賞方(シツカガ)
03-3944-1583 / jitsukato@piano.or.jp

2001年度 アンサンブル (室内楽) 研修会

聴講生募集 受講生はピティナ入賞者ほか

より総合的な音楽力育成を目的とした、ピアノトリオの公開レッスン「アンサンブル研修会」。ピアノ受講生が、一流のバイオリニスト・チェリストと共演しながら、講師の公開レッスンを受けます。室内楽に興味のある学生、指導者の方におすす。ピアノと共演される弦楽器学習者の方からも好評。

レッスンのポイント例

- 弦楽器とピアノの発音の仕組み・奏法の違い
- 弦楽器とあわせるための呼吸法
- 楽譜を立体的 (スコア式) に読む
- "ひびき"に対して敏感になる
- アンサンブルを通して、音楽的コミュニケーションから人間的コミュニケーションを体験
- アンサンブルの練習方法

研修会 A <2日間コース>

2001年11月10日(土) ~ 11月11日(日) 14:00~

会場: <東音>ホール (東京・巣鴨)

講師: 大石潤 (国立音楽大学教授)

共演&アドバイス: 宮内道子 (ヴァイオリン)

菊池知也 (チェロ)

写真左: 大石潤
写真中: 宮内道子
写真右: 菊池知也



受講生 (変更の可能性もあります)

- 初級
 - モーツァルト 第4番 変ロ長調 Kv.502 第1楽章 (楽譜: Peters)
 - 池川 礼子 (ピティナ正会員)
 - モーツァルト 第6番 ハ長調 Kv.548 第1楽章 (楽譜: Peters)
 - 沼田 理美 (中2 1999年C級金賞)
- 中級
 - メンデルスゾーン 第1番 二短調 Op.49 第1楽章 (楽譜: Peters)
 - 神谷香苗 (ピティナ指導者会員) / 入佐千晴 (1997年F級全国決勝大会入選) / 天野浩子 (2000年コンチェルト上級優秀賞、2001年G級ベスト賞) / 金田美久美 (高2)
 - ベートーヴェン 第4番変ロ長調Op.11「街の歌」第1楽章 (楽譜: Peters)
 - ベートーヴェン 第5番二長調Op.70-1「幽霊」第1楽章 (楽譜: Peters)
 - 中安善巳 (大2) / 三水ひろみ (ピティナ指導者会員)

研修会 B <2日間コース>

1回目: 2001年12月15日(土)~16日(日)

2回目: 2002年1月6日(日)

講師: 金子恵+江崎光世

共演&アドバイス: 田辺秀樹 (ヴァイオリン)

諸岡由美子 (チェロ)



写真左: 金子恵
写真右: 江崎光世

受講生 (変更・追加の可能性もあります)

- プレ初級
 - ピアノトリオによる日本の四季より。「春」より春の小川 レッスン之友社 則行みお (1999年B級奨励賞)
 - 桑野雅依子 (2001年B級銅賞) 他
 - 同 「秋」より赤とんぼ
 - 池田薫 (ピティナ指導者会員) 片田愛理 (2000年B級金賞)
 - 同 「秋」より村祭
 - 嘉村えりか (2001年デュオ初級優秀賞) 他
 - 同 「冬」より雪
- 初級
 - ハイドン ピアノ三重奏曲 Hob.XV.25 G-dur <ジブシー風>
- 中級
 - ベートーヴェン ピアノ三重奏曲 第3番 八短調 Op.1-3
 - ブラームス ピアノ三重奏曲 第1番 口長調 Op.8
 - 増田祐三子 (ピティナ正会員)
 - 河野里香 (ピティナ指導者会員)

聴講申込先

聴講ご希望の方はこちらへお申込み下さい。
会場の都合上、定員になり次第締め切らせて頂きます。
各コース2日間通し券 会員2,500円 一般3,000円
各コース1日券 会員1,500円 一般2,000円

社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)

本部事務局 アンサンブル研修会係

URL: <http://www.piano.or.jp>

TEL 03-3944-1583 FAX03-3944-8838 e-mail: ikeda@piano.or.jp

講師陣のプロフィール

研修会 A



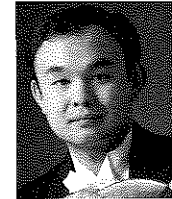
講師 大石潤

国立音楽大学ピアノ科及び専攻科卒業。バリ・エコール・ノルマルに留学。ピアノを小園登至子、J・ジャンティ、室内楽をV・ジャンティに師事。帰国後、大石潤ピアノ三重奏団を結成。西独の名チェリストK・シュトルク、ケヴァントハウス管弦楽団コンサートマスターG・ボッセ、ウィーンフィルハーモニアの首席チェリストA・スコッチッチ、ベルリン四重奏団、フィルハーモニアカルテット (ベルリン)、プラームスカルテット (ウィーン)、ハフナトリオと共演。数多くのコンクールの審査員として活躍。現在国立音楽大学教授、吉祥女子高等学校芸術コース講師。



ヴァイオリン 宮内道子

桐朋学園大学卒業。宗倫安、ジャンヌ・イスナール、斎藤秀雄の各氏に師事。毎日学生音楽コンクール入賞。桐朋学園オーケストラアメリカ公演、東京ヴィヴァルディ合奏団ヨーロッパ公演に参加。ドイツにて室内楽を中心に演奏活動を行い、帰国。現在、「大石潤ピアノトリオ」のヴァイオリニストとして、「新ヴィヴァルディ合奏団」のメンバーとして、またレコーディングなどに活動する他、後進の指導にもあたっている。



チェロ 菊池知也

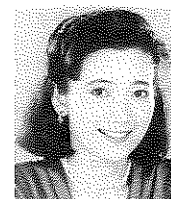
東京芸術大学音楽学部卒業、同大学にて安宅賞受賞。第6回・8回第霧島国際音楽祭にて奨励賞受賞。第60回日本音楽コンクール第1位、併せて増沢賞、特別賞受賞。第18回若い芽のコンサートに出演、NHK交響楽団と共演。第4回日本室内楽コンクール第1位、併せて東京都知事賞受賞。第1回全日本ビバホール・チェロコンクール第1位。木曾福島音楽祭、沖繩ムーン・ビーチ・ミュージック・フェスティバル、湯布院音楽祭、霧島国際音楽祭、ひろびろ音楽祭、オホーツク音楽祭等に参加。現在、紀尾井シンフォニエッタ東京、TOMOカルテット、アンサンブル・ノマド、パロック21、アンサンブル・ロココ、メレウス・ピアノ・トリオのメンバー、日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・チェリスト、東京芸術大学非常勤講師。

研修会 B



講師 江崎光世

国立音楽大学卒。ピティナ評議員・課題曲選定委員長。ピティナ・ピアノコンペティションに毎年多くの成績優秀者を輩出し、1996年最多指導者賞、1999年トヨタ指導者賞受賞。ピアノデュオ・室内楽・コンチェルトなどアンサンブル指導にはやくから取り組み、推進されている。



講師 金子恵

桐朋学園大学卒。リスト音楽院、サンタ・チェチリア音楽院修了。全日本学生音楽コンクール高校の部全国第1位、日本音楽コンクール2位。ハンガリー・ヴァイナ国際室内楽コンクール1位なしの第2位入賞。ロペール・カザドシュ国際ピアノコンクール第3位シヨパン賞受賞。イタリア・バルマドール国際音楽コンクールで第1位及び作曲家特別賞受賞。帰国後、各地でリサイタルを開く。現在、桐朋学園大学及び国立音楽大学非常勤講師。当協会正会員・国際委員・演奏研究委員。2000年5月、科学技術館サイエンスホールに於いて、室内楽の公開講座を行う。



ヴァイオリン 田辺秀樹

国立音楽大学卒業後、ドイツに留学。ロベルト・シューマン音楽院に於いて、ゴットフリート・シュナイダー教授に師事。また、ケルン音楽大学において、室内楽をアマデウス弦楽四重奏団のホルベルト・フライニン教授に師事。フィレンツェにおいて、ブライニン教授の主宰するマスター・コースにも参加。在独中は、ライン室内合奏団 (デュッセルドルフ) のメンバーとしても活躍した。帰国後、ライン・カンマー・アンサンブルを結成し、1989年よりドイツからメンバーを招き室内楽の楽しみシリーズとして定期的に日本各地及びヨーロッパで演奏活動をしていく。2000年5月には、科学技術館サイエンスホールに於いて、ライン・カンマー・アンサンブルと共に室内楽の公開講座を行う。

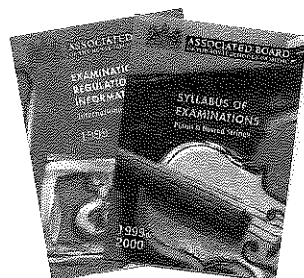


チェロ 諸岡由美子

ドイツカールスルーエ音楽大学を卒業。これまでエバハルト・フィンケ氏、ナタリア・グッドマン女史、アンゲリカ・マイ女史に師事。現在は、クレメンス・ドル氏に師事。南西ドイツ学生コンクール2位、ウィーン国際音楽コンクールウィーン市長賞特別賞、パッサンコンクール3位受賞。ドイツ学生オーケストラ、ドイツインターナショナルバルトーク合奏団のチェリストを務める。ヘルムート・リリング氏に宗教音楽を学ぶ。1991年イタリアオルヴィエート市でハンガリーセグト交響楽団と競演し、ローマ法皇より激励を受ける。1995年ニューヨーク市カーネギーホールでヨーロッパ交響楽団と競演。ポピュラー音楽の分野に於いても、久石譲のCDや、コンサートにソリストとしても出演しており、その他多くのミュージシャンと共演、レコーディングをしている。

英国王立音楽検定

英国王立音楽検定（アソシエイト・ボード）は、創立110年の歴史を誇る世界最大の音楽総合検定です。イギリスで発祥、今や全世界83カ国にて当検定が開催されており、受験者数は年間60万人を超えます。特にイギリスにおいては、音楽をはじめると同時にこの検定を受けるといわれています。あなたも是非日本で受けてみませんか。



▲要項・検定ガイド(和訳付)

理論検定

筆記試験（楽典）

- 日本語で受験可能
- 項目別採点表

実技検定

1. ピアノ等楽器実技演奏
2. スケール・アルペジオ等
3. 初見視奏
4. オーラルテスト（口頭試問）

- 希望者には通訳
- 試験官コメント付採点表

検定のご案内 **NEW!**

●2002年春季

理論検定 2002年3月2日(土) 申込締切 1/11(金)
実技検定 2002年4~5月予定 申込締切 3/1(金)

※試験日は申込締切後に決定。受験不可の方には次回に振替可能

●2002年秋季

理論検定 2002年11月2日(土) 申込締切 9/6(金)
実技検定 2002年11月予定 申込締切 9/27(金)

※試験日は申込締切後に決定。受験不可の方には次回に振替可能

要項・教材のお問い合わせ

- 要項（和訳付）ご希望の方は、500円分切手を同封の上、下記宛てにご請求下さい。月刊誌Libretto最新号無料をお届けします。
- 申込用紙のみご希望の方は1部100円で承ります。今年度より、理論・実技申込書が別になりました。
- 課題曲集・問題集・その他教材各種取り揃えております。

要項請求・各種お問い合わせ先
社団法人 全日本ピアノ指導者協会
〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1
TEL: 03-3944-1583
FAX: 03-3944-8838
URL <http://www.piano.or.jp>
英国王立音楽検定担当 池田

合格者にはロンドンより、世界共通の合格認定書が与えられます。

検定の特徴とメリット

音楽能力の客観評価

あらゆる観点から審査されることによって、長所を伸ばし、弱点を知り強化するきっかけとなります。実技検定には、課題曲演奏の他にスケール・アルペジオ、ソルフェージュ等も含まれます。

グローバルスタンダードで自己評価

現在世界83カ国で開催、毎年およそ60万人の受験者を誇るグレードテスト。欧米のみならずアジアやアフリカでも急速に拡大しています。また世界各地で審査を行っているイギリス人試験官があなたを評価します。試験官はイギリス国内外で活躍する演奏家及び指導者で、ロンドンで専門訓練を受けています。

あらゆる楽器に対応

ピアノ以外にも、管楽器、弦楽器、打楽器、声楽等、あらゆる楽器の実技検定が受けられます。また99年3月より英国にてJAZZ検定が開始予定。日本ではJAZZ課題曲集CDが入手可能です。

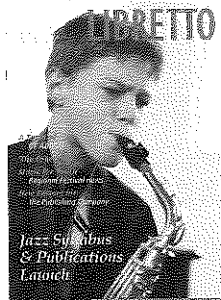
初級者から上級者・留学生まで

グレードは理論・実技とも1から8まで。グレード8修了後は、アドバンス、ディプロマと続き、これは英国王立の音楽大学学部課程入学レベルとされています。またそれ以外には、プレパラトリーテスト（入門）パフォーマンスアセスメント（成人検定）、プラクティカル・ミュージシャンシップテスト等用意されています。

Start up!

指導者の為のセミナー 過去講師一覧（実技試験官）

- 1997秋 クララ・テイラー女史
- 1998春 シルヴィア・テイト女史
- 1998秋 ティモシー・アーノルド氏
- 1999春 マーガレット・コーリング女史
- 1999秋 アイリーン・フィールド女史
- 2001春 ヴィヴィアン・レアード女史



こんな方にお勧め!

世界のスタンダードを知りたい
海外の審査員に演奏を評価してほしい
初見・スケールもこなせるようになりたい
演奏だけでなく理論知識も深めたい



英国王立音楽検定 秋季セミナーのご案内

英国王立音楽検定（アソシエイト・ボード）は110年以上の歴史と伝統を誇る総合的な音楽検定です。年間60カ国にて開催され、約82万人が受検するなど世界最大規模を誇ります。年2回開催されている同実技試験に際し、今年もイギリスより試験官が来日されます。

2001年の秋は試験官と一緒に、楽しく実用的な音楽の勉強をしませんか。検定のエッセンスが詰まったセミナーをお届けします。

指導者の先生方や留学志望の学生、日頃興味をお持ちの方など、皆様のご参加をお待ちしております。

Let's Start Up!

■日時：11月27日(火) 10:30~13:30

■会場：社団法人全日本ピアノ指導者協会本部事務局内 東音ホール
(R山手線巣鴨駅下車 南口ロータリー左正面宮田ビル3F)

■講師：Mr.Christopher Moore (クリストファー・ムーア/2001年秋季実技検定試験官)

■内容：ライブオーディションで実際の検定を再現！
トピック例) 概要説明/模擬検定の実演/初見視奏のコツ/オーラルテストの心構え/課題曲をいかに弾きこなすか/ディプロマ部門/Q&Aコーナー 他

●当日について

- *当日参考資料をお配りいたします。
- *上記はセミナーでのトピックの一例です。その他、当日質疑応答も設けますので、御質問のある方はご遠慮なくお申し出下さい。事前にお寄せ下さっても結構です。
- *当セミナーは無料です。(通訳付)
- *当日会場にて検定関連教材の販売を致します。是非この機会をご利用下さいませ。

●過去3ヶ年の試験官●

- 1997秋 クララ・テイラー女史
- 1998春 シルヴィア・テイト女史
- 1998秋 ティモシー・アーノルド氏
- 1999春 マーガレット・コーリング女史
- 1999秋 アイリーン・フィールド女史
- 2000春 リチャード・マーカム氏
- 2000秋 ヴィヴィアン・レアード女史
- 2001春 スティーヴン・コリソン氏

Report これまでのセミナー&実技試験

◆2001年春季 実技試験&セミナー

講師・試験官Mrs. Vivien Laird
5月13日(日)、東京<東音>ホールにて英国王立音楽検定の実技試験が行われた。ピアノを中心に声楽・ハープなど異種楽器の受験者も含めて計24名。試験官はMrs. Vivien Laird、自身もイギリスでピアノ指導30年、同検定にも常に生徒を出している。また同検定の試験官を20年務めるベテランだ。同試験の特徴は、課題曲の演奏のみでなく、音楽理論の理解・曲に関する知識、また口頭試問ではコミュニケーション能力を問われるなど、より総合的な成長のめやすとなる点である。これに先立つ5月11日(金)には、試験官によるセミナーが行われた。なじみのない口頭試問(Aural Test)を全グレード別に解説するほか、個別の課題曲も演奏・CDを交えて解説された。

◆2000年秋季 実技試験

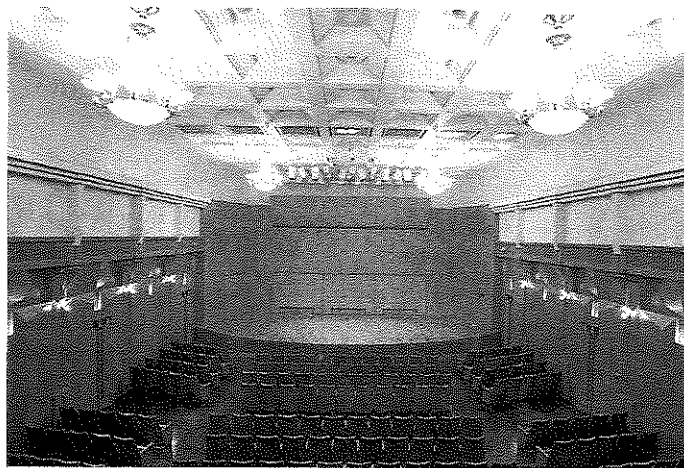
講師・試験官Dr. Stephen John Collisson
11月18日(土)~19日(日)、<東音>ホールにて英国王立音楽検定の実技試験が行われた。受験者はピアノのほか声楽・ヴァイオリンも含めて計31名。今回の試験官はDr. Stephen John Collisson、ピアニストとしてソロリサイタル・伴奏・室内楽で活躍するほか、ピアノ教師・チェリストとしてもキャリアを積まれている。受験者はスケール・アルペジオ等試験官の指定する調・形式でつぎつぎと演奏するほか、初見テスト、課題曲演奏など幅広い課題をこなした。音楽の総合的な理解力を育てるには、非常にすぐれた検定である。

●お問い合わせ先

社団法人全日本ピアノ指導者協会 英国王立音楽検定日本代表 担当:池田
〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1 Tel 03-3944-1583 Fax 03-3944-2130
E-mail: ikeda@piano.or.jp URL <http://www.piano.or.jp/abrsn>

第25回ピティナ・ピアノコンペティション
 全国決勝大会入賞者による演奏会
 2001 PTNA Piano Competition

第25回ピティナ・ピアノコンペティション王子賞 受賞披露演奏会出演者決定

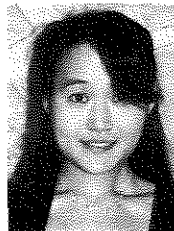


2002年 **1月13日** (日)
王子ホール (東京・銀座)

14:00 開演

入場料未定 協賛: 王子ホール

出演者は、ご本人の都合により変更する可能性があります。



特級 銀賞
泊 真美子 (とまりまみこ)

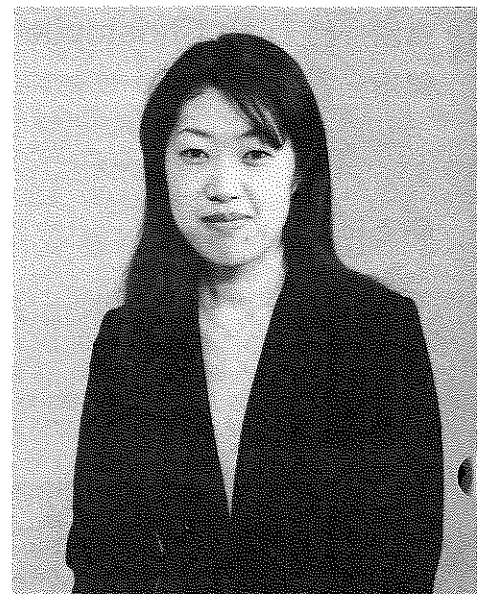
1992年、1995年全国学生音楽コンクール大阪大会小学校、および中学校の部第1位。1994年、1995年日本ピアノ教育連盟ピアノオーディション入賞者演奏会出演。1997年ピティナ・ピアノコンペティションG級命題賞受賞。あわせて審査員特別賞、東京都知事賞、ヒノキ小、ジョルジョアルマーニ小受賞。2000年摂津音楽祭リトルカメリアコンクール金賞、大阪府知事賞、聴衆賞賞受賞。2001年中放好学生ピアノコンクール大学生の部第1位、上海市長賞受賞。大阪府豊中市生まれ。5才よりピアノを始める。現在、東京芸術大学音楽学部ピアノ科3年生に在学中。橋本雄和、岡田敦子各氏に師事。



プログラム決定!
 (詳細は当協会HPをご参照下さい。)
<http://www.piano.or.jp/compe/compe05.html>

G級 銀賞
大神 香澄 (おおがかすみ)

千葉県印西市在住。東京音楽大学2年生。現在、武田真理、佐々木恵子各氏に師事。



特級 金賞
佐藤 展子 (さとうのりこ)

プロフィール
 1993、95年：全日本学生音楽コンクール高校の部入選。1996年：東京音楽大学付属高校卒業。同大学に入学。在学中、特待生奨学金を得る。1997年：モーツァルトウム音楽院サマーアカデミーに奨学金を得て、参加。A.セシンスキ氏に師事。東京音楽大学90周年記念演奏会に出演。1998年：影の国埼玉新進音楽家オーディションに合格。2000年：同大学卒業。NTTDoCoMoより奨学金を得る。卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。同大学大学院に入学。同大学シンフォニーオーケストラと共演。9月より英国王立音楽院奨学金を得て、短期留学。C.ベンソン氏に師事。これまでに加藤一郎、加藤恭子、神野明、L.ホカンソン各氏に、現在、橋本三恵子、倉沢仁子、室内楽を土田英介、沼尻竜典各氏に師事。

社団法人
全日本ピアノ指導者協会
 〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1
 TEL: 03-3944-1583 FAX: 03-3944-8838
<http://www.piano.or.jp>

日本フィル・サンデーコンサート ソリスト決定!

速報

特級グランプリ
 日本フィル賞
 受賞

2002年 **4月7日** (日)

開場 13:30 開演 14:00

会場: **東京芸術劇場**

指揮: 沼尻竜典

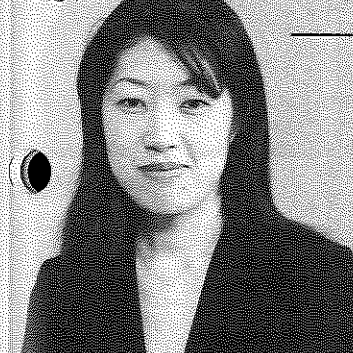
曲目: ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調「皇帝」

チケット: 1月発売開始予定

写真: 2001年4月22日(日)東京芸術劇場にて行われた日本フィル・サンデーコンサートの模様。ソリストは、第24回グランプリを受賞した佐藤展子さん。

沼尻竜典氏と協演!

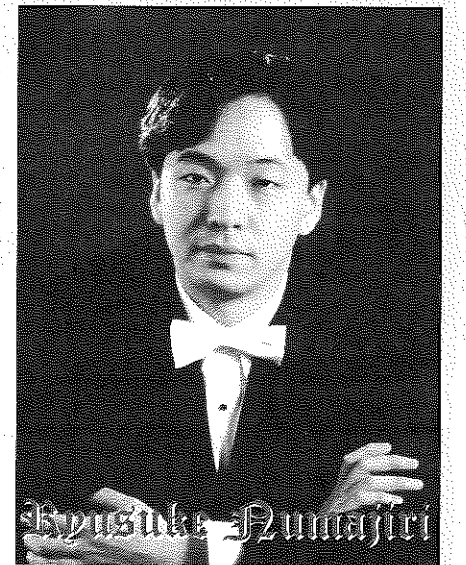
Teruko Satou



佐藤 展子

プロフィール

1993、95年：全日本学生音楽コンクール高校の部入選。1996年：東京音楽大学付属高校卒業。同大学に入学。在学中、特待生奨学金を得る。1997年：モーツァルトウム音楽院サマーアカデミーに奨学金を得て、参加。A.セシンスキ氏に師事。東京音楽大学90周年記念演奏会に出演。1998年：影の国埼玉新進音楽家オーディションに合格。2000年：同大学卒業。NTTDoCoMoより奨学金を得る。卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。同大学大学院に入学。同大学シンフォニーオーケストラと共演。9月より英国王立音楽院奨学金を得て、短期留学。C.ベンソン氏に師事。これまでに加藤一郎、加藤恭子、神野明、L.ホカンソン各氏に、現在、橋本三恵子、倉沢仁子、室内楽を土田英介、沼尻竜典各氏に師事。



指揮者: 沼尻竜典

詳細はピティナホームページへ
<http://www.piano.or.jp>

チケット申込 FAX: 03-3944-8838まで

お名前(フリガナ):

ご住所:

電話番号:

FAX番号:

E-mail:

ご希望のチケットの種類と枚数: () 席 () 枚 / () 席 () 枚 / () 席 () 枚

入賞者記念コンサート
 日時: 第1夜 2002年 **3月27日** (水) 15:00-19:00
 第2夜 **28日** (木) 17:00-19:00
 第3夜 **29日** (金) 17:00-19:00 (予定)
 会場: **東京音楽大学A館ホール**
 (東京・JRまたは地下鉄池袋駅徒歩15分)
 入場料未定
 出演: 第25回ピティナ・ピアノコンペティションのソロ部門・デュオ部門・コンチェルト部門上位入賞者
 演奏曲目: 10月初旬発表
 お問い合わせ: ピティナ入賞者記念コンサート係
 担当: 小里 te-mail/kozato@piano.or.jp

2001 PTNA PIANO COMPETITION WINNERS' CONCERT
 第25回ピティナ・ピアノコンペティション
入賞者記念コンサート

2002年3月27日(水)～29日(金) 東京音楽大学A館ホール

入場料 学生・会員3000円/一般4000円

(ピティナワールドフェスティバルの一環として開催されます)

演奏曲目は10月下旬発表予定

主催全日本ピアノ指導者協会

お問い合わせ 入賞者記念コンサート係 小里 kozato@piano.or.jp

ピティナ支部主催
入賞者記念コンサート

- 2002年3月17日
アトリオン音楽ホール
秋田支部
018-864-1023
- 2002年2月24日 14:00
サラマンカホール
岐阜支部
058-232-8931
- 2002年3月21日 11:00
活水大学 新戸町ホール
長崎支部
095-821-2326
- 2002年3月20日 13:00
群馬県民会館
群馬県支部
027-234-1534
- 2002年1月14日 10:00
アートピアホール
名古屋支部
052-751-6161
- 2002年3月21日 10:30
熊本市総合女性センターメインホール
熊本支部
096-365-4131
- 2002年1月20日
ば・る・るプラザ千葉
千葉支部
043-277-4081
- 2002年2月を予定
未定
豊橋支部
0532-54-5555
- 2002年3月10日
火の君総合文化センター
熊本南支部
0964-22-3156
- 2002年3月を予定
越谷市中央市民会館
越谷連絡所
048-964-8411
- 2002年1月27日
京都コンサートホール(小)
京都支部
075-231-4127
- 2002年2月10日 14:00
宮崎県門川町総合文化会館大ホール
2002年2月17日 12:30
宮崎県立芸術劇場コンサートホール
宮崎支部
0985-24-4141
- 2002年3月を予定
青梅市民会館
青梅支部
042-323-1252
- 2001年12月2日 14:00
ザ・フェニックスホール
千里支部
06-6831-6776
- 2001年12月24日午後予定
小杉町文化ホール ラポール
高岡支部
0766-21-1027
- 2001年12月24日 14:00
川西みつなかホール
宝塚支部
0727-94-1553
- 2002年3月14日
ハーモニーホール(小)
福井支部
0776-24-1773
- 2002年1月20日 12:30
高知県立県民文化ホール オレンジ
高知県支部
088-831-7671
- 2001年12月16日
諏訪市駅前市民会館
諏訪支部
0266-58-5345
- 2002年2月11日 11:00
北九州市立 響 ホール
北九州支部
093-561-4007
- 2001年12月2日
掛川市美感ホール
中東遠掛川連絡所
0537-23-0245
- 2001年12月9日 11:00AM
オークホール
田川支部
0947-82-0550

▽A2級



村上史昂



山下紗也華



佐藤元洋



関野静音



中村里香



本多真子



緒方 權



尾崎風磨

▽A1級



佐藤元洋



関野静音



中村里香



本多真子



緒方 權



尾崎風磨

▽B級



緒方 權



尾崎風磨

▽C級



高倉優理子



松鶴 更



山本絢香



松尾 明



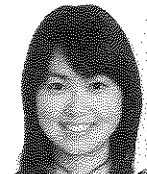
小塩真愛



原 智実



天野 豪



池田小夜

▽D級



原 智実



天野 豪



池田小夜

▽E級



池田小夜

▽F級



小林侑奈



多田真理



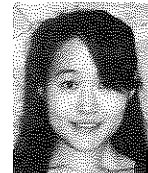
森田英里奈



大神香澄



佐藤展子



泊真美子



嘉村えりか



嘉村ゆりえ

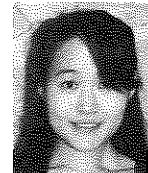
▽G級



大神香澄



佐藤展子



泊真美子



嘉村えりか

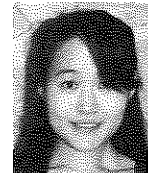


嘉村ゆりえ

▽特級



佐藤展子



泊真美子



嘉村えりか



嘉村ゆりえ

▽デュオ初級B



服部桂奈



服部祐佳



林 愛美

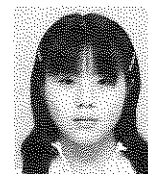


林 萌美

▽デュオ中級



黒木敦子



神津かおり

▽デュオ上級



黒木敦子



加藤真一郎

▽デュオ特級



黒木敦子



加藤真一郎

*デュオ初級Aの嘉村ゆりえさんはソロA1級にも出演されます。

英国王立音楽大学留学

ただ今入学案内
請求受付中!

3つのコースで
2002年度留学生募集!

1年短期 留学コース

Asia Pacific Programme 2002年4月~2003年3月
大学正規入学の基礎作りに。

1. イギリスの恵まれた音楽環境の中で音楽が学べます。
2. 豊富なプログラムを用意しております。
3. 学部生と同じ大学設備(寮・図書館等)を利用可。
4. 英国王立音大正規入学の基礎作りができます。

- 募集人員: 15名
- 専攻: ピアノ・声楽・弦・管・打楽器等。
- 応募資格: 高等学校卒業者及び卒業見込みの者

学部 コース

Bachelor of Music 2002年4月~2006年3月
演奏家のプロフェッショナルに。

演奏家のプロフェッショナルを育成する4年間の専門コース。コースを修め、年次試験と卒業リサイタルをこなした学生には、王立音楽大学学士号BMus(RCM)が与えられます。募集対象は、高等学校卒業者及び卒業見込み者です。

大学院 コース

Post Graduate Diploma 2002年4月~2003年3月
さらに高度な技術と知識を求めて。

実技重視で構成された授業を通じて、演奏法・作曲法及び関連分野を学び、技術・知識のさらなる充実化を図ります。修了者には学位(PGDip)が授与されます。募集対象は音楽大学在学・卒業者です。

Royal College of Music



寮の様子 (College Hall)

卒業生には・

ジュリアン・ブリーム、ベンジャミン・ブリテン、サー・コリン・デイビス、ジェイムス・ゴルウェイ、サー・アレクサンダー・ギブソン、サー・チャールズ・グローブス、グスタフ・ホルスト、ハーバート・ハウエルズ、デーム・ギネス・ジョーンズ、ジョン・リル、サー・ネビル・マリナー、サー・ピーター・ピアース、デーム・ジョン・サザランド、サー・マイケル・ティペット、サー・デイビッド・ウィルコックス、アンドリュー・ロイド・ウェーバー、ラルフ・ボーン、ウィリアムズ等著名な音楽家を多数

Royal College of Music

□入学案内請求方法

入学案内・願書は100円切手10枚同封の上、下記宛てにご請求下さい。(2001年5月発行予定)
また参考資料は随時送付いたします。300円分切手を送付の上、ご請求下さい。

□お問い合わせ先

社団法人 全日本ピアノ指導者協会
RCM留学担当
〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1
TEL:03-3944-1583 FAX:03-3944-8838
URL <http://www.piano.or.jp>

■ 出願期間

2001年12月15日~2002年1月15日

■ 試験日

2002年2月3日(日) 予定

■ 試験内容

- ・演奏実技: 自由選曲2曲
- ・聴音・初見
- ・面接: 英語による面接(通訳可)

■ 試験官

ジャネット・リターマンRCM学長

■ 合格発表 2002年2月下旬予定

ピティナのすべてがわかる5日間!

2002年 ピティナ・ワールドフェスティバル

チケット予約
受付中

<日程> 2002年3月27日(水)~3月31日(日) /27日は午後から

<会場> 東京音楽大学内の各施設/サンシャインシティプリンスホテル

<5日間の主な企画内容>

- 第25回ピティナ・ピアノコンペティション入賞者記念コンサート(3月27日~29日の3夜にわたり開催)
・海外コンクール(Jr.ジューナ・Jr.ルーヴィンシュタイン・Jr.スタインウェイ)入賞者のゲスト出演あり。
- ピティナ・ピアノ指導セミナー(3月28日・29日)
・初級: ジェーン・バスティン先生、ポール・ボライ先生、ヴァレリア・セルヴァンスキー先生、佐藤敏直先生
・中級: ジャック・ルヴィエ先生、ロナルド・カヴァリエ先生、三善晃先生
- 学生・生徒のための合同就職説明会(3月28日・29日) ● 学生・生徒のための合同留学セミナー(3月28日)
- ピティナ師弟コンサート(3月30日)
- ピティナ・トークコンサート(3月30日)
- メイン・コンベンション「ピティナ国際会議」(3月30日)
・ジャック・ルヴィエ(フランス)、ジャネット・リターマン(英国)、ポール・ボライ(米国)、
・ジェーン・バスティン(米国)、挿本三恵子(日本) /以上10月15日現在の募集予定者
- フェアウェル・パーティー(3月30日)
- ピティナ・ピアノライブ演奏会(3月31日)
- 音楽療法講座(3月31日)
- ピアノ指導者のためのコンピューター活用講座(3月28日・予定)
- ピアノ指導者のための音楽鑑賞講座(3月31日)
- コンペティション審査員長連絡会(3月28日) ● ステップアップバイザー連絡会(3月29日) ● 全国支部連絡会(3月31日)



受 講 料

【5日間通し券】~優先割引~ 会員	18,000円	~2002年1月31日
【5日間通し券】~優先割引~ 一般	21,000円	~2002年1月31日
【5日間通し券】~前売~ 会員	21,000円	2002年2月1日~3月15日
【5日間通し券】~前売~ 一般	24,000円	2002年2月1日~3月15日
【1日券】 会員 ~前売・当日 共通~	8,000円	~2002年1月31日
【1日券】 一般 ~前売・当日 共通~	10,000円	~2002年1月31日
【1回券】 会員 ~前売・当日 共通~	3,000円	~当日
【1回券】 一般 ~前売・当日 共通~	4,000円	~当日
【パーティー券】~前売~	5,000円	2001年9月1日~2002年3月15日
【パーティー券】~当日~	8,000円	当日

チケットお申し込みは、以下にご希望枚数・お名前・ご住所等をご記入の上、ピティナ本部の各委員にお渡しいただくか、ピティナ本部までFAX(03-3944-8838)下さい。後日、フェスティバルの概要とチケット代金振込に関するご案内をお送り致します。

内容	販売価格(円)	ご希望枚数	申込受付期間
【5日間通し券】~優先割引~ 会員	18,000		~2002年1月31日
【5日間通し券】~優先割引~ 一般	21,000		~2002年1月31日
【5日間通し券】~前売~ 会員	21,000		2002年2月1日~3月15日
【5日間通し券】~前売~ 一般	24,000		2002年2月1日~3月15日
【1日券】 会員 ~前売・当日 共通~	8,000		~2002年1月31日
【1日券】 一般 ~前売・当日 共通~	10,000		~2002年1月31日
【1回券】 会員 ~前売・当日 共通~	3,000		~当日
【1回券】 一般 ~前売・当日 共通~	4,000		~当日
【パーティー券】~前売~	5,000	~2002年3月15日(本部のみ取り扱い)
【パーティー券】~当日~	8,000	当日(本部のみ取り扱い)

お名前: _____ 会員(会員番号) _____) ・ 一般 _____ E-mail: _____

ご住所: 〒 _____

TEL (_____) _____ FAX (_____) _____

ピティナ本部担当委員会名: _____ 担当委員名: _____

受付日: _____ 月 _____ 日

社団法人全日本ピアノ指導者協会 〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1 TEL 03-3944-1583 FAX 03-3944-8838

PTNA NEWS

2001.11~
2002.1

ピティナ本部ニュース

演奏研究委員会

ショパン・スケルツォ徹底研究 シリーズ開催される

コンペティション表彰式翌日の8月29日(水)、海外招聘審査員の一人として来日したダン・シャオイー(但昭義)シンセン芸術学校教授による、ショパン・スケルツォ全4曲公開レッスンが行われた。

2000年度ショパン国際コンクールで1位ユンディ・リーを輩出した驚異の指導法が中国国外で初めて公開されるとあって、当日会場は大勢の立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。受講生は過去のコンペティション入賞者4名。

豊かな手振りをつけながら細かに指導、生徒の演奏が徐々に表情のあるものになっていく様が見受けられ、また一人一人の生徒の個性を重んじる先生のお人柄がじかに伝わる内容で、聴衆は熱心に聞き入っていた。

指導者育成委員会

ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.16が開催

東京大塚の東邦音楽大学882教室においてピティナ・ピアノ指導セミナーvol.16が開催された。

第1講座は國谷尊之先生による、「指導における『言葉』の役割」。ご自分の体験も振り返りながら、音楽を作っていく上で言葉がどのような役目を担っているのか、口調や雰囲気の大切さも含めてユーモアたっぷりにお話頂いた。

第2講座は菊池質子(ただこ)先生で、「感覚的な耳を育てるために」というテーマで、音楽作りをする上で必要なリズム感、リズム感を身に付けた場合とそうでない場合、どのように音楽に影響してくるのか、元気に歌うことは単に声を張り上げることなのか、など各方面からのアプローチが試みられた。

第3講座の樹原涼子先生では、「初歩のレッスンで伝えるべきこと」と題して、二段階導入法、カウンセリングレッスンなどでおなじみの樹原先生ミュージックデータもまじえての楽しいお話、最後はピアニストの小原孝さんの飛び入りで弾奏も披露して頂いた。

第4講座の丸山京子先生は「教材選びのヒントはどこに?」多様な教材の選択のポイント、また創作指導の可能性についても、ご自身の生徒さんのビデオを交えてご紹介頂いた。

新教育法開発委員会

室内楽サマースクールにピティナ から参加

●オープニングコンサート

8月6日より4日間、志賀高原にて日本弦楽指導者協会主催「JASTA SUMMER MUSIC SCHOOL」が開催された。ピティナからも室内楽指導講師・そしてオープニングコンサートピアニストとして金子恵先生(正会員・演奏研究委員)が派遣され、見事な演奏を披露した。演奏を聴いた弦楽器の受講生から、「(金子先生の演奏を聴いて)ピアノもいい楽器だなと初めて思いました」と声をかけられる一幕も。これを機会に弦楽器界との交流が望まれる。

曲目: シューベルト ピアノ五重奏 「ます」 他
出演者: ヴァイオリン 篠崎功子/ピオラ 磯良男/チェロ 勝田聡一(元日本フィル首席チェロ奏者、日本音楽コン審査員)/コントラバス 吉川英幸(東京フィル首席コントラバス奏者)/ピアノ 金子恵

●室内楽レッスン

ピティナからの室内楽受講生は奥村恵三、余越真樹(いずれも会員)の2名。曲は二人ともシューベルトのピアノ三重奏第1番変ロ短調という難曲。同じく受講生のヴァイオリンの生徒さん、そしてチェロパートとして参加して下さった講師の青嶋直樹先生とともに演奏。詳細は同誌連載「アンサンブルの魅力」をご覧ください。

コンクール事業担当者連絡会

コンチェルト東京前期予選 中止のお知らせ

1月23日(金)~25日(日)に予定されておりました、ピティナ・ピアノコンペティション・コンチェルト部門・東京前期地区予選は、諸般の事情により、開催中止とさせていただきます。この日に向けてご準備を進めていらっしゃいました参加者のみなさまはもとより、当部門にお力添えいただいておりますご関係者にも大変ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご了承賜りたく、お願い申し上げます。

なお、大阪・名古屋・東京後期・福岡、の各地区予選につきましては、予定通り開催致しますので、ふるってのご参加を心よりお待ちしております。

新教育法開発委員会

アンサンブル研修会聴講者募集

より総合的な音楽力育成を目的として、2001年度よりアンサンブルピアノ研修会が開催される。また、コンサート出演オーディションも開催予定。

■内容: プロのヴァイオリニスト・チェリストとピアノ三重奏曲を演奏。講師と弦奏者から2日間指導を受けられる。

■コース選択: 課題曲、日程、講師などを参照(<http://www.piano.or.jp/ensemble/index.html>)して受講する研修会を選択(A・B両方の受講も可)

・研修会A<2日間コース> 定員12名

2001年11月10日(土)~11月11日(日)

※申込締切 10/15(月)

会場: <東音>ホール(東京・巣鴨)

講師: 大石潤

共演&アドバイス: 宮内道子(Vn)・菊池知也(Vc)

・研修会B<2日間コース> 定員15名

1回目: 2001年12月15日(土)~16日(日) ※12/15~16は級によりいずれか1日

2回目: 2002年1月6日(日)

※申込締切 11/19(月)

講師: 金子恵+江崎光世

共演&アドバイス: 田辺秀樹(Vn)・諸岡由美子(Vc)

なお、聴講をご希望の場合はお申込みが必要。

■お問合せ先: 「アンサンブル研修会」係 池田

TEL 03-3944-1583 ikeda@piano.or.jp

国際委員会

ジーナ・バックアウター国際コン クール派遣者選考会の見学者募集

来年6月に米・ユタ州ソルトレイクシティにて開催予定のジーナ・バックアウター国際コンクール。その派遣者選考会が11月25日東京にて開催される。ご見学されてみてはいかがでしょうか。

■日時: 2001年11月25日(日)

■会場: 東京音楽大学本館ホール

■入場料: 会員1,000円 一般1,500円

■お問合せ先: 「ジーナ派遣者選考会」係 菅野

TEL 03-3944-1583 sugano@piano.or.jp

授賞企画委員会

パリ短期留学賞 渡仏期間決まる

今年度ピアノコンペティションにて、F・G級最高位にパリ短期留学賞が授与された。今回の受賞者は、多田真理さん(F級金賞・高2)、大神香澄さん(G級銀賞・大2)の2名。今年12月14日~21日の1週間パリに滞在し、サロンコンサート、個人レッスン(ジャン・マリー=コテ先生・パリ音楽院教授)、パリ市内散策他、日常の買い物、料理にいたるまで、パリ生活を体験しながら音楽を勉強する予定。

なお同賞のご提案者であり、今回パリでホストを務めて下さるのは、当協会正会員の宇宿規子先生。2人のお子様もピアノ、チェロを専攻する音楽一家である。

二人がどんな成果を上げてくるか期待したい。

コンクール事業担当者連絡会

2001年度秋季・冬季・春季 演奏検定のご案内

■実施地区 (日程は変更になることもあります)

●千葉地区(2506)

10/28(日) [9/28(金)締切]

※ステップと同時開催

多田屋ミュージックプラザ稲毛駅前店ホール

●札幌地区(1101)

11/10(土) 11日(日) [10/10(水)締切]

ターミナルプラザことに パトス

●大阪春季地区(4401)

2002/2/17(日) [1/17(木)締切]

盲人情報文化センター(日本ライトハウス)

●仙台地区(1501)

2002/2/11(月) [1/11(金)締切]

三立一番町音楽センター

●小金井冬季地区(2701)

2002/1/20(日) [12/20(木)締切]

宮地楽器小金井ホール

※つくば春季も開催の予定ですが、こちらは、日程等未定です。

※以上の地区以外にも開催予定地区が増える可能性があります。お問合せは直接支部・連絡所へおたずね下さい。

■お問合せ: 「演奏検定」係 飛田

TEL 03-3944-1583 tobita@piano.or.jp

PTNA NEWS

2001.11-
2002.1

ピティナ支部ニュース

埼玉中央支部

國谷尊之先生によるピティナ・トークコンサート

さいたま市民会館浦和ホールにて、ピアニストでピティナ演奏研究委員を務める國谷尊之先生による、大人の生徒のためのトークコンサートが行われた。曲目はショパン ワルツ第1番「華麗なる大円舞曲」作品18、「革命のエチュード」作品10-12、リスト「愛の夢第3番」「ラ・カンパネラ」など憧れの名曲揃い。ピアノへの思いを深める機会となったようだ。

「ピアニストの何か近寄りたがたい雰囲気とは異なる、親しみのある暖かい感じに魅了されました。アツという間の一時でした。おそまきながら、亀の歩みで楽しみながら、ピアノを続けていきたいと、強く感じました。」(橋本美智子さん)「東欧に旅した時、ライブツィヒに寄りメンデルスゾーンについていろいろ調べましたので、先生のお話本当に楽しく、またピアノもすばらしく最高でした。ピアノだけでなく作曲した方たちのお話などお聞きしたいと思います」(矢田部トヨ子さん)



名古屋支部

第3回「あしながおじさんジュニアコンサート」開催

第3回「あしながおじさんジュニアコンサート」が5月19日(土)名古屋市中東文化小劇場で開催されました。このコンサートは国際コンクール、留学等を予定されている22歳までの方々で名古屋支部関係のピティナ・ピアノコンペティション地区予選・本選に出場され、公募で選出された方を支援するコンサートです。今回は野牧愛さん(中3)、丹羽祥子さん(中3)。すでに丹羽さんは今年4月フランス(アラス)のユーロレジオン国際ピアノコンクールで第1位なしの第2位を受賞されました。野牧さんは米Jr.ジーナ・バックアウワー国際コンクールに日本代表として渡米。お二人とも中学生とは思えない演奏とステージマナーで、会場の同世代の人たちに一つの目標を与えたようです。野牧さん「3曲もの大曲を一度に演奏することの難しさ、この経験を生かしアメリカのコンクールで悔いのない演奏をしたい」。丹羽さん「長時間弾くための集中力の大切さを感じた」。今後の研鑽を楽しみにするとともに、ご来聴者のみなさまに厚く御礼を申し上げます。(文化事業部副部長 大林裕子先生)

沖縄支部

沖縄にて真夏のレクチャーコンサート～保坂千里先生を迎えて

8月28日沖縄支部では、保坂千里先生をお招きして沖縄市小劇場あしびなーにて「真夏のレクチャーコンサート～南の島からシニアピアノ発信!～」を開催。

第一部では、指導者向けにピアノステップ曲集の指導法・シニアピアノ指導法の秘訣をテーマにレクチャー、第二部では指導者とシニアピアノ学習者向けにレクチャーコンサート。「曲あてクイズ」では、保坂先生からプレゼントがあるなど和やかな雰囲気の中で、充実した講座となった。講座終了後のシニア向けワンポイントレッスンも実施。(宮城佳代子先生)



右) 講師の保坂千里先生の周りに集まる皆さん。このコンサートのニュースは、8.25発行の沖縄タイムスにも掲載された。

演奏研究委員会

2002年度十代の演奏家シリーズ 出演者決定

若手ピアニストの躍進を目的に、毎年開催されている十代の演奏家シリーズ。次回2002年10月開催予定の第13回には、ピティナ・ピアノコンペティションで数多くの入賞歴を持ち、現在桐朋女子高附属音楽科(共学)1年に在学中の関本昌平さんの出演が決定した。



- 日程: 2002年10月中旬予定
- 会場: 王子ホール(東京 銀座)
- 出演者: 関本昌平
- プログラム: 詳細未定
- お問合せ: 「十代の演奏家シリーズ」係 正木
- TEL.03-3944-1583 masaki@piano.or.jp

授賞企画委員会

2001年度特級金賞グランプリ 日本フィル共演コンサートご案内

ピティナ・ピアノコンペティションでは特級金賞グランプリ受賞者に「日本フィル賞」が贈られる。今年のグランプリ受賞者は、現在東京音楽大学研究科2年に在学中の佐藤展子さん。翌年の日本フィル「サンデーコンサート」にて、ピアノコンチェルトを披露することが決定した。

- 日時: 2002年4月7日(日)
- 開場 13:30 開演 14:00 (16:00終演予定)
- 会場: 東京芸術劇場(JR・地下鉄池袋駅西口より徒歩3分)
- 入場料: 1月発売開始予定(ピティナ会員は10%割引)
- 指揮: 沼尻竜典
- オーケストラ: 日本フィルハーモニー交響楽団
- プログラム: ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第5番「皇帝」(予定)
- ソリスト: 佐藤展子(2001年度特級金賞グランプリ)
- お問合せ: 「日本フィルコンサート」係 霜鳥
- TEL 03-3944-1583 shimo@piano.or.jp



授賞企画委員会

王子賞受賞者記念演奏会のご案内

昨年度より王子ホールのご協賛をいただき、G級・特級の上位入賞者による演奏会を開催している。今年は特級より2名、G級より1名、合計3名でのジョイントリサイタルを開催予定。

- 日時: 2001年1月13日(日) 14:00開演
- 会場: 王子ホール(銀座駅すぐ)
- 出演者: 佐藤展子(特級グランプリ)・泊真美子(特級銀賞)・大神香澄(G級銀賞)
- プログラム: 決定次第、当協会HPにて発表 <http://www.piano.or.jp>
- チケット: 会員・学生 2500円 一般3000円(前売り券発売 11月上旬予定)
- お問合せ: 「王子賞記念演奏会」係 小里
- TEL 03-3944-1583 kozato@piano.or.jp

ステップ実行委員会

2001年度ピティナ指導者賞ポイント規定が決定

一人の生徒をどれだけ継続的に指導されているかということに対し、年度末に規定を満たした先生には、ピティナ指導者賞が授与される。今年度指導者賞規定は、110ポイント以上の先生が受賞対象。

コンペティション(予選のみ)・ステップ・演奏検定に参加された生徒の1997年度からの累計が、それぞれの生徒のポイントになる。指導者ポイントの算出方法は、2001年度にコンペ・ステップ・演奏検定に参加された各生徒のポイント合計。なお2001年度に参加されていない生徒のポイントは、加算されない。

紀要編集委員会

紀要論文・研究レポート締切迫る

当協会では、11月末まで、第4号紀要論文及び研究レポートを募集している。今年度より募集開始した研究レポートは、必ずしも学術的な枠組みにとらわれない、自由形式の研究を促進することが主眼となっている。ピアノ音楽やその指導法に関して、日常感じたり研究していることを発表する場として活用していただきたい。発表媒体は紀要と同じインターネット上。応募期間は11月30日まで。

※研究レポート採用者のうち、ピティナの会員の方には10点の指導者賞ポイントが付与されます。

- お問合せ: 「紀要・研究レポート」係 實方
- TEL 03-3944-1583 jitsukata@piano.or.jp

PTNA NEWS

ピティナ会員・その他のニュース

大崎結真さん パリ音楽院大学院に合格!

イモラ音楽院留学中の大崎結真さん（95年G級最高位・2000年度ルービンシュタイン国際コンクール第5位入賞）が、この度パリ音楽院大学院に合格した。今回の合格者は5名で、名実ともに狭き門だ。大崎さんは日本でもお馴染みの、ジャック・ルヴィエ教授に師事する予定。

また今年5月には、現在在籍中のイモラ音楽院にて、マウリツィオ・ポリーニ氏より奨学金4百万リラ（約25万円）を得た。受賞者は大崎さんを含め4名。授賞式及び演奏会は同音楽院内テアトロにて行われた。大崎さんは「大変光栄です。」と感想口にした。



戸沢睦子先生が実年ピアノ指導の現場を語る

「ローランドMusic Education Conference 2001」

10月10日(水) 飯田橋のホテルエドモントで開催されたローランドMusic Education Conference2001（主催：財団法人 ローランド芸術文化振興財団）にて、戸沢睦子先生（ピティナ評議員・ステップ実行委員長、ピアノライフ委員）が講演。「『実年ピアノ教室』現場からの報告」と題して、自身が代表を務めるピティナ埼玉中央支部での実年ピアノ教室運営の体験を元に、実年の生徒数、継続年数などのデータ分析に始まり、受講生募集の具体的ノウハウ、事務局運営の実際から訪問演奏などの社会参加事業まで、目指す「実年ピアノ」の全体像を語った。

同Conferenceでは他に、樹原涼子、山口綾規、井戸川忠臣、橋ゆり、鈴木潤、田代ユリ、斉藤瑛美、桃井聖司の各氏が講師を務めた。

萩原麻未さん 伊フィナーレ・リグレ市と広島市を結ぶ

2000年度フィナーレ・リグレ国際コンクールに優勝した萩原麻未さん（98年度ピティナ・ピアノコンペティションA1級金賞受賞）が、今年9月優勝者記念コンサートのため再びイタリアへ赴き、聴衆の前で熱演。聴衆から拍手喝采を浴びた。またこの時広島市長より文化交流と平和メッセージの文書を預かり、フィナーレ・リグレ市長に手渡したという萩原さん。先方からは広島市長と萩原さんに記念の盾を頂き、両都市の文化交流使節の役割を果たした。

これに先立ち、萩原さんは今年7月地元広島で、ソロリサイトを開催。1200名収容のホールを満員にし、地元広報誌にも大きく取り上げられた。



左上) 広島市長からフィナーレ・リグレ市長へのメッセージ
左下) 広島市の文化情報誌に大きく掲載される
右) フィナーレ・リグレ市長からの記念の盾を広島市長に手渡す萩原さん。

ピティナっ子の片田愛里さん 二つのピアノコンクールで優勝

2000年度ピティナ・ピアノコンペティションB級金賞の片田愛里さんが、今年8月下旬に行われた第9回ヤングアーティストピアノコンクールジュニア部門（Cグループ）本選にて金賞（最優秀賞）を受賞した。

また片田さんは今年9月末に開催された第2回大阪国際音楽コンクール本選小学校の部において、第1位を受賞した。今夏、連続優勝という快挙を遂げた片田さんは、現在まだ小学校3年生。今後の活躍が大いに期待される。



ピティナっ子則行みおさん かながわ音楽コンクールトップコンサートにてコンチェルト披露

かながわ音楽コンクールのユースピアノ部門で優勝した則行みおさん（00年度コンペデュオ中級優秀賞）は、9月29日に入賞者を集めて行われたトップコンサートに出演、ハイドンのピアノ協奏曲二長調を神奈川フィルと共演した。コンチェルトは6回目という則行さんは、堂々とした演奏を披露。新聞でもその才能を絶賛された。



東邦音楽大学 ウィーン研修所 「東邦ウィーンアカデミー」移転新設のご案内

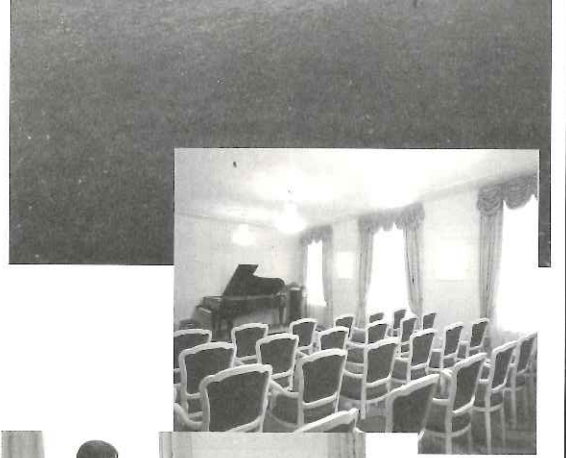
クラシックの伝統と歴史に触れながら、音楽を学ぶことを目的とした海外研修所「東邦ウィーンアカデミー」。平成3年に開設されて以来、多くの学生がここで研鑽を積んできた。研修期間は15日間、専攻実技のレッスン他、音楽鑑賞や音楽史跡見学、オーストリア事情研究、ザルツブルグ研修等、充実したプログラムが組まれている。教授陣はウィーンフィルの著名メンバーを始め、国立ウィーン音楽大学教授など、第一線で活躍する音楽家が揃えられている。

今年6月、シェーンブルン宮殿に隣接したエリアに、庭付きの研修所が移転新設された。小ホール兼レッスン室、図書室、キッチン、宿泊室等と、設備が大変行き届いている。

卒業生も受講できるというこのアカデミー、国際感覚を備えた音楽家を多く育てて頂きたい。お問合せは下記へ。（詳細は本誌p71をご参照下さい）

●東邦音楽大学 ウィーン研修所
「東邦ウィーンアカデミー」
Maxingstr16. A-1130, Wien, Austria
87-90430

●東邦音楽大学
〒350-0015 埼玉県川越市今泉84
Tel:049-235-2157





献本・CD のご紹介

ご献本どうもありがとうございました。



【楽譜】「Anna Magdalena Bach」種田直之編 (カワイ出版) Schott/Universal Edition 献呈：種田 直之



【楽譜】「フランス・パロック舞曲集〜ピアノで弾くフランス宮廷音楽〜」ローラン・テシュネ・結城八千代 (音楽之友社) 16〜18世紀にフランスで、宮廷等で踊られていた舞曲集。25種類、44曲の舞曲を収録。献呈：音楽之友社



【楽譜】「プレイアデス舞曲集〜レグルス回路 ピアノ小品集〜」吉松 隆 (音楽之友社) 吉松氏のピアノ作品の分野における代表作。牡牛座のあたりに位置するプレイアデス星団に因んだ曲集。献呈：音楽之友社



【楽譜】「デュオ・メイト・ジュニア2/デュオ・メイト3」岡利次郎著 (カワイ音楽企画編) 先生と生徒のための「デュオ・メイト・ジュニア」、同じ程度の力を持った人々のための「デュオ・メイト」 献呈：カワイ出版



【楽譜】「プライマリーピアノソートB〜はじめのピアノレッスン〈れんだん〉方式」岡利次郎著 (カワイ出版) 読みはじめ、導入のときの色々なことがこの1冊で練習できる総合的な本 献呈：カワイ出版



【書籍】「Selected Piano Works of Emmanuel Chabrier - Stylistic Analysis-」金田 真理子著 NY市立大学大学院修士論文としてジャプリエの作品に関する研究論文を提出。見事修士号を取得した。献呈：金田 真理子



【楽譜】「C.ドビュッシー 12の練習曲」監修 G.Mニエ/校訂 山崎孝 (音楽之友社) ぐらしき作陽大学の助成を受けて作成された曲集。 献呈：音楽之友社



【書籍】「頭の体操〜永遠の謎編」多湖 輝著 (光文社) デジタルな裏にアナログ発想で挑戦。リンクをたどり、ネットに隠された「謎」を解け！ 献呈：多湖輝



【書籍】「子供のためのピアノ指導書」但昭義著 本年度ピティナ・ピアノコンペティション審査員として来日されたダン・シャロイ教授による、子供のためのピアノ指導書。(日本語対応なし) 献呈：但昭義



【CD】「Les derniers romantiques」Saint-Petersbourg (ASV) Duo CHIN/COTTET piano a quatre mains ラフマニノフ/アレクサンダー・スクリャービン他収録 献呈：ジャン＝マリー・コテ



【CD】「リヒャルト・シュトラウス 歌曲集」白石敬子著 (カメラータ・トウキョウ) R.シュトラウスの魅惑の歌曲をウィーン風の味付けで、私達に届けてくれる。 献呈：白石隆生



【書籍】「祝祭の都ザルツブルグ音楽祭が育てた町」小宮正安著 (音楽之友社) ドイツ文学、ヨーロッパ文化史が専門領域の新進気鋭の著者が書き下ろした書。ザルツブルグという町と祝祭の独特な関係に注目し、そのあり方を探る。 献呈：音楽之友社



【楽譜】「とっておき名曲集〜おとなのピアノ〜」三浦 寿之編曲 (全音楽譜出版社) 交響曲、ジャズ、タンゴ、室内楽、コンチェルト、ピアノ曲など、あらゆるジャンルの曲をまとめたピアノ編曲集。 献呈：全音楽譜出版社



【楽譜】「ピニー動物園 ピアノがひけたワン〜」キャサリン・ロリン (全音楽譜出版社) ピニーの動物が冒険するイメージや物語を、生徒達が音楽の目標を達成するのに使うという発想から生まれた曲集。 献呈：全音楽譜出版社



【書籍】「ピアノを読む〜楽器をめぐる歴史と作品、そして演奏家〜」岳本恭治 (音楽之友社) 献呈：音楽之友社

お詫びと訂正

会報225号 (7月末発行) ならびに「第25回ピティナ・ピアノコンペティション 結果特集号 (会報誌226号)」に訂正がございます。ここに深くお詫びいたしますとともに訂正させていただきます。

<会報225号>

- p70 ショパン連続演奏会V 中井正子 (ピアノ) 誤) 東京原題音楽アンサンブルComeT 正) 東京現代音楽アンサンブルCOMeT

<結果特集号 (会報誌226号)>

- P102 追加：中部日本デュオ デュオ初級B あしながおじさん賞 迫川菜美さん 迫川美紀さん
- P122 訂正：東北熊谷 A1級 予選優秀賞・和幸賞 田野美雅子さん⇒尾崎優衣さん
- P122 訂正：千葉前期 特別賞名 兵藤楽器⇒近藤楽器
- P173 訂正：千葉前期 後援・協賛先 兵藤楽器⇒近藤楽器
- P42 訂正：デュオ特級 瀬尾久仁さんと加藤真一郎のプロフィール、コメントが逆に掲載されております。
- P213 追加：大阪中央堺地区 A2級 清水里紗さん
- P48 訂正：宮澤功行先生プロフィール 桐朋学園大学ピアノ科入学、井口愛子・井口基成・斉藤秀雄・小林武史の各氏に師事。演奏活動を続ける傍ら、1970年より教育活動を始め、以後30年間に渡り、毎年各種ピアノコンクールで上位入賞者を輩出し続けている。また、各国際コンクールで審査員も務める。現在札幌コンセルヴァトワール院長、ピティナ評議員。
- P194 訂正：入賞者記念コンサート広告 誤) 服部祐奈 ⇒正) 服部祐佳

■P39写真の訂正 A1級ベスト賞 中村美里さん



■P153追加：アカデミック部門 池田みづほさん (東京音楽大学2年) ■P153追加：アカデミック部門 花井美沙子さん (東京外国語大2年)



左) 池田みづほさん 右) 花井美沙子さん

■P155追加：シニア部門 優秀賞 安藤容子さん (神奈川県藤沢市・主婦) ■P155追加：シニア部門 奨励賞 大谷美代子さん (福岡県大野城市・ピアノ教師) ■P155訂正：シニア部門 奨励賞 板東浩さん (徳島県徳島市・徳島大医学部第一内科医師)



左) 安藤容子さん 中) 大谷美代子さん 右) 板東浩さん

先生紹介サービスのご案内

～先生・生徒の出会いをお手伝い

ピティナでは会員登録の際の自己PR文その他データをもとに、先生紹介サービスを行っています。現在年間500件ほどご利用頂いております。申請方法は下記の通りです。

- (1) 先生紹介願いに記入
 - (2) ピティナから先生にご連絡
 - (3) 先生と直接連絡を取り詳細決定
- 先生と直接話し合い、レッスン見学または初回レッスンの日程、月謝などを決めて頂きます。なおレッスン開始に至らない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。

*インターネット経由のお申込みも可!

<http://www.piano.or.jp/teacher/index.html>

ご希望の方には、インターネットの先生紹介コーナーに自己PR文を掲載させていただきます。(プライバシー保護のため、氏名は伏せております)

●お問い合わせ先：ピティナ「先生紹介」係 早川 Tel:03-3944-1583 Fax:03-3944-8838



今号より、新企画として、事務局長インタビュー「一流に学ぶ」を連載する。ピアノ教育という、ある意味狭い世界の外側では、今何が起きているのか？ 違ったジャンルで一流の仕事に携わっている様々なお立場から、今後のピティナの運営にヒントをいただくことが狙いである。

今回は、「日経ビジネス」の編集長、野村裕知氏にお会いした。各業界の交差点とも言うべき立場で、32年の歴史を持ち、毎週35万部も発行されている「超一流のビジネス雑誌」。福田成康事務局長が、最も永い年月愛読し、ピティナの「経営」にも様々な影響を与えた媒体である。(企画：堀 明久)

新連載 事務局長インタビュー

「一流に学ぶ」

第1回 日経BP社「日経ビジネス」

編集長 野村裕知氏



福田：「日経ビジネス」の読者として12年、当協会の会報「Our Music」のコンセプト作りにも大いに参考にさせていただいています。200ページにも及ぶ誌面全体を通じて、文体に統一感が保たれていること、冷静な取材のスタンスを貫いていること、今ももっとも知りたいビジネスの情報が的確な視点からタイムリーに提供される点など、圧倒的なレベルだと思います。

野村：実は、読みきれなくて購読を中止する読者がいたりします。カロリーが多すぎ、とか(笑)。記者・編集者含め55名がフル稼働です。文芸誌系の雑誌の場合は、気難しい(笑)作家に書いていただくために、深夜までバーに付き合う、といった作業が必要でしょうが、ビジネス誌は記者自身の問題意識が主体です。それがある種の統一感をもたらしているのだと思います。

福田：「日経ビジネス」の記事が世論を作る、という部分もあると思います。あらゆる問題に深く鋭く迫る取材には、明確なポリシーが感じられますが、具体的にはどのようにされるのでしょうか？

野村：本当のプロとは何か。一人一人が考えるという事に尽きるのではないのでしょうか。例え

ば、その昔、立花隆氏が田中角栄元首相の金脈問題を取り上げた時、多くの新聞記者が「そんなことは知っている」と反応したのです。それはうそではない。彼らは知っていたのです。ではなぜ、一行も書かなかったのか？ ジャーナリストはプロの書き手ですから、「知っている」という言葉を普通の人と同じ感覚で使ってはいけないのです。単に知識があってもダメで、書くレベルまで突き詰めて理解して、初めて、知っていると言えるのだと思うのです。

誰でもアイデアはある。では、あなたはそれを書くレベルまで事実確認したのか？ 想定されるリスクに対して勇気をもってふみきることができるかどうか？ それが分かれ目ですね。

「日経ビジネス」の場合、記者のアイデアから書くまでの制約が少ない、と言えます。広告にからめての掲載はしませんし、批判的な記事を書くとも広告を引き下げる、といった脅しにも屈しない姿勢を貫いています。

もちろん、取材の「裏付け」は必要です。たとえば、ダイエーの特集の時は、70名くらい取材しました。普通の取材なら社長へのイ

ンタビューで申し訳だったりしますが、組織を動かす力には末端の販売スタッフも含まれています。真実に限りなく近づくために、オモテに出てこない部分も明らかにしておく。日本画家の東山魁夷氏が、背景として見えてこない部分もきちんと描き込むのが大事だ、ということを生前、おっしゃっていましたが、プロの仕事は同じだと思います。

福田：大変読みやすい誌面ですが、そのクオリティを保つにも、秘訣がありそうですね。

野村：「日経ビジネス」の最大の財産は読者ですね。我々の雑誌は書店売りの比率が小さく、読者の多くが定期購読者です。ですから、逐一アンケートを送って、ひとつひとつの記事に対する読者の反応を集めているのです。たとえば、この10月から誌面を一新したところ、フォント(字体)が変わったなど、微妙な変化に気付く読者が結構いらっしゃいます。2年サイクルくらいで編集長や記者が代わりますから、「週刊新潮」のような名物編集長はいませんが、土台である読者が監視役・チェック役の機能を果たしているため、担当者が変わってもコンセプトがブレないわけです。

また、新聞社やテレビ局は、ニュースの順番を勝手に決め、ピラミッドの頂点とされている部分にターゲットをあてすぎるきらいがあります。財務省が発表したニュースは、町の出来事より「大きい」と認識されたり、発信する機関の権威によってある程度順番がついたりします。マクドナルドの藤田田社長やユニクロの柳井正社長などは日本の経済界の序列では中心ではありませんが、我々はどうした方々を掲載したほうが、読者の反応が良いことを知っています。それが、大本営発表よりも現実を映していることを、読者から日々、教えられているのです。

福田：最近の「教育」に対して何か感じることはありますか？

野村：いわゆる公教育(学校教育)は、日本の中で最もダメな部分ですね。日本の中で強い企業のひとつとしてトヨタがありますが、トヨタがなぜ強いかというと、グローバルな競争の中のマーケットでもまれ続け、世界規模で戦う中で、顧客と向き合っ、マーケット(顧客)から修正され、鍛えられた、ということでしょう。それに比べると、公教育の現場で

ピティナ通信
北から南から



は、「洗礼」を浴びる機会が無くて、つまらない。公教育という名の、官教育なわけです。それに関わる個々の人々は創意を持っているのに、それをブルドーザーでならすようなかたちで均す作業が延々と行われてきたのです。これを突き崩す構造も無い。

福田：当協会は、そういう意味では、本質的な切り口から日本の教育の一端を担っている、と自覚しています。幸いにも、周辺には「熱い」人ばかりです。

野村：学習塾などは、ある種の競争・目標があるので、そのあり方はともかく、そこで働く人は面白い。あと、サッカーなどの指導者も、熱意に燃えている人が多く、素晴らしいと思います。共有している理念があることと、闇雲に勝つのでなく、世界の中での目標設定—比較対照するある種の

マーケット—があります。ピアノ教育に携わる人もそういう観点から見ると、幸せですね。客観的な達成度・自己実現があります。「Our Music」は、個々の人の喋る内容が前向きで、いわゆる普通の教育雑誌に比べて「違和感」を抱きながら



読みました。名経営者として知られるGE（ゼネラル・エレクトリック）のウェルチ前会長のキーワードをご存知でしょうか。人をエンジャイズ（精力を与える、激励する／研究社Excite辞書のホームページより）して、ストレッチ（領域を越える）すること。これに尽きる気がします。ある経済人が言っていたのですが、エデュケーションの語源はラテン語のeducatus—「良いものを外に引き出す」と

福田成康事務局長の取材後記

10月8日で創刊1,111号を数えながら、なおマンネリ化せず価値ある記事を送り続ける「日経ビジネス」の成功には、必ず何か秘訣がある、と確信して臨んだ取材でした。

実はそのクオリティを支える一番の要因が「読者の声」である点、あくまで基本に忠実な雑誌であることを実感しました。

という意味—だそうですね。日本の教育者は引き出す喜びが獲得できていないのでは。最近では、落合博満さんのコーチング論（落合博満著『コーチング言葉と信念の魔術』）がおもしろかったです。2軍で選手の素振りをずっと見ている。疲れてくるともとのフォームに戻るが、戻るということは「それはあなたが一番打ち易いフォームなのだ。」と指摘する。いろいろ、根気がある作業なのですね。

福田：当協会の方向性に共感していただけて、大変心強いです。

野村：これまでのさまざまな取材活動を通じて、世の中で偉いと思われている人が意外とそうでもない、と思えるようになりました。やる気のある人はそれ以外にも大勢いることに気付いたのです。会社でいえば、社長はダメでも、意欲ある社員は大勢います。特に20代は、就職に苦労しているの、若い時から真剣度が違います。

福田：そういう意味で、これから先、日本の株は結構「買い」ではないかと思えます。本日は、35万部という圧倒的実績の背景が実証された気がします。ありがとうございました。

「日経ビジネス」バックナンバーの記事検索は次のアドレスより。
<http://kijiken.nikkeibp.co.jp/>



ピアノ指導者業界やクラシック音楽業界では、どこまで顧客の声にさらされているか、ピティナ自体、もっと会員からのフィードバックを取るようになればと、反省しています。

まずは、会報の「記事別被読率調査」のために、電話などをさせて頂くかもしれませんが、よろしくご協力のほど、お願いいたします。

<特集1>

●多胡先生のコミュニケーションの技術を磨くということで、相手の信頼を得るということは、とても勉強になりました。「人と人」のつながりが基本だと思いました。（127934・大阪府堺市）

●「プロの指導者」とは教えることのプロであり、研究者であると思います。学生の頃に勉強した知識のみ、自分の先生の教え方のコピーでは行き詰まりが必ずおとずれます。常に向上心と研究心で自分自身の指導法を身に付ける努力をしていきたいものです。ピティナの指導者セミナーや誌上セミナーも大いに参考にさせて頂いています。（142885・神奈川県川崎市）

●いろいろな方面、角度から”プロの指導者”というテーマにアプローチしたこの特集を読み、自分自身に問い掛ける機会を得ました。ケース・スタディー等も、具体的で多くの大切なヒントがあり参考になりました。それぞれの先生方の人間的魅力が伝わってくる特集でした。（153007・神奈川県横浜市）

●『ケース・スタディとアンケート結果』は、自分の指導者としての姿勢と重ね合わせて読みました。まだステップには生徒を参加させてはみませんが、とても参考になりました。「父兄と対応のコツ」も、共感する回答があり、興味深く読ませていただきました。（156389・静岡県榛原郡）

<特集2>

●特に電子ピアノやアンサンブルの記事は、実際にレッスンで使いたいと思っているので参考になりました。（146598・京都府京都市）

●特集2はどの先生方の講義もすばらしかったのですが、特に熊谷先生の様々な基礎が興味深かったです。レッスンをしていく上で、自分では分かっていても生徒にどう伝えるかなどとても具体的に分かりやすかったです。（155747・滋賀県大津市）

●「ピアノで歌うってどういうこと？」というテーマには、子供たちにどのように分かりやすく教えられるか、改めて考えさせられました。（135893・三重県一志郡）

●電子ピアノは日常的に（10数年）使用しているし、生徒が「ピアノの代わりに」所有しているので参考になりました。各音楽大学の内容が分かって面白い。（100960・東京都文京区）

●指導者会員ではありますが、音大を卒業しても指導に関しては、自分の教わった様にしか教える事ができないのですが、中でもツェルニー等は公開レッスンも少ないので、大変参考になりました。（138971・静岡県焼津市）

<連載>

●子供を持つ親として、ピティナで活躍なさっている方々の思いなどを垣間見る事が出来、励みにもなり、大変勉強にもなります。すごいなー！と思う反面、時々安心する事もあったりして嬉しいです。（105315・千葉県茂原市）

●（ピティナっ子レポート）いつもスミからスミまで読ませていただいています。泉ゆりのさんは、10年以上も前私が生徒とともにPTNAで勉強させていただきはじめたころ、初めて全国大会に生徒を出させてもらった時に、たまたまA1級の会場で演奏を聴き絶対金賞だ！と確信し、そのすばらしい音色、才能に感動した、私や生徒にとって衝撃的な人でした。以来憧れ続けてずっとずっと毎年の演奏を楽しみにしておりましたので、今回特集は嬉しかったです。いつか我ふるさと（田舎ですが）で演奏会をしていただけののが私の夢です。（103034・島根県江津市）

●コンペ開催期間中は、皆様々な想いを抱えていると思います。その時に活躍している子も同じように悩みを持ち人間的にも成長している様子をうかがえる事は読者にとってもほっとすると同時に勇気付けられますね。皆、頑張っているのだなと。（100133・神奈川県大和市）

●(Let's STEP Up!) 現在、趣味としてピアノを習っている教え子達もこのように音楽のある楽しい人生を送ってほしいと思い、コピーして読ませてあげたくまりました。（106891・愛媛県伊予郡）

会員のみなさまのお便りをお待ちしております。
ご近況、ご要望、ご提案などお寄せ下さい。
同封のアンケートはがきをご利用頂いても結構です。
〒170-8758 東京都豊島区巣鴨1-15-1
(社)全日本ピアノ指導者協会
本部事務局 編集部 ourmusic@piano.or.jp



美味

写真) 昨年度ピティナ・ピアノコンペティション
祝賀パーティにて談笑する福田靖子専務理事。

いっつか、当協会会報「OUR MUSIC」も、227号を数えるに至った。その間、およそ30年経っているわけだから、第1号から関わっている筆者は、その当時より30歳以上、年を重ねたわけだ。若い頃、30歳以上の人を見ると、ずいぶんおじいさん・おばあさんに見えたものだが、自分がこれだけの年を経てくると、まだまだ若いと感じる。

先 日、筆者は深い眠りから目が覚めた。ここはどこだろう、と思ったら、国立ガンセンターの個室であった。自分はいつガンになっていつから入院していたか、その深い眠りの中では何の意識も無かった。目覚めたばかりの静けさの中で、しばしこれまでのことを思い返した。

九州・鹿児島島のサツマイモと並んで、その土地が誇るイモ類だが、その値段を聞いてびっくりしてしまった。東京で買う方が廉価な気がしたからだ。

何と云っても、とれ立てのものを食することが一番である。東京・新宿にある店の魚が美味しいと聞く。いけすに泳いでいる魚をひよいとすくい上げ、すぐさばいてくれるらしい。今その瞬間まで生命が有った生き物の息の根をとめて食べるのだから相当残酷なことをしているのに、そんなことよりも食べる方に頭がい。このようなことは、方々で無意識のうちにやっているに違いない。若いうちからあまり贅沢はおすすめできないが、食べ物の好きな人とサークルを作った東京じゅうの美味しいところと言われているお店で、とれ立てのものに出会えたら楽しいだろうと思う。

冒頭に書いたように、「OUR MUSIC」227号に至って、筆者は今まで何をしてきたのか。そしてこれから何をせねばならないのだろうか。趣味として美味しいものを求め、そして素晴らしい演奏の音楽なども追求していこう。

ただただ働いて、病気ひとつ以外は働いていたから、人に「年に364日働いているのよ」と豪語していた。これがよくなかった。神様はちゃんと7日に1回の休息日を与えて下さっているにもかかわらず、無視してきたのだから、神様に30年間も背き続けてきたことになる。

筆者は生ものが好きなので、「生ものといえば魚・肉・野菜・・・」など、体を横たえながら思い浮かべた。魚が一番美味しかったのは焼津市のある料亭であり、肉は案外ピティナ事務局のすぐそばにある韓国料理屋のもの、野菜はあるホテルの食べ放題のレストラン・・・。入院前にはいずれもよく食べに行っていたので、ベッドの上から、今も営業しているか問い合わせていた。焼津の店にも10年近く行ってないので、高額になっているのか昔より安くなっているのかわからないが、退院したらぜひ生ものの好きな方と一緒に行ってみたいと思った。

ピティナなら、ステップを受の食へ歩く、ということもひとつの楽しみ方だろう。音楽を生で体験することは、美味しいものを食することに通じるかも知れない。

生ものはたたくさんある。新米を炊いてごま塩をかけて食べるのも非常に美味しい。プリンスホテルで食べる西洋料理は絶品だと思う。鰻はあまり好きではないが、鰻の美味しさはひとえにタレにある。ある漁師が、鰻をすくって蒲焼を作ってくれたが、タレが今ひとつだったのか、あまり美味しいと思わなかった。今は福岡県柳川の「どじょうの柳川」が食べたい。

こんな食の美味しさを考えつつ、床の上に寝ていることは、楽しみのひとつである。拙文を読んで、ここも美味しいですよとか、ここはもつと美味しいですよ、というお店があったら、ぜひ教えていただきたい。ことに、料理人の腕以上に、素材の新鮮さが食べる者を感激させる。

筆者はもともと贅沢な人間ではないので、一回に食する値段は6000円前後以内、基本は割り勘、としている。もし貴方と一緒に美味しいものを食べにいきましよう、とお誘いしたら、貴方はどこへ行くだろうか？

以上はピティナ事務局の近名物にも思いをめぐらせた。ピティナが全国に組織を広げ、各地を

訪問し様々な美味しいものを食べる機会に恵まれたことは、筆者の良いい出となった。特に海側の土地には美味しいものが多いようだ。しかし、筆者に言わせると、東京の人間だから東京の味が一番美味しく感じるのか、その土地土地の人が誇りに思うような食べ物、案外普通と思うこともあった。

九州のある場所で食べた馬肉は素晴らしく美味しいといってたが、筆者に言わせるとタレに研究がなされていない気がした。日本海岸のある店では、ひとり5000円と書いてあるの一人前オーダーしたら、8000円くらい請求された。「5000円と書いてあるから入ったのに、なぜ8000円なのですか？」と店の主に尋ねると、ひよいと5000円に下げてくれた。良い気持ちにはなかった。

下関でいただいたウニは大変美味しく感じた。それから、福岡の辛子明太などはその土地でとれるものではないと思うのだが、大変美味しく感じるの、そこに住む人々の味覚が優れているからだろう。釧路で食べたもずくも、忘れられない美味しさだった。北海道にはホクホクの馬鈴薯もある。

～ピティナ・ピアノコンペティション25周年・ピティナ創立35周年 記念企画～
ピティナのすべてがわかる5日間!

2002年 ピティナ・ワールドフェスティバル

<日程> 2002年3月27日(水)～3月31日(日) /27日は午後から
<会場> 東京音楽大学内の各施設/サンシャインシティプリンスホテル
<5日間の主な企画内容>

- 第25回ピティナ・ピアノコンペティション入賞者記念コンサート(3月27日～29日の3夜にわたり開催)
- 海外コンクール(Jr.ジーナ・Jr.ルーヴィンシュタイン・Jr.スタインウェイ)入賞者のゲスト出演あり。
- ピティナ・ピアノ指導セミナー(3月28日・29日)
- 初級: ジェーン・バスティン先生、ポール・ボライ先生、ヴァレリア・セルヴァンスキー先生、佐藤敏直先生
- 中級: ジャック・ルヴィエ先生、ロナルド・カヴァリエ先生、三善晃先生
- 学生・生徒のための合同留学セミナー(3月28日)
- ピティナ師弟コンサート(3月30日)
- ピティナ・トークコンサート(3月30日)
- メイン・コンベンション「ピティナ国際会議」(3月30日)
- ジャック・ルヴィエ(フランス)、ジャンネット・リタマン(英国)、ポール・ボライ(米国)、ジェーン・バスティン(米国)、橋本三恵子(日本)
- フェアウェル・パーティー(3月30日)
- ピティナ・ピアノライブ演奏会(3月31日)
- 音楽療法講座(3月31日)
- ピアノ指導者のためのコンピューター活用講座(3月28日・予定)
- ピアノ指導者のための音楽鑑賞講座(3月31日)
- コンペティション審査員長連絡会(3月28日) ●ステップアドバイザー連絡会(3月29日) ●全国支部連絡会(3月31日)



【5日間通し券】	～支部優先割引～	会員	18,000円	2002年1月31日	★支部・連絡所で予約受付★
【5日間通し券】	～支部優先割引～	一般	21,000円	2002年1月31日	★支部・連絡所で予約受付★
【5日間通し券】	～前売～	会員	21,000円	2002年2月1日～3月15日	
【5日間通し券】	～前売～	一般	24,000円	2002年2月1日～3月15日	
【1日券】	～前売・当日 共通～		8,000円	2002年1月31日	★支部・連絡所で予約受付★
【1日券】	～前売・当日 共通～		10,000円	2002年1月31日	★支部・連絡所で予約受付★
【1回券】	～前売・当日 共通～		3,000円	2001年9月1日～当日	
【1回券】	～前売・当日 共通～		4,000円	2001年9月1日～当日	
【パーティー券】	～前売～		5,000円	2001年9月1日～2002年3月15日	
【パーティー券】	～当日～		8,000円	当日	

●**会員の特典**

正会員 音楽教育に特に功績があり、当協会に賛同し活動して頂く方。協会運営にも参加
 指導者会員 ピアノ指導をされている方であればどなたでも
 学生会員 ピアノを学習されている中・高・大学生の方。特に将来音大進学を目指される方、ピアノ指導について学びたい音大生
 支持会員 ピアノを学習している小学生以下の保護者の方。音楽及びピアノ愛好者の方

●**入会金・会費**

正会員 入会金 10,000円/年会費 12,000円
 指導者会員・学生会員・支持会員
 入会金 3,000円/年会費 6,000円

●**お申込・お問い合わせ**

下記あてにお電話・FAX・電子メールなどで入会申込書をご請求下さい。
 社団法人全日本ピアノ指導者協会
 本部事務局 会員担当 宛
 〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1
 Tel. 03-3944-1583 Fax. 03-3944-8838
 e-mail: member@piano.or.jp

●**2001年度 新入会会員ご芳名**

(2001年7月15日以降入会)
 <正会員> *正会員に昇格された会員も含む
 下野宜大(東京都調布市) 石井愛二(神奈川県大和市)
 石原美登里(新潟県村上市) 石井之枝(茨城県稲敷郡)
 島田恵子(愛知県名古屋市中区) 岡田佳代子(千葉県習志野市)
 <一般会員>165名
 全会員数 7,691名(2001年10月9日現在)

●**会員をご紹介下さい**

<正会員>優秀な人材をぜひ正会員にご推薦下さい。
 1) 「正会員推薦書」を左記会員担当あてにご請求
 2) 推薦者2名(当協会正会員を2年以上勤められた方)から推薦署名
 3) 当協会本部へ郵送⇒理事会・運営委員会にて審査
 <一般会員>どなたでもご入会可能です。随時受付中。

社団法人全日本ピアノ指導者協会 **賛助会員御芳名**

ヤマハ株式会社 株式会社河合楽器製作所
 東日本旅客鉄道株式会社 ローランド株式会社
 株式会社全音楽譜出版社 学校法人東京音楽大学
 株式会社パイロット 三井ホーム株式会社

株式会社音楽之友社
 株式会社丸一ピアノハーブ社
 株式会社松尾楽器商会
 株式会社日本ベーゼンドルファー
 スタインウェイ・ジャパン株式会社
 株式会社ジェイティーピー
 株式会社松澤書店
 学校法人国立音楽大学
 株式会社J EUGIA
 株式会社レッスンの友
 ソニー株式会社
 学校法人洗足学園
 学校法人東邦音楽大学
 ALLEGRO Co.,Ltd.
 株式会社アコースティックエンジニアリング
 株式会社カナオカ工藝
 後藤 正治

ピティナ・ピアノコンペティション
全国決勝大会
 <後援>
 文部科学省 東京都
 <褒賞協力団体>

読賣新聞社
 トヨタ自動車株式会社
 ビノキ新薬株式会社
 学校法人洗足学園
 社団法人日本絹業協会
 株式会社ミキモト
 三井ホーム株式会社
 日本フィルハーモニー交響楽団
 全日本空輸株式会社
 株式会社ジェイティーピー
 株式会社王子ホール

ピティナ会報/わたくしたちの音楽
「Our Music」 227号

2001年10月30日発行/定価850円
 会 長：羽田 孜 発行人：福田 靖子
 編集委員：福田成康(委員長)、青野寿々子、秋山徹也、江夏範明、佐土原知子、霜鳥美和、高木紀子、武石とも子、田中麗子、久元祐子、宮本聖子
 事務局：霜鳥美和、菅野恵理子
 発 行：社団法人全日本ピアノ指導者協会
 〒170-8458 東京都豊島区巣鴨1-15-1
 TEL:03-3944-1583 FAX:03-3944-8838
 e-mail: ourmusic@piano.or.jp http://www.piano.or.jp
 印刷所：錦明印刷株式会社



ALL FOR YOU.
 ANA

...でも、お客様のご声にお応えしたい。
 ...と多くのお客様の実例に出会うたびに、私達も「もっと」を求め、飛ぶのを止めることが
 ...もならば、できるか運命の糸を、と探っています。それは、お客様と一緒です。そして、場所でお話をする。
 ...大層なのは、どんな場面でも全てのスタッフが、お客様が喜ばれるように、一生懸命に頑張る。
 ...小さなことほど丁寧は、当たり前のことほど、大切に、大切に。私達は時代の変わりゆく中で、揺るぎのない
 「全日空らしさ」だと考えます。お客様のために、お客様を笑顔にするために。
 ...もっともっと「よかったね」を思っていたらいいな。
 ...いつもお客様のことをいちばんに考えるエアラインを、私達もこれからも大切にします。

 **YAMAHA**

芸術表現の世界がひろがります。



CF III S

YAMAHA CONCERT GRAND PIANO

ザ・シンフォニーホール

ヤマハ株式会社